英語及びモンゴル語の時制、アスペクトに関する対照研究

MANDAKH OYUNCHIMEG

大好きだった祖母 Ch.チュルーンに、私をこの世に生んでくれた父、母に、いつも支え、励ましてくれる主人に、そして私にとっての幸せである二人の息子に捧げる。

省略記号

S: Subject

O:object

V: verb

C: complement

N:noun

A:Adjective

PROG: progressive

SUBJ: subject

FUT: future

VIS: visual

PST: past

PFV:perfective

PP:past participle

DIR. EVD: direct evidential

INDIR. EVD: indirect evidential

PRES: present

ϕ : zero marker

目次

第一章

序論

1.1.研究目的および範囲

本論文は、英語[1]およびモンゴル語[2]における文法的範疇としての時制、アスペクトに関する対照研究である。本論文では、英語の単純過去形 (-ed/-d)とそれに対応するモンゴル語の形式および表現、英語の単純現在形 (-φ/-s)とそれに対応するモンゴル語の単純非過去形 (-na)[3]、英語の進行アスペクト形式 (be V+ing)とそれに対応するモンゴル語の進行アスペクト形式 (V+j/ch bai-)を研究対象として扱う。両言語における上記の形式それぞれを意味論、語用論、統語論の立場から考察し、両言語の類似点と相違点を明らかにすることを目的とする。具体的には、第 1 に、両言語におけるテンス、アスペクト形式を形態論的手段（屈折的表現、派生的表現）、統語論的手段（自由文法的形態素、統語的表現）という 2 つの視点から考察し、類似点と相違点を明らかにする。第 2 に、英語の単純過去形 (-ed/-d)それに対応するモンゴル語の形式および表現の対応関係を明らかにし、それらのずれに着目する。第 3 に、英語の単純現在形 (-φ/-s)およびモンゴル語の単純非過去形 (-na)の意味・用法を考察し、両者の共通点および相違点を明らかにする。第 4 に、言語における文法的アスペクトと語彙アスペクトの相互作用の観点から英語およびモンゴル語の進行形と語彙アスペクトとの共起性およびそれらの表す意味の共通点および相違点を明らかにする。英語はインド・ヨーロッパ語族に属する屈折語であるのに対し、モンゴル語はアルタイ語族に属す

[1]本論文で扱う英語は、現代の標準イギリス英語である。
[2] 本論文で扱うモンゴル語は、モンゴル国で話されている標準語であるハルハ方言を指している。
[3] モンゴル語の接尾辞は母音調和による 2 種から 4 種までの交替形を持っている。橋本（監修） (1993:121) によると、7 つの基本母音は、その調音上の舌の位置によって、男性母音（後舌母音）と女性母音（前舌・中舌母音）に分類される。このとき、и は、第 1 音節では女性母音だが、第 2 音節以下では、その性格上、中性母音と呼ばれる。モンゴル語では、同一の単語内に男性母音(a, o, y)と女性母音(э, ө, ү)は共存できない。中性母音(и)はどちらとも共存できる。この現象を「母音調和」(Vowel Harmony)という。塩谷・中嶋 (2011:7) によると、付加される接尾辞の母音は、基本的には初頭音節における母音の性に準じる。例えば、モンゴル語の単純非過去形は母音調和により-na、-ne、-no、-nö という 4 種類の交替形を持っており、本稿においては-na のように省略表記する。

またモンゴル語 のキリル文字は次のように表記する。

а-a, б-b, в-v, г-g, д-d, е-ye, ё-yo, ж-j, з-z, и-i, й-i, к-k, л-l, м-m, н-n, о-o, ө-ö, п-p, р-r, с-s, т-t, у-u, ү-ü, ф-f, х-h, ц-ts, ч-ch, ш-sh, щ-sch, ь-`, ъ-``, ы-yi, э-e, ю-yu, я-ya.

る膠着語であり全く異なった語族に属し、文法体系は異なるが共通点もあることが予想される。また、一方の言語だけを見ていたのでは明らかでない事象が、他の言語との対照により明らかになることが期待される。

1.2.研究の意義に関して

本研究の意義に関しては、両言語を学んでいる学習者たちが直面する問題を軽減し、さらに、英語、モンゴル語の両言語における時制、アスペクトの対照研究を通じて、言語普遍性の問題に僅かであれ貢献するという点が挙げられる。

1.3.方法論および使用するデータ

二言語を対照した先行研究の多くは、文学作品の原作とその翻訳を用いた分析を試みている。本研究でも同様に、両言語において対訳された文学作品を主な資料として扱い、モンゴル語から英語への、英語からモンゴル語への原文とその訳本の対応を調べ、両言語間にどのような対応関係が存在するのかを統計的に提示し、そのずれに着目する。本研究において使用するテクストは、三人称の小説である Rowling (1998)の *Harry Potter and the Chamber of Secrets* とそのモンゴル語訳本 Myandas and Batsoyombo (2011) “Харри Поттер ба нууцат өрөө”および 一人称の小説である Chase (1959) の *What’s better than money* とそのモンゴル語訳本 Чойжил (1995) “Мөнгө шиг сайхан юм юу байна? ” の４つである。さらに、本研究では、論文、教科書、文献等に挙げられている例文も用いられている。

1.4.本論文の構成

本論文は全八章から構成されている。**第一章**では、本論文の目的、範囲、意義、方法および使用されるデータ、構成、モンゴル語の概説について述べる。**第二章**では、本研究に関係する時制、アスペクトに関する主な理論的概念について概説する。**第三章**では、両言語における時制、アスペクトに関する先行研究をまとめる。**第四章**では、Bybee (1985)においてセマンティック要素が結合可能と指摘されている、語彙的表現 (lexical expression)、屈折的表現 (inflectional expression)、派生的表現 (derivational expression)、自由文法的形態素 (free grammatical morphemes)、統語的表現 (syntactic expression)、これら 5 つの手段の区別に基づいて、形態論的手段としての屈折的表現、派生的表現および統語論的手段としての自由文法的形態素および統語的表現に焦点を当て、両言語

において時制、アスペクト形式はどの手段によって表されているか、またどのような意味を表すか、相互にどのような点で共通であったり、異なったりするのかを明らかにする。**第五章**では、物語の会話文における英語の単純過去形 (-ed/-d)とそれに対応するモンゴル語の形式および表現を考察し、英語の単純過去形 (-ed/-d)は、モンゴル語では単純過去形 (-v、-laa、 -jee/-chee)だけではなく、単純非過去形 (-na)、アスペクト形式、動名詞、連用語尾、ムードおよびモダリティ形式、動詞を持たない文および節に対応することを明らかにし、そのずれに着目する。また、モンゴル語の単純過去形 (-v、-laa、 -jee/-chee)は、英語のどの形式および表現に対応するかを考察し、そのずれに着目する。**第六章**では、英語の単純現在形 (φ/-s) 及びモンゴル語の単純非過去形 (-na)の意味・用法を 1.現在状態的用法、2.現在瞬間的用法、3.現在習慣および反復的用法、4.指図を与える用法、5.未来時に言及する用法、6.過去時に言及する用法、7.モンゴル語の単純非過去形 (-na)の進行的用法の 7 つに分けて考察し、類似点および相違点を明らかにする。**第七章**では、英語とモンゴル語の進行アスペクト形式を扱い、Smith (1991)により提唱されている基礎的な状況タイプとしての状態、活動、達成、一回的動作、到達の 5 つのタイプとの共起性およびその表す意味を考察する。そして、状況の 5 つのタイプとの共起性に関しては英語の方が状態述語において様々な制限条件が関わっているという大きな相違点があるが、表す意味に関しては 5 つのタイプごとにそれほど大きな相違点がないことを指摘する。**第八章**では、本論文で取り上げた全ての章のまとめとして、英語とモンゴル語の時制、アスペクトを扱った本論がたどり着いた結論を述べる。

1.5. モンゴル語の概説

モンゴル国は、東アジア北部に位置し、東と南を中華人民共和国（中国）・内モンゴル自治区、西を中国・新疆ウイグル自治区、北をロシアにそれぞれ接している。面積は 156 万 4,100 平方キロメートルであり、人口は約 293 万 0300 人（2013 年）である [4]。

現在モンゴル国では、1.モンゴル語：ハルハ方言、ブリヤート方言など（言語系統：モンゴル諸語）、2.カザフ語 [5]（言語系統：テュルク諸語）、3.トゥヴァ語 [6]（言語系統：テュルク諸語）が話されている。

Төмөртогоо (2002:9)によれば、モンゴル語母語話者はモンゴル国およびロシア連邦国の東シベリア、イジル川の末流、中華人民共和国の内モンゴル自治区、マンジュールの一部、ガンス、新疆、ツィンハイ県、アフガニスタンのヘラット、マイマナなどに住んでいる。さらに Төмөртогоо

[4] Монгол улсын статистикийн эмхэтгэл (2013:30)による。
[5]カザフ民族の言語であり、話者はバヤンウルギー県、ホブド県、ウランバートル市のナライフ区に住んでいる。バヤンウルギー県の社会共通語で、学校教育はモンゴル語とカザフ語で行われる。
[6] トゥヴァ民族の言語であり、話者は極少数で、フブスグル県、バヤンウルギー県に居住している。

は「モンゴル系諸言語として以下の 10 言語が話されている」と述べている。

1.中央モンゴル語（**ハルハ**、ダリガンガ、ツァハル、ハルチン、ホルチン、オルドス）

2.南モンゴル語（ツァハル、オルドス、バーリン、ハルチン、ホルチン、シリーンゴル）

3.オイラト語（ドルヴェッド、ザハチン、トルグード、ミャンガッド、ハリマッグ）

4.ブリヤート語（ホリ、バルガブリャード、バルグージン、エヒリット、ブラガット、アァル、ツンキン、ツォンゴール、サルツール）

5.モゴール語（ヘラット、バダクシャン、マイマナ）

6.モングォル語（ミンヘ、フツ）

7.ダグル語（ハイラール、チチガール、ブタハ、クルジャ）

8.ドゥンシャン語

9.バオアン語

10.ズーンウイガル語

亀井・河野・千野 (1998:518-519)は、モンゴル系諸言語が 1.西方群（カルムイク語、オイラト語）、2.北方群（ブリヤート語）、3.東方群（内蒙古語のハラチン方言、ホルチン方言）、4.中央群（ハルハモンゴル語）、5.南方群（内蒙古語のチャハル方言、オルドス方言）、6.孤立的諸言語（ダグル語、シラ・ユグル語、モングォル語、バオアン語、ドゥンシャン語、モゴール語）であると述べ、それらを地理的に分類している。

世界のモンゴル民族の人数は 700 万人位であるが、モンゴル語を話している人数は約 500 万人である (Төмөртогоо 2002:9)。

現在モンゴル系の民族としては、モンゴル国や中国内のモンゴル族をはじめ、ソ連邦内の、カルムイキ (Kalmuck) 族、ブリヤート (Buriat) 族、中国内の、ダグル (Dagur) 族、ユグル (Yögur) 族、モングォル (Mongour) 族、バオアン (Baoan) 族、ドゥンシャン (Dungshang) 族、アフガニスタンのモゴール (Moghol) 族などが数えられる（亀井・河野・千野 1998:517）。

モンゴル語はアルタイ語族に属する膠着語であり、言語学者たちは 18 世紀の前半から中央アジア、ウラル、シベリアに住んでいる人々の言語や方言を比較対照し、それらの言語に音韻構成、語構造、文構造、語彙の面で互いに類似点が多数あることを観察し、トルコ語、モンゴル語、満州語、ツングース語を含めてアルタイ語と呼ぶようになった。言語学においてアルタイ諸言語を最初に研究対象とし、その基礎を築いたのは言語学者 I. Stralenberg (1676-1747)である(Томтогтох 2009:101)。

アルタイ諸語であることが確実とされる言語グループには以下の 3 つがある。

1.ツングース語派（エヴェンキ語、満州語など）

2.**モンゴル語派**（**モンゴル語**、ブリヤート語など）

3.チュルク語派（アルタイ語、トルコ語、ウズベク語、カザフ語など）

日本語、韓国語をモンゴル語、ツングース語、トルコ語などのアルタイ諸語と結びつける意見もある。

モンゴル語の歴史は通例古代モンゴル語（〜13 世紀初期）、中世モンゴル語（13 世紀〜17 世紀）、近代モンゴル語（17 世紀〜20 世紀）、現代モンゴル語（20 世紀〜）の 4 つに時代区分される。

亀井・河野・千野 (1998:514-515)によるとモンゴル国内の口語方言を以下の 4 つに大別することができる。

1）**ハルハ方言**

2）オイラト方言

3）ブリヤート方言

4）ウズムチン方言

さらに、ハルハ方言は、以下の 3 つに分けられる。

a.東部ハルハ方言（ドルノド、スフバータル）両アイマク、及び、ヘンティー、アイマクの東部と南部）

b.中部ハルハ方言（セレンゲ、トゥブ、ドンドゴビ、ドルノゴビ、ボルガン、アルハンガイ、ウブルハンガイ、バヤンホンゴル、ウムヌゴビ、ザブハンアイマクの東部、フブスグルアイマクの東部と南部であり、現代の文章語の正書法は中部ハルハ方言に基づいており、標準発音もこの方言の特徴を反映している）

c.西部ハルハ方言（ゴビアルタイアイマク、ザブハンアイマクの西部と北部、フブスグルアイマクの西部と北部、ホブドアイマクの東部）

モンゴル語の歴史において、モンゴル民族は 13 世紀から今世紀に至るまで**ウイグル文字**（13 世紀）、**パスパ文字** (1269)、**トド文字** (1648)、**ソヨンボ文字** (1686)、**ワギンダラー文字** (1905)、**ラテン文字** (1930)、**キリル文字**（1942〜現代）の 7 つを用いてきた[7]。

現在モンゴル国で用いられているキリル文字は基本母音字 7 つ (а, э, о, ө, у, ү, и)、補助母音字 6 つ (е, ё, й, ы, ю, я)、20 の子音字 (б, в, г, д, з, ж, к, л, м, н, п, р, с, т, ф, х, ц, ч, ш, щ)、 記号文字 2 つ (ь,ъ)の合計 35 文字により構成される[8]。

造語的、文法的な語形変化は、語幹に様々な接尾辞が付くこと、および複合により実現される。モンゴル語は、安定した語幹に、次々と接尾辞が付着して単語が形成される典型的な膠着的言語

---

[7] ラテン文字、キリル文字に関してはモンゴル国に住んでいるモンゴル民族のみが使用している。例えば、内モンゴルでは現在もウイグル文字を用いている。

[8] 母音字 ө、ү の 2 つは古ロシア語から借用した文字である(Poppe1970:20)。

である（亀井・河野・千野 1998:505）。

形態に関しては、名詞類の曲用には、数、格、所属の 3 種類がある。動詞の活用は、その意味と機能により命令・願望類、叙述類、形動詞類、副動詞類の 4 種類に分かれる（亀井・河野・千野 1998:506, 509）。動詞の態には、使役態、受動態、共同態、相互態、衆動態の 5 種類がある（亀井・河野・千野 1998:510）。動詞の相の主なものとしては、進行、習慣、継続、反復、完了、瞬時、起動などがある。動詞の時制は非過去／過去の対立を成す。

統辞に関しては、モンゴル語の文は、主語 (S)+目的語 (O)+補語 (C)+述語 (V)という順番で並ぶ、SOV 語順をとる。モンゴル語の語順は、従属的な修飾語句が、それを受ける被修飾語句の前に置かれるのが原則である。述語動詞は原則として文末に位置する。繋辞動詞の現在時制形は省略されることがあり、その場合述語は、名詞、形容詞等の補語だけで構成される。述語の後の文末におかれ、文全体を修飾する疑問詞、確認詞、推量詞などもある。関係詞はなく、従属節は、形動詞や副動詞によって表される（亀井・河野・千野 1998:511-512）。

語彙に関しては、ロシア語、チュルク語、チベット語、中国語、最近は英語からの借用語が見出される。

第二章

理論的な枠組

テンス、アスペクトに関する概説

テンス、アスペクトを定義した文献は多数あるが、Comrie (1985:1, 6, 1976:5)は、“…tense is “grammaticalisation of location in time” and aspect is “grammaticalisation of expression of internal temporal constituency”(of events, processes etc.)”と定義している。Comrie は「アスペクトもテンスも共に時間と関わっているのだが、しかしそのかかわり方はまったく異なっている。…テンスは指示的なカテゴリーである。つまり、テンスは、普通は現在の瞬間に関係づけることによって、場面を時間の中に位置づけているのである。もっとも、もう一つの、別の場面に関係付けることによって、場面を時間の中に位置づけることもあるのだが。しかし、アスペクトの方は、他の何らかの時点に場面の時間を関係付けるようなことはしない。それはむしろ一つの場面の内的な時間構成に関わっている。この違いは、場面の**内的な時間** (situation-internal time（アスペクト）)と場面の**外的な時間** (situation external time（テンス）)との違いである。」[1]と述べている。

テンスは、場面を時間軸に位置づけ、基準点（発話時あるいは他の出来事時）より前か後か同時かという時間関係を表しており、発話時を基準時として出来事時がその前か、同時か、後かを述べる**絶対的テンス**と、他の出来事時つまり一定の絶対的時を基準時として、その前か、同時か、後かという相対的関係を述べる**相対テンス**の 2 種類があるのに対し、アスペクトはその時間軸の上に位置づけられている場面の内的時間、つまりその場面の始まりか、最中か、終わりか、また進行的か、反復的か、習慣的か、継続的か、などのような場面の**内的時間構成**を表している。

世界の言語におけるテンス、アスペクトはその範疇を**成す形式**およびその範疇が**成す対立**の 2 つが主な概念であり、その 2 つの面により言語はそれぞれ互いに共通性および相違点を示す。

まず形式に関しては、この 2 つの範疇をなす形式は言語それぞれにおいてさまざまであるのは明らかである。Bybee et. al. (1994:2)によると、自由な語彙グループの数多くの名詞や動詞とは異なり、文法的形態素は現れる位置、共起制限あるいは他の言語要素との弁別的な相互作用などの多少独特な文法的作用によりそのグループのメンバーが決定される不自由なグループの要素である。純粋に文法的な形態素は接辞、語幹変化、繰り返し、補助動詞、不変化詞（副詞、前置詞、接続詞など）、小辞、接頭辞、あるいは英語の be going to のような複合構成であると言える。

[1]訳は山田(1988)に従う。

Bybee(1985:11-12) はセマンティック要素が結合可能な次の 3 つの主要な手段を挙げている。

1. 語彙的表現
2. 屈折的表現
3. 統語的表現

これら 3 つの手段については、本稿第 4 章で再度詳しく述べるので、ここでは簡単に触れておくことにする。

語彙的表現：2 つあるいはそれ以上の意味論的要素は、単一形態素の語彙項目において表現されうる。これは語彙的表現である。例えば、語彙項目 kill は分析のあるレベルにおいてセマンティック要素 die および cause と結合する。

屈折的表現：それぞれのセマンティック要素は個々のユニットにおいて表されるが、それらのユニットは単一の語に拘束されている。特に、語幹に付加される接辞の形式、あるいは語幹自身における変化の形式を指す。例えば、英語の過去時制の規則変化形 walked や不規則変化形 brought。

統語的表現：異なる意味論的要素が完全に分離し、独立したユニットであり、英語の come to know のように、別々の語により表現される。

中間的表現タイプも存在する。語彙的表現と屈折的表現の中間的表現タイプとして**派生的形態**がある。派生形態素はしばしば適用性において制限されており、形式および意味において特異的であるという点で、語彙的表現と似ている。また、2 つの異なる形態素は単一の語において結合されるという点で屈折的表現と類似している。

屈折的表現および統語的表現の間に文法的形態素の特性を持っている様々なタイプのユニットが存在し、これらのユニットは助動詞、助詞、接語と呼ばれている。これらの**自由文法的形態素**は位置制限があること、および特定の環境において義務的である対比的セットを成すという点で屈折的表現と似ているが、語幹に拘束されないという点で迂言的表現にも似ている。

上記の表現タイプは最も強く融合している表現手段としての語彙的表現から最も緩く結合している表現手段としての統語的あるいは迂言的表現まで一列に並べられる連続を形成する。

語彙的**---**派生的**---**屈折的**---**自由文法的形態素**---**統語的

‹ ---

左に向かってより融合の度合が強まる (Bybee 1985:12)

図 1

アスペクト、テンス、ムード、主語との数の一致、人称の呼応において動詞体系は通常かなりの程度において屈折変化（語尾変化）する。Bybee (1985:161)によると、テンスは、派生的範疇と

しては極めて稀にしか存在しない[2]。屈折形式は語幹に付加される接辞、あるいは語幹を変化させる形式（例えば、英語の規則変化の過去形 walked、および不規則変化の過去形 brought）の両方がありうる。

Dryer (2005:282)によると言語は、屈折形態において**接尾辞**および**接頭辞**を用いる。 テンス、アスペクトの形態的指標の主な種類は接頭辞と接尾辞であるが、テンス、アスペクトを表すあまり一般的ではない形態手段として**トーン**、**挿入辞**、また**語幹変化**という 3 つの形式がある。

英語においては接尾辞は基本的な手段であるが、過去時制を表す動詞の語幹変化は英語の不規則動詞において一般的な手段である。しかし、基本的な手段がない言語も多くある。例えば、Mesa Grande Diegueno 語 (Yuman;California)は進行形の接頭辞、および未来時の接尾辞を使用する。

(1) a. *ta -?-wa*
PROG-1.SUBJ-sit
'I am/was sitting.'
b. *?-a-x*
1.SUBJ-go-FUT
'I will go.' (Dryer 2005:282)

Bickel and Nichols (2005:94) によるとテンス、態、または呼応のような文法的なカテゴリーは、個々の語によって、あるいは他のいくつかの語（または語幹）に付けられた接辞のいずれかによって表現することができる。語は接辞と結合した場合、その構成は**合成的**であると言われ、そうでない場合には、**分析的**であると言われる。例えば、過去形では、英語の動詞は（she painted の接尾辞-ed のように）時制を表す接辞と結合する。この painted のような形式は、合成と呼ばれている。未来形では、対照的に、動詞は接辞と結合しない。未来形は（she will paint の will のように）別々の語により表される。この will paint のような形式は分析的と呼ばれている。

テンス・アスペクト接辞（語幹変化）を持たない言語においては、一般的に接語(clitics)、非屈折的不変化詞 (noninflecting particles)、あるいは助動詞、個々の語によりテンスおよび／あるいはアスペクトが符号化される (Dryer 2005:282)。

アスペクトは**語彙アスペクト**と**文法的アスペクト**に大きく分けることができる。語彙アスペク

[2] 該当する言語は Kwakiutl 語しか存在しない。Kwakiutl 語においては大多数の非義務的 (non-obligatory) 接尾辞が存在する。その中では遠過去、近過去、未来という時間的意味を表す少数の接尾辞があり、それらは動詞だけではなく名詞にも付けられる。(Bybee1985:161)

トは語彙項目の固有の意味により表されるアスペクトのことである。文法的アスペクトは文法的手段としての屈折語尾あるいは補助動詞を用いた迂言的構造により表される。

Comrie (1976:9) は「文法的なカテゴリーとしてのアスペクトは、他の文法的なカテゴリーとまったく同じように、ある言語では、単語を屈折させるという形態論的な方法、屈折的形態 (inflectional morphology)によって表現することができる。例えば、スペイン語の *leyo, leia* のように。そして、また迂言の手続き (periphrasis)によっても表現することができる。例えば、英語の *he was reading* においては、進行相の意味は迂言の手続きによって表現されていて (periphrastic progressive)、それが動詞の単純形式 *he read* に対立する」と述べている [3]。

つまり、アスペクトにおける対立が**語彙項目**や**形態論的手段**あるいは**統語論的手段**という 3 つの手段により表されていることは明らかである。

Bybee and Dahl (1989:77)は、進行形は屈折形式よりも迂言的構造を持つという強い傾向を示す、と指摘しており、Bybee et.al. (1994:20)によると、アスペクト的な意味の一般性とそれらの表現の通常の形態との間には強い相関がある。例えば、不完結相語法および完結相語法ではより頻繁に屈折辞で示されるのに対し、習慣相語法および進行相語法は一般的に迂言形式である。

また、テンス形式に関する**遠隔の度合 (Degrees of Remoteness)** および**証拠性 (Evidentiality)**という 2 つの重要な概念も関わってくる。

Dahl and Velupillai (2005:269)によると、遠隔の区別に関して、テンス選択はトピック時点と発話時点の間の時間的距離に関係している。Comrie (1985:83-88)によると、より正確な時間的位置を表す文法的な手段がない言語もあるが、多数の言語においてはそのような区別を文法的な手段により表すことが可能である。未来よりも過去に関してより豊富な区別セットが普及している。一部の言語においては過去、未来両方において時間的な距離の幾つかの区別がある。最も一般的な体系は通常 2 つあるいは 3 つの区別である。例えば、Haya 語では、過去において 3 つの区別があり、未来においては 2 つの区別がある。Bamileke–Dschang 語や Bamileke-Ngyemboon 語のような言語は、過去、未来それぞれにおいて 4 つあるいは 5 つの遠隔の度合を伴う相称的な体系を持つ。Yagua 語は過去において 5 つの遠隔の度合を持っている。

Proximate1	'a few hours previous to the
-jásiy	time of utterance'
Proximate2	'one day previous to the
-jay	time of utterance'
Past 1	'roughly one week ago to one

[3] 訳は山田(1988:19) に従う。

-siy month ago’
Past2 ‘roughly one to two months ago
-tíy up to one or two years ago’
Past3 ‘distant or legendary past’
-jada (Dahl and Velupillai 2005:269)

Bybee et.al. (1994:98-99)は、「アスペクト、証拠性および現在との関連性あるいは完了の表示に加えて、過去時制の意味は発話時からの遠隔の度合についても明確に区別して表示されうる」と述べ[4]、遠隔の度合の区別を「即時対遠隔」(immediate versus remote) に基づく区別および「日々のサイクル」(daily cycle) に基づく区別の 2 つに分け、以下のような術語を用いて特徴付けている。

「即時対遠隔」に関して：

Immediate past: the situation occurred in the recent or immediate past.
Remote past: the situation occurred long ago, in the distant past.
Ancient past: the situation occurred in ancient or mythic times.

「日々のサイクル」に関して：

Hodiernal past: the situation occurred on the same day as the speech event.
Pre-hodiernal past: the situation occurred before the ‘today’ of the speech event.
Hesternal past:the situation occurred yesterday, or on the day preceding the speech event.
Pre-hesternal past: the situation occurred before yesterday.

Haan (2005:314-316, 318, 320)によると、証拠性のマーカーは話者の陳述における証拠性を表し、**直接的な証拠**および**間接的な証拠**の 2 つに分かれる。直接証拠は話者が話している動作および出来事に対して感覚的な証拠がある場合に用いられる。通常、直接的な証拠性は視覚的な証拠を示す。例えば、以下のファス語(Fasu)においては、接周辞 a-...-re により視覚的な証拠性が示されている。

(2) *a-pe-re*
VIS-come-VIS
‘[I see] it coming’ (Haan 2005:314)

間接的な証拠性は話者自身が出来事の目撃者ではなく、後に出来事について人つでに聞いた場合に用いられる。さらに、推論及び引用という 2 つの副範疇があり、推論的な証拠性は可能な身体的証拠性に基づいて推論する際に用いられるものである。引用的証拠性は話者が他の人から動作および出来事について聞いた際に用いられる。

[4] Bybee et. al.(1994:98-99)、訳は筆者による。

数多くの言語（Georgian のような Kartvelian 語、トルコ語、Komi-Zyrian 語 (Finno –Ugric)、Haida 語 (isolate; Alaska and British Columbia)、Ika 語(Chibchan; Colombia) 等）では、過去時制においては目撃した（直接）出来事と目撃しなかった（間接）出来事との区別がなされている。

(3) a. *Ahmet gel-di*.
Ahmet come-PST.DIR.EVD
'Ahmet came'(witnessed by the speaker)
b. *Ahmet gel-miş*.
Ahmet come-PST.INDIR.EVD
'Ahmet came' (unwitnessed by the speaker) (Haan 2005:314-315)

多くの言語では、直接証拠／間接証拠の区別は動詞体系の一部である。殆どの言語においては証拠性の区別を符号化している動詞体系を過去時制のみに用いる。モンゴル語も過去時制において直接証拠／間接証拠の区別をなす言語である。

次に、時制・アスペクトの文法範疇を持っているかどうか、また持っている場合でも、その対立は言語それぞれにおいて共通性を示したり異なったりすることについて述べる。

時間(time)とは、3 つの部分（過去、現在、未来）に区分される普遍的な概念である。つまり時間の単位は言語学の領域外のものであるということによりその概念は普遍的である。それらは、任意の特定の言語の文法とは無関係に存在する (Quirk et.al. 1972a:84)。一方、テンス (tense)は言語学的な概念である。従って言語それぞれにおいてテンス体系は様々である。

Comrie (1985:2, 48-52)は「諸言語に見られる、一番普通のテンスは現在、過去、未来であるが、もちろん全ての言語にこの三つのテンスの区別があるわけではないし、それどころか、テンスの区別をまったく持たない言語もあり、ある言語においては現在／未来の対立を示す手段がないのに対し、他方の言語においては過去／非過去の対立がない。一般的な理論において、絶対的なテンスの中では現在、過去、未来の三区分が認められているが、多くの言語では、実際には、**過去／非過去**の対立と**未來／非未来**の対立の二通りの区別しか観察されない」と述べている。Kroeger (2005:149)によると 時間について話すために我々は過去、現在、未来を区別しているが、形態論的に、これらのカテゴリー3 つ全てを符号化する言語は実際にはまれである。このプロパティを持っている言語の一例としてリトアニア語を挙げることができる。

Lithuanian (Chung and Timberlake 1985:204)
(4) a. dirb-au 'I worked/was working'
work-1sg.PAST

b. dirb-u 　　　　　　　　‘I work/am working’
work-1sg.PRES
c. dirb-s-iu 　　　　　　　‘I will work/will be working’
work-FUT-1sg 　　　　　　　　　　　　　　　　　(Kroeger 2005:149）

ある言語においては過去／非過去の区別をしない一方、ある言語においては現在／未来の区別をしない。例えば、フィンランド語においては、現在時制は現在時および未來時に平等に用いられる。

また、上記の区別がいずれもなされない、つまり絶対的なテンスを完全に欠いている言語もある。例えばビルマ語においては、現実 (realis) te/tha/ta/hta および非現実 (irrealis) me/ma/hma という 2 セットの文末助詞がある。前者の現実助詞は、現在時および過去時（現在と過去の文法的区別はない）を表す文のみに用いられる。未来時を表すのに後者の非現実助詞のセットを使用する。他の手段（例えば、「明日」のような副詞を用い語彙的に）でも時間を表すことが可能であり、また文の他の側面、つまり「非現実助詞は頻繁に未来時を表す」という常識的な知識(knowledge of the world)との関連により時間についての推論を導くことも可能である(Comrie 1985:50-52)。

Comrie (1976:3)はアスペクトの一般的な定義として、Holt (1943:6)の「過程のながれそのものをとらえる、様々な仕方」という定義に基づき「アスペクトは場面の内的な時間構成を捉える様々な仕方である」という公式を採用している [5]。

理論的な文献によれば、アスペクトにおける対立は語彙的（様々な語彙的項目はそれ自身の意味に基づく持ち前のアスペクト的な特質を持っている）および文法的（動詞の屈折および補助動詞を用いた迂言的な構造）手段によって表される。前者は、語彙的項目で表されるアスペクトの対立であり、後者は、文法的手段としての屈折語尾あるいは補助動詞を用いた迂言的な構造により表されるアスペクトとしての完結相 (Perfective aspect) および不完結相 (Imperfective aspect) の対立である。文献においては、前者は、verb type (Mourelatos 1978)、lexical aspect (Dahl 1985)、(Filip 2012)、aktionsart (Brinton 1988)、 situation type (Žegarac 1990)、situation aspect (Smith　1991)、 action (Bache 1997)、inherent aspect (Givon 2001)、actionality、aspectual class[6] などのように様々な術語で表現されており、後者は grammatical aspect、aspect (Dahl 1985、 Binnick 1991、Bache 1997)、viewpoint aspect (Smith 1991)と呼ばれている。本研究では、前者に**語彙アスペクト**という術語を用い [7]、後者に**文法的アスペクト**という術語を用いることにする。

[5]訳語は山田 (1988:11-12, 16) に従う。
[6] Filip (2012) を参照。
[7] Verkuyl (1972) は文のアスペクト性を動詞のみが担っているわけではないので、lexical aspect（語彙アスペクト）という術語を使うことは誤りであると述べている。しかし、殆どの先行研究において lexical aspect が用いられてお

上記以外に、動詞のアスペクト的特質に影響を与える派生的変化も行われる。それはロシア語などのようなスラブ語においてよく起こる現象であり、aktionsart という術語が用いられている。

Comrie (1976:6-7, 山田訳 1988:22-23)によると aktionsart は「動作の種類(kinds of action)」という意味のドイツ語である。アクチオンスアルトにはかなり異なる二種類の意味がある。一つ目は、アクチオンスアルトは意味論的区別だてを語彙化したものであり、どのように語彙化されているか、ということは問題にしない。このように用いるアクチオンスアルトは、持ちまえの意味の概念に似ている。二つ目は、アクチオンスアルトは区別だての語彙化であるが、それは派生形態論(derivational morphology)の手続きによって語彙化されたものにかぎる。このように制限して用いることは Agrell (1908)によってはじめて提案された。 このようにアクチオンスアルトは単語派生的な手段を指して使用される場合もあり、動詞固有の意味による時間的性質を指す場合もあり、さらに局相アスペクトを指して使用される場合もあり、研究者による概念規定が一致していない。

言語学では**語彙アスペクト**としてしばしば 4 つのタイプ（**State**: know, believe, have, desire, love 等、 **Activity**: run, walk, swim, drive a car 等、**Accomplishment**: make a chair, draw a circle, push a cart, recover from illness 等、 **Achievement**: recognize, spot, find, lose, reach 等）の存在が議論されており、この考え方の根本はギリシアの哲学者アリストテレスに遡る。

ある動詞が終末 (end) あるいは結果 (result) を必然的に含むのに対し、ある動詞は含まないことを最初に指摘したのはアリストテレスであると一般に言われている。彼は『形而上学』の 1048b において kinesei (movements) と energiai (actualities)を区別した。前者には、外面的な終結あるいはゴールがあるのに対し、後者にはない。その区別は「達成」および「活動／状態」の対立にほぼ対応し(Dowty 1972:16)、限界(telic) 対 非限界(atelic)の区別でもある。

アリストテレス以来 Ryle (1949)、Garey (1957)、Kenny (1963)、Vendler (1967)、Mourelatos (1978)、Žegarac (1990)、Smith (1991)などが上記の区別を発展させた。

Ryle (1949:149) は結果性を持つ動詞に到達 (achievements)という術語を作り出し、結果性を持つ動詞と結果性を持たない動詞を互いに区別した。Garey (1957:106) は動詞 を限界(telic)／非限界(atelic)に区別し、Kenny (1963:173-183)は状態(state)と活動(activity)によって区別した。Vendler (1967) は初めて時間を表す副詞、テンスや論理的な含意により限定される 4 タイプの動詞 (State, Activity, Accomplishment, Achievement) を認めた。

Smith (1991:6) は、上記 4 タイプの動詞分類を状況タイプの分類に発展させ、それに加えて一回的動作（**Semelfactive**: knock, cough, nod, jump 等）という新たな状況タイプを提唱し、基礎的な状況タイプとして全部で 5 つのタイプがあると述べている。

り、語彙アスペクトは動詞に固有の意味から導かれるため、本研究でも語彙アスペクトという術語を用いることにする。

Smith (1991:28-30)によると、5つの状況タイプそれぞれの特徴は以下のようである[8]。

状態 (State) は、静的であり、動的な性質と内部構造を持たない。少なくとも一瞬間の継続を持っている。例えば、[know the answer]、 [be in Athens]。

活動 (Activity) は、継続的で非限界的な出来事である。同質的な連続する段階と任意の最終点を持っている。例えば、[walk in the park]、[laugh]。

達成 (Accomplishment) は、継続的で限界的な出来事である。複合的であり、連続する段階の過程および自然的に発生する最終点により構成される。結果は状態の変化である。例えば、[build a house]、[walk to school]。

一回的動作 (Semelfactive) は、瞬間的で非限界的な出来事である。例えば、[knock]、[cough]。

到達 (Achievement) は、新しい状態という結果を伴う状態の瞬間的変化である。例えば、[reach the top]、[win a race]。

Smithはさらに、ある現象・状況が「静的か非静的か「±static」」、「持続的か非持続的か［±duration］」、「必然的な終点があるかないか［±telic］」という3つのパラメーターを持つかどうかによって、5つの状況タイプをそれぞれ区別している。

静的／非静的の区別は、状況タイプを状態と出来事の2つに分ける。状態は一番単純な状況タイプである。時間的図式において状態は、終結点を持たない同質的瞬間の期間から成り立つのに対し、出来事は動的である。非静的状況は出来事の自然類(natural class)を形成する。出来事は動的であり、行為者、活動、変化を伴っている。出来事は同質的瞬間からと言うよりむしろ段階から成り立つ。従って、活動と達成の連続的段階は、一回的動作および到達の個々の段階がそうであるように、動的な性質を表す[9]。

出来事は**限界／非限界**に分類される。限界的な出来事はゴールへ向かう。ゴールに到達した時、状態の変化が起こり、出来事は完了する。そのゴールは出来事に固有であり、自然的な最終点を構成する。…非限界的な出来事には任意の最終点がある。非限界的な出来事はいつでも止まることができる。4つの出来事タイプの中で活動、一回的動作は非限界的であり、状態の変化に関係しない。対して、達成と到達は限界的である[10]。

限界(telic)と非限界(atelic)の区別は出来事がゴールあるいは成果により成り立っている自然的な終結点があるかどうかによるものである。限界的(telic) な出来事は自然的な終結点をもっているのに対し、非限界的(atelic)な出来事はその特徴をもっていない。

---

[8] Smith (1991:28)、訳は筆者による。

[9] Smith (1991:28-29)、訳は筆者による。

[10] Garey (1957:106)およびSmith (1991:29)、訳は筆者による。

持続的／非持続的の区別は、理想化した状況を分類する。ある場面は持続的であるのに対し、一方の場面は瞬間的である[11]。状態、活動、達成は持続的であるのに対し、一回的動作、到達は非持続的である。

表 3.　Smith(1991)の状況タイプの特徴

Features of the situation types

Situations	Static	Durative	Telic	
State	[+]	[+]	[-]	
Activity	[-]	[+]	[-]	
Accomplishment	[-]	[+]	[+]	
Semelfactive	[-]	[-]	[-]	
Achievement	[-]	[-]	[+]	(Smith 1991:30)

上記の表によれば、状態は、静的で、持続的で、必然的な終点がない。活動は、非静的で、持続的で、必然的な終点がない。達成は、非静的で、持続的で、必然的な終点がある。一回的動作は、非静的で、非持続的で、必然的な終点がない。到達は、非静的で、非持続的で、必然的な終点がある。

上記の 5 つの状況タイプの区別は動詞のみで決まるのではなく、共起する他の文要素と共に決められる。つまり、相（アスペクト）的意味は個々の動詞あるいは動詞句よりも文の単位において維持されている。

Verkyul(1972)によると、次の例 (5a, b)、(6a, b)、(7a, b) のように異なる状況タイプは動詞の補語や補文、目的語名詞句の内部的な構成、間接目的語および主語等により区別されている。

(5) a. Mary walked <u>*in the park*</u>.　(atelic)

　b. Mary walked <u>*to school*</u>.　(telic)

文 (5a) における補語は位置的であるのに対し、文(5b) における補語は方向的である。

(6) a.Edward smoked <u>*cigarettes*</u>.　(atelic)

　b. Edward smoked <u>*a cigarette.*</u> (telic)

(7) a. <u>*A famous movie star*</u> discovered that little spa. (telic)

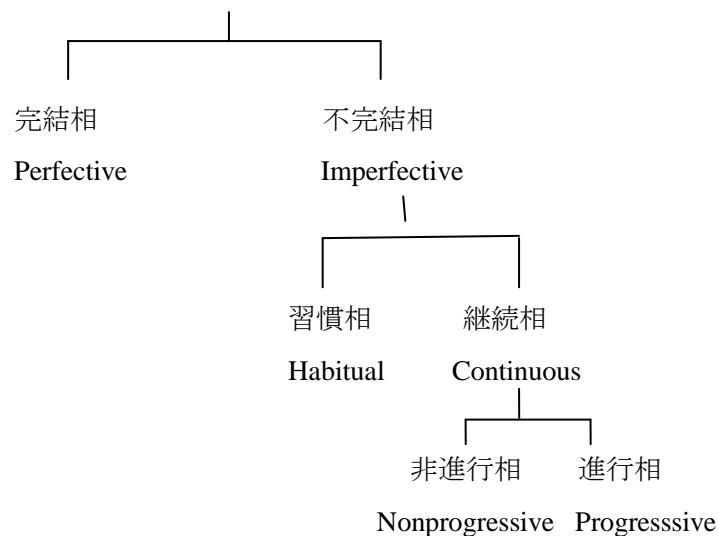
[11]Smith (1991:29) 、訳は筆者による。

b. <u>*Famous movie stars*</u> have been discovering that little spa for years. (atelic) (Smith 1991:7)

Smith (1991: 36)によると、状況タイプはさらに他の状況タイプに転換されたり、派生されたりする場合がある。つまり転換的状況タイプと派生的状況タイプという 2 つの有標的な状況タイプがある。転換的状況タイプは基本的レベル状況(basic-level situation)の部分に焦点を当てる。例えば、Mary began to read.は Mary read.という出来事の始点に焦点を当てる起動相である。派生的状況タイプは他の状況タイプの例により成り立つ内部的な構成を持っており複合的である。このように習慣的状態文 Mary fed the cat every day. は Mary feed the cat.という出来事に関係している。多回的な出来事動作 Mary knocked at the door for 5 minutes.は Mary knock at the door.という出来事に関係している[12]。

上で述べられた事柄は、アスペクト的意味が複合的（文における動詞、アーギュメント、副詞による）であることを示している。

屈折語尾あるいは 補助動詞との組み合わせのような文法的手段で表される相の対立を文法的なアスペクトと呼んでいる。文法的アスペクトは文法的標識および統語的構造、つまり迂言形式により表される。Comrie (1976:25)によるとアスペクトは基本的に完結相および不完結相の対立によって示され、さらに不完結相の下位分類として習慣相、継続相があり、継続相の下位分類として進行相と非進行相がある。Comrie はアスペクトの対立の分類を次の表 4 のように示している。

表 4. Comrie (1976)におけるアスペクト対立の分類

[12] Smith (1991:26, 36)、訳は筆者による。
[13] 訳は山田(1988:43)に従う。

先行研究においては、完結相および不完結相を特徴付ける重要な特性として、以下のような記述がなされている。

Comrie (1976:16-21、山田訳 1988:30-37) は、「完結性はある場面をひとまとまりのものとしてとらえて、その場面を組み立てている、あれこれの局面 (phase) に分けて捉えることはしない」と述べ、先行研究において完結相の性格づけとして指摘されている「持続の短い場面」、「瞬間的場面」、「完成した動作」、「成功的な完成」、「結果相」などは適切ではないと主張している。Hopper(1982)によると完了(completion) および連続性 (sequentiality) 、Timberlake (1982) によると終結(closure)が完結相の最も重要な特徴である。Smith (1991:103) は、「完結相が場面の始点および終点を含めており、「情報的に閉じている」(closed informationally) 」と述べている。一方、限界性 (boundedness) や過去時制も完結相の特性として論じられている(Dahl 1985:74-75、78-79)。Dahl (1985:75)は"…the notion of boundedness is crucial to the choice between Perfective and Imperfective in Russian"と述べている。Song (1997:38)によると限界性はある種の言語、例えばスラブ語に限定されており、広い範囲に及んで通言語学的に (cross-linguistically) 見出されない。Dahl (1985:78-79) は"A PFV verb will typically denote a single event, seen as an unanalysed whole, with a well-defined result or end-state, located in the past."と述べ、過去時制の完結相への強い傾向を指摘し、過去時制を完結相の特徴として含めている。Song(1997:38)によると完結相は通常過去時制に限定されているが、しかしこれは完結相が必ずしも過去時制固有の特性ということを意味しない。例えば、ロシア語には非過去完結と非過去不完結がある (Huang 1987:124)。

Comrie (1976:16) は「…不完結相では、必要な注意は場面の内部構造に向けられている [14]」と述べている。Smith (1991:111)は、「不完結相は場面の始点および終点を含めない。したがって「オープン情報」(open informationally) である」と述べている。Swart (2012:757)によると、不完結相の際立った特徴は状態の解釈、進行的過程の解釈および習慣の解釈である。

全ての言語が文法的アスペクトを持っているわけではないが、全ての言語には動詞の形式あるいは完結動詞、不完結動詞により表される意味論的概念を表す手段がある。

Bybee and Dahl (1989:83)によると、通言語学的にアスペクトの体系において「完結／不完結」の対立が最もよく起こる対立である。Bybee (1985:141)は、世界の 50 言語を調査し、「屈折により表される「完結／不完結」の区別が最もよく見られる区別で、その次は習慣相と継続相の区別である」と述べている。

アスペクト体系の理想的なタイプは、ある言語では完結相と不完結相の明確な対立に基づいているのに対し、もう一方の言語においては、アスペクトは完結相の特性および不完結相の下位分類である幾つかの意味特性（習慣、進行、継続、反復）により説明される。ロシア語のようなス

[14] 訳は山田(1988:30)による。

ラブ諸語においては完結相と不完結相の明確なアスペクト体系が中心となっている一方で、完結相と不完結相の対立が明確なアスペクト体系の中心となっていない言語もある。金 (2011:137)によると日本語のアスペクト体系に関しては「完成相」(perfective)と「非完成相」(imperfective) の対立が明確であり、英語のアスペクト体系では進行相と非進行相の対立とパーフェクトと非パーフェクトの対立がコンテクスト上で重要な位置を占めている。

Gvozdanovič (2012:784)によると、文法的アスペクトを二項対立（例えば、完結／不完結）あるいは複合的二項対立（例えば、Gaelic 語の単純及び「進行および習慣」）を基にして形成されたものとして分析することが可能である [15]。このうちモンゴル語および英語両方とも後者に入る。両言語においては完結相及び不完結相の対立を表す顕著な特殊表現がなく、その代わりに不完結相の下位分類の意味（進行、習慣、継続）を文法化した単一の形式あるいは迂言的構造が存在する。つまり英語においては不完結相の下位部類である進行アスペクトを表す形式及び習慣を表す形式（過去時制のみ）が、モンゴル語においては進行、習慣、継続を表す不完結相の形式が存在する。

全ての自然言語は（それらが慣習的に継続あるいは進行と呼ばれる文法範疇を持っているいないに関わらず）発言により広げられる時間のフレーム上に動的に進行する出来事を伝えることが可能である [16]。一般的に、進行相は不完結相(imperfective)の下位分類として位置づけられている [17]。

Dahl (1985:91)、Bybee and Dahl (1989:55)によると、進行相は基準時において進行している場面を表す。Chafe(1970)によると進行形はその事象の範囲に関して限られた一定の期間において拡張された出来事を指し示す [18]。上記の記述により、進行相の意味特徴は 1.進行的、2.限定的範囲の 2 つの組み合わせであると言える。

Smith (1991:111)は“..the progressive applies only to non-stative situations”と述べている。それは、「進行的」という意味は進行相の基本的意味であるため典型的に活動場面に適用され、状態場面には適用されないという観察に基づいている。Comrie (1976:35-36)は「進行性とは進行の意味と非状態の意味とが結合したものである、という一般的な定義を与えることができる。…しかし、残念なことに、現実はそうではない [19]」と述べ、英語などにおいても進行形は状態動詞にも用いられると述べている。例えば、英語の進行形が状態述語と共起する場合としない場合があるのに対し、モンゴル語においては共起する [20]。

Dahl (1985:92)は、もしある言語がテンスをもっていれば進行形 (progressives) はすべてのテンス

---

[15]Gvozdanovič (2012:784)、訳は筆者による。
[16] Mair (2012:803)、訳は筆者による。
[17] Comrie(1976:25)においては進行相は習慣相と共に、Smith (1991:111) においては、一般的不完結相(general imperfective)と共に不完結相の下位分類として挙げられている。
[18] Chafe (1970:175)、訳は筆者による。
[19]訳は 山田(1988:58)に従う。
[20] 詳細は第 7 章を参照。

において現れる傾向があり、対象とした 64 言語の中では、28 言語が進行形を持っていると述べている。Mair (2012:807) によると世界の言語の 40% 以上において完結／不完結の対立が文法化されており、進行形 (progressive) は少ない。Mair (2012:804-805) によると、言語において、進行アスペクトを表す形式および表現は様々であり、形態的符号（トルコ語）、迂言的構造（英語）、語彙的手段（標準ドイツ語など）、副詞（ドイツ語）、不変化詞（広東語）により表されうる。

進行相に密接に関係しているのは継続相 (continuous aspect) であり、この 2 つの相の区別は、基本的には、進行相は通例動的動詞および述語に用いられるのに対し、非進行的継続相はそれらに加えて状態述語つまり動的述語に対立する述語を含んでいる。しかし、上述のように、言語において進行相は状態述語にも用いられる場合もあり、その場合、その状態が一時的継続を表すと説明されている言語も存在する（例として英語が挙げられる）。進行相と継続相が別々に文法化されている言語もある（広東語）。以下の文(8a)、(8b)において広東語の不変化詞 gán は進行相を表し、不変化詞 jyuh は継続相を表している。

(8a) Ngoihbihn lohk-**gán** yúh.
Outside fall-PROG rain
“It is raining outside”
(8b) Ngoihbihn lohk-**jyuh** yúh.
Outside fall-CONT rain
“It is raining outside” (Mair 2012:807)[21]

上記の文(8a)と(8b)の違いは、前者は雨が降るという活動を表すのに対し、後者は天候を継続的場面として表すということである[22]。

以下の文(9)、(10) のようにモンゴル語には、広東語と同様に、進行相を表す「主動詞+連用語尾-j/-ch 補助動詞 bai-」の迂言形式の他に、継続相を表す「主動詞+連用語尾-saar 補助動詞 bai-」という迂言形式がある。

(9) Gadaa boroo or-**j** **baina**. “It is raining outside”
Outside rain falling is
(10) Gadaa boroo or-**soor** **baina**. “It keeps raining outside”
Outside rain falling is

[21] Mair (2012:807) は“A loose translation of (11b) which distinguishes it from the mere progressive in (11a) might thus be *it keeps raining outside*.”という説明を加えている。なお、(11a)、(11b)は本稿の(8a)、(8b)にそれぞれ対応する。
[22] The difference is that the “progressive gán describes the action of rain falling while jyuh presents the weather as a continuing situation…” (Mair 2012:807)

第三章

先行研究概説

3.1. はじめに

本章では英語、モンゴル語の両言語における時制、アスペクトに関する先行研究について触れておきたい。

3.2. モンゴル語のテンス、アスペクトの先行研究概説

モンゴル語の研究の始まりは、1831年にドイツ人の学者 Schmidt が著した文法書である "Grammatik der mongolischen Sprache"に遡る。それ以来、モンゴル、内モンゴル、ロシア、ドイツ、フランス、イタリア、デンマーク、イギリス、日本、韓国、中国等の言語学者達によりモンゴル語に関して言語学の様々な分野において数多くの研究がなされ、その結果として多数の教科書、学術論文、学位論文、言語学的文献等が出版されてきた。その中で、時制、アスペクトに関する先行研究としては Schmidt (1831)、Бобровников (1849) 、Neville (1926)、Поппе/Poppe/[1] (1931, 1940, 1951, 1954, 1970, 1974, 1987)、 Санжеев /Sanzheev/[2](1934, 1964, 1973)、Тодаева (1951)、清格尔泰 /Chinggeltei, Chinggaltai/ [3](1949, 2010)、Ринчинэ (1952)、Grönbech and Krueger(1955)、 Галсан (1961)、Street (1963)、Bosson(1964)、Касьяненко(1968) 、 Hangin (1968, 1973)、Hans-Peter (1969) 、Лхагваа, Хашимото (1989) 、Svantesson (1991)、橋本（監修）(1993)、フフバートル(1993)、 Jargal and Andrea (1998)、Sanders and Bat-Ireedui (1999)、 塩谷・プレブジャブ(2002)、Lubsangdorj and Vacek (2004)、山中(2006)、Tserenpil and Kullmann (2008)、金岡(2009)、塩谷・バダムハンド(2009) 、Дэлгэрмаа (2009)、橋本(2010)、塩谷・中嶋(2011)、山越(2012)、Абэмацү (1961)、Шевернина (1964, 1982, 1985, 1986)、Binnick (1978, 1979, 1990, 2012)、Яхонтова, Дугарова (1983)、Яхонтова (1984)、Baek (1986)、 Svantesson (1991)、橋本(1993, 1993, 1995)、Song(1995)、Chuluu/Chaolu/[4] (1995, 1996, 1998)、Батчулуун (1997)、水野 (1996)、Nelson et.al.(1998)、松岡(2007, 2008)、Jingang(2008)、Ramstedt (1902) 、Балдан (1988) 、Бадан (1989)、Song (1997)、Руднев /ルードネフ/(1911, 1919)、橋

[1]Поппе と Poppe は同一人物であるが、文献により著名が異なる。
[2]Санжеев と Sanzheev は同一人物であるが、文献により著名が異なる。
[3]清格尔泰、Chinggeltei および Chinggaltai は同一人物であるが、文献により著名が異なる。
[4] Chuluu と Chaolu は同一人物であるが、文献により著名が異なる。

(1914)、Лувсанвандан/Lapsangwangtan/[5](1951, 1963, 1987)、Бертагаев (1964)、Лувсанвандан, Болд (1985)、小沢(1963, 1968, 1978, 1987, 1997)、Дугарова (1991)、Өнөрбаян (1998)、池田(2001)、Цэгмид, Оюунцэцэг (2011)、Brosig/Брозиг/[6] (2009, 2012)などが挙げられる。

代表的な分類は本章の 3.2.2.を参照のこと。

3.2.1. テンスに関する先行研究

テンスに関する先行研究において、研究者達は、モンゴル語にいくつの時制があるかに関して以下のように様々な指摘を行っている。

Present Imperfect-n, Present perfect-lee, Past Imperfect-jee/cee, Past perfect-b (Poppe(1970:130-132)、Present imperfect -ne, Past perfect-v, Present perfect -lee, Past imperfect-jee (Binnick 1979:57-58)、Present-Future tense-(v⁴) -n, Past tense -(v⁴) -w, Immediate past -лаа⁴, past tense-жээ/-чээ (Hangin 1968:23, 24, 99, 114)、単純過去第一式-в、単純過去第二式-сан、近過去-лаа、遠過去-жээ/чээ、推察過去-aa、現在未來-на （橋本（監修）1993:79-82）、現在未來時の語尾-mui,mu、過去形語尾(1)-ba、過去時制語尾(2) 不確認過去-juqui,　回想の過去 -laa （小沢 1997:35-37, 43, 47-53, 128）、direct knowlegde Past-laa, neutral past-v, indirect knowlegde past -jee (Song 1997:151)、На-настояще-будущая форма, В-прошедше –настоящая форма, Жээ-длительно –прошедшая форма, Лаа- заведомо –законченная (Санжеев 1934:26)、Одоо цаг-на, Ирээдүй цаг-на, Өнгөрсөн цаг-Эрт өнгөрснийг биеэр мэдсэн-в, Өнгөрснийг дам сонссон-жээ/-чээ, саяхан өнгөрснийг биеэр мэдсэн-лаа (Цэгмид, Оюунцэцэг 2011:47)、proximal, evidential, deictic -laa, distal inrefential(also mirative) deictic-jee, neutral, distal, anaphoric -v, -san, distal -na (Binnick 2012:215)、Настояще-будущее время -на, Первое прошедшее время, Второе прошедшее время, Третье прошедшее время (Тодаева 1951:112)、Одоо ирээдүй цаг-на, Өнгөрсөн цаг-жээ/-чээ, -лаа,-в (Өнөрбаян1998:204-205)、Non-past-na, Past-ba/be,la/le, je/ce (Chuluu 1998:127)、Past -в, -лаа, -жээ, -сан、Present-на,-аа,- даг, Future-на, -лаа, -х (Tserenpil and Kullmann 2008:184)、Simple present tense of the Imperfect (Presens imperfecti) -на, Composite present tense-ж/ч байна, Composite past tense-ж/ч байсан, Present tense of the perfect(present perfect)-лаа, Preteritum perfecti-в, Preteritum Imperfecti-жээ/чээ, Immediate future-лаа (Lubsangdorji and Jaroslav 2004:34-35, 59, 159, 218).

上記の先行研究の問題点として以下の 3 点を挙げることができる。

[5]Лувсанвандан と Lapsangwangtan は同一人物であるが、文献により著名が異なる。
[6] Brosig と Брозиг は同一人物であるが、文献により著名が異なる。

1. 時制区分に関しては、モンゴル語において 2 から 7 つの時制の区別がなされている。つまり、現在完了、現在不完了、過去完了、過去不完了のような 4 時制の区分、現在、未来、過去の 3 区分、現在・未来と過去の 2 区分、現在と過去の 2 区分、未来と過去の 2 区分、非過去と過去の 2 区分など様々な区分が存在し、時制区分に関して学者達の意見は様々である。

2. 何を時制として扱うかということに関して、学者達の立場は様々で、一致していない。-na、-v、-laa、-jee/-chee 以外に動名詞語尾-san、-dag、-h、-aa、現在進行形 -j baina、過去進行形-ж/-ч байсан をも時制形式として扱っている研究も見られる。

3. 時制形式の名称に関しては、それぞれの表す意味によりアスペクト、モーダル、遠隔の度合のいずれかを考慮し、以下のような様々な名称を与えている。

非過去時制-na：a.Present Imperfect (Präsens imperfecti, Praesens imperfecti, Имперфектный презенс, Simple present tense of the Imperfect (Presens imperfecti), Настоящее время несовершенное)、b.Present or durative tense、c.Present-Future tense（現在・未來）d.未来、e.現在、f.非過去、g.distal -na の 7 通りの名称。

過去時制-v：a.Preterit imparfait、b.Past perfect、c.Past tense、d.Definite past tense、e.прошедше –настоящая форма、f.単純過去、g.過去談話、h.мэдэгдэж өнгөрсөн цагаар төгсгөх нөхцөл、i.мэдэгдэж түрүүн өнгөрсөн цаг、 j.Өнгөрсөн цаг-Эрт өнгөрснийг биеэр мэдсэн、k.мэдэгдээгүй өнгөрсөн цаг、l.neutral past、m.neutral・distal・anaphoric の 13 通りの名称。

過去時制-laa：a.Perfect、b.Present perfect、c.Past perfect tense、d.Finite past tense、e.未來、f.Immediate future、g.Immediate past、h.完了、i. 近接過去・近接未來、j. 決定、k.既知過去、l.форма достоверно прошедшего времени、m.мэдэгдэж сая өнгөрсөн цагаар төгсгөх нөхцөл、n.заведомо –законченная、o.саяхан өнгөрснийг биеэр мэдсэн、p.Өнгөрөн үргэлжилсэн цаг、q.回想の過去、r.direct knowlegde Past、s.proximal・evidential・deictic の 19 通りの名称。

過去時制-jee/-chee: a.Past Imperfect、b.past tense、c.Finite past tense、d.длительно –прошедшая форма、e.完了、f.遠過去、g.偶発、h.未知過去、i.мэдэгдээгүй өнгөрсөн цагаар төгсгөх нөхцөл、j.不確認過去、k.preterito non testimoniato、l.мэдэгдэж өнгөрсөн цаг、m.indirect past、n.indirect knowlegde past、o.эрт мэдэгдээгүй өнгөрсөн цаг、p.Өнгөрснийг дам сонссон、q.distal ・inrefential(also mirative) ・deictic の 17 通りの名称。

3.2.1.1.　非過去時制(-na) に関する主な先行研究

先行研究において、非過去時制(-na)は、意味論、語用論、統語論的観点から分析されている。

Бадан (1989:35, 38-43)は、非過去形-на は、発話時および発話時の後に起こる出来事を表す[7]と述べている。さらに、非過去形を分析的および合成的という 2 つの形式に分けている[8]。動詞の分析的非過去形は、具体的な現在時/Олон хонь, үхэр, адуу гэрийн ойр бэлчиж байна./ また、未来時/Галт тэрэг явахаас хагас цагийн өмнө очоорой. Би тэнд байж байна./ も表すことができる。非過去時制の合成的形式は、未来および一般的現在時を表す。モンゴル語の非過去形は、狭い文脈(узком контексте)において用いられる時、変化状態を表す動詞つまり運動動詞（бол-, эхлэ-, ир-, гар-など）の場合は未来時/Багш болно./を表し、状態、恒久的な意味を表す動詞（бай-, орш-, мэд-, чад-など）の場合は現在時/Би мэднэ./を表す。一般的現在時は、1. 発話時の瞬間に行われ、比較的短期間に行われる動作/Эргийн дээгүүр цэцэг ногоо ч харагдана. / 、2. 日、月や人間の生および社会の特定の期間のように比較的長期間において一般的に繰り返し行われる動作/Долингорынх усны гангүй тул Болдын уснаас авна./、3. 人、物や自然現象などその存在の全ての時間特徴である、本来の動作/Хоолны давс усанд урсана./の 3 つの意味を表す。

Song (1997:151-160)は、非過去時制-na の表す意味を時間的意味とアスペクト的意味に分け、時間的な意味において非過去時制は現在、未来、無時間的場面を表しており、アスペクト的意味においては、習慣および進行の意味を表すと述べている。さらに、接尾辞-na は、非過去時制マーカーであることを指摘し、そのアスペクト的含意は通言語学的に妥当な概念およびその時間的意味に由来すると主張している。

Chuluu (1998: 129, 131, 134)によれば、非過去時制は、発話時と同時および発話時の後に起こる出来事を表し、-na/-ne および qu/kü の 2 つの形態素がある。前者は肯定文に、後者は質問文および

---

[7] 接辞-на 以外の形としては、文学作品などのテクストにおいて稀に古風なフォルマント-нам, -муй/-мүй, муу, -юу が現れる。(Бадан 1989:35)

[8] Bickel and Nichols (2005:94) によるとテンス、態、または呼応のような文法的なカテゴリーは、個々の語によって、あるいは他のいくつかの語（または語幹）に付けられた接辞のいずれかによって表現することができる。語は接辞と結合した場合、その構成は**合成的**であると言われ、そうでない場合には、**分析的**であると言われる。例えば、過去形では、英語の動詞は（she painted の接尾辞-*ed* のように）時制を表す接辞と結合する。この painted のような形式は、合成的と呼ばれている。未来形では、対照的に、動詞は接辞と結合しない。未来形は別々の語（she will paint の will ように）により表される。この will paint のような形式は分析的と呼ばれている。

否定文に用いられる。非過去時制-na/-ne は現在時、未来時だけではなく、非過去という意味に加えて不特定の時間 (non-specific time)、格言的場面 (gnomic situation) および習慣 (habituative) を表す。

Chaolu (1996: 58-60)は、非過去時制-na が現在時を表しているか未来時を表しているかは動詞のタイプによると指摘している。Chaolu はまた、「モンゴル語の非過去時制接辞を付加する動詞は意味論的に状態動詞および動作動詞の 2 グループに分かれ、現在時に言及できる動詞はすべて状態動詞であり、この場合、知識や会話状態は発話時におけるのみでなく、また過去時にも存在し、恐らく未来時にも継続することから、非過去時制は現在時というよりむしろ無時間的な事実に言及する。活動動詞の場合は未来時を表す」と述べている。

Brosig (2009) はモンゴル語ハルハ方言における接尾辞-na がいかに使用されているか、つまり接尾辞-na の機能を、アスペクトの対立(aspect oppositions)やアクチオンスアルトー独自用法(aktionsart –independent uses)（例えば、「総称的」）、テクストー特定の用法(text-specific uses)、アクチオンスアルトとの相互作用、さらに話者の年齢等の要因を考慮することによって探ることを試みている。その結果、「-na が特定の時点に関連する機能を失い、その代わりにモーダル的意味合いを獲得する過程にある漂白化された不完結的(bleached imperfective) マーカーである」と主張している。

3.2.1.2.　過去時制に関する主な先行研究

先行研究では、意味論、語用論、統語論的な観点から、過去時制接尾辞 (-v、-laa、-jee/-chee) の意味および用法、人称との共起性、動詞のタイプとの共起性（過去形-laa のみ）、およびその表す意味が考察されている。過去時制接尾辞 (-v、-laa、-jee/-chee) の代表的な研究として以下の幾つかに触れておく。

Бадан (1989:18)は、-жээ を「確認されていない過去形 (форма заглазно прошедшего времени)」と呼び、-в、 -лаа の 2 つを「確認された過去形 (форма достоверно прошедшего времени)」と呼び、個別に論じている。-лаа、 -в という形式は話者によって確認された、あるいはかなり過去の出来事を表現するのに対し、-жээ という形式は話者の目の前で行われていない出来事を示す。Бадан は「-лаа と -в の相違については、それらが表す文法的およびモーダル的な意味ではなく、それらの文体レベルにおける使用を検討すべきである。つまり、-лаа と -в は過去という時間を表す点では共通しているが、話者がその場に存在したか否かという点でお互いに異なる」と述べている。

橋本 (1993:3, 15)は、3 つの過去形接尾辞をテンスを表すという観点から考察しているが、これらの接尾辞が同じような環境で出現し、同じ談話内で交替する事実を観察したことから、一つの基本的意味【過去時の指示】を共有していると指摘している。さらに、完全に重なり合うことのないこれら 3 つの接尾辞の指示領域を以下の図 1 のように示している。

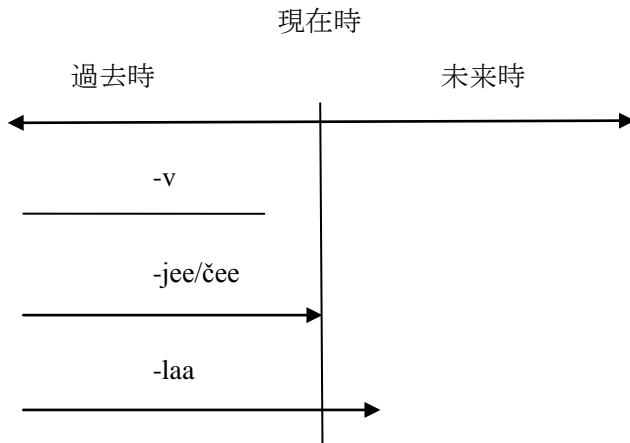



図 1　（橋本 1993:16）

Chaolu (1995:107, 1996:84)、Chuluu (1998:164)は、「-лаа と -в という接尾辞は他の可能な用法についての未解決の疑問点を残しているため、これらの過去形接尾辞に個別の定義を与える試みは不十分である。それぞれの接尾辞は、それが用いられる文脈または結合される動詞に応じて異なる意味を有することができる。従って、接尾辞の意味は、唯一の考慮事項ではない。代わりに、コンテクストは、機能を説明する重要な要因となる [9]。…過去という同じ時制を示すために、これらの異なる形態は、2 つ以上の意味を持つことができるが、時制の意味の点で一方は他方から大幅に異なることはない [10]。…それらは、種々の過去時制、つまり直接過去と間接過去、近過去と遠過去、あるいは周知の事実と間接知識を指示するという点において異なることはない。むしろ、それらは含意されている話者の態度、その他の特定の情報において異なる [11]」と述べている。

Song (1997:183, 217, 218)は、「モンゴル語における 3 つの過去時制接尾辞の区別は遠隔の度合においてではなく証拠性において異なる」と指摘している。彼は、上記 3 つの接尾辞を考察した結果、direct knowlegde past-laa、indirect knowlegde past -jee、neutral past-v という意味を指摘している。

[9] Chaolu (1995:107)、訳は筆者による。以下同様。
[10] Chaolu (1996:84)。
[11] Chuluu (1998:164)。尚、Chaolu と Chuluu は同一人物であるが、文献により署名が異なる。

また、「主語との共起性もこの指摘を支持している」と述べ、「indirect knowlegde past –jee は普通一人称主語と共起しないのに対し、他の 2 つは自由に共起する」と述べている。

Nelson et.al. (1998: 116-117)は、上述の Chaolu (1995)の指摘に対し、ハルハモンゴル語における -v 、-laa、 -jee、-son の 4 つを過去時制として扱い、それらが文体、テンス、アスペクト意味および語用論的な特徴としての証拠性において体系的に異なることを指摘し、以下表 2 のように図示している。

表 2

	Style	Evidential	Tense
/-jee/	written or spoken	no	past
/-laa/	written or spoken	yes	proximal
/-v/	written	yes/no	past
/-son/	spoken	yes/no	past

(Nelson et.al.1998:130)

Binnick (2012:215-220)は、モンゴル語の接尾辞-v、-laa、-jee、-san の 4 つを過去時制マーカーとして扱い、「これら 4 つの過去時制は相互に異なっており、自由に交替することは不可能である」と述べている。Binnick は、「-laa は evidential-deictic-proximal であり、-jee は inferential-deictic-distal であり、-v は anaphoric distal である」と主張している。

以上、テンスに関する先行研究をまとめると、学者達の殆どは上記の接尾辞-na、-v、 -laa 、-jee の 4 つをそれぞれ過去時、現在時、未来時を表す時制範疇であると認めているが、それらが表す意味・機能が互いに異なることに関しては立場が一致しておらず、様々である。

3.2.2. アスペクトに関する主な先行研究

ここでは、モンゴル語のアスペクトに関する先行研究を概説する。アスペクトについての主な先行研究としては Тодаева (1951)、Street (1963)、Bosson (1964)、Hangin (1968, 1973)、清格尔泰 /Chinggeltei / (2010)、 Шевернина (1982)、 Baek (1986)、 小沢 (1987)、Swanteson (1991)、Dugarova (1991)、橋本 (1995)、Song (1997)、Chuluu (1998)、Badan (1989)、Лувсанвандан (1987)、Өнөрбаян (1998)、Tserenpil and Kullmann (2008)、塩谷・バダムハンド (2009)、松岡 (2008)などが挙げられる。

Chuluu (1998)は“There is no salient inflectional morpheme for marking either the opposition of the perfective and imperfective aspects or the perfect in Mongolian, but there are several kinds of single form or compound structure for signaling the sub-classes of imperfective and perfect.”と述べている。

Лувсанвандан (1987)は、モンゴル語においてアスペクトを表す形式は、1.合成的手段(нийлэг арга)、2.分析的手段(задлаг арга)、3.繰り返し手段(давталтын арга)の 3 種類があると述べている。

1. 先行研究におけるアスペクト的意味を表す合成的手段として以下の幾つかの屈折接尾辞、派生接尾辞が挙げられている。

-lz- (repetition, long durative repetition, rhythmic motion)、-walj-(repetition, long durative repetition)、-galj-(repetition, long durative repetition)、-l-(Repetitive action, 多回性, frequentative)、-гн-, -гана-(repetition, durative repetition)、-či (repetition)、-чигна,-жигнэ-(continuous, дахин давтан үйлдэх)、-gina/-gine-(continuous дахин давтан үйлдэх)、-kira/-kire- (continuous)、-gi- (continuous)、-лхил-(repeated action, үргэлжлэн үйлдэх байдал)、-чана-(дахин давтан үйлдэх)、 -вхий-(хоромхон үйлдэх байдал)、-вхил-(үргэлжлэн үйлдэх байдал)、-ни-(үргэлжлэн үйлдэх байдал)、-čх-, -čix-(fully completed, 動作が何らかの限界を達成した、動作が「力強くヴィヴィッドに」行われる；perfective)、-схий-(動作が一瞬のうちに行われる、その動作が行われる前の状態に戻る；short duration, rapid or repeated action Quick action) 、- зна-/-знэ-/-зно-/-знө- (動作の暫時性を示す；Temporary action)、-aadah-(即時アスペクト；Бүрмөсөн үйлдэх байдал)、-čgaa-(複数の人々が一斉に動作を行うことを示す；Collective action、олноороо үйлдэх байдал,)、非過去時制-na (habitual, progressive, repetition)、動名詞語尾-san (perfective)、-aa (imperfective:durative, resultative)、-dag (habitual)、-čiqaǰai/-čikeǰei(resultative, completive)

上記の接尾辞が屈折接尾辞であるか派生接尾辞であるかという点に関しては、学者達の意見はいまだ一致しておらず、様々である。

2. アスペクト的意味を表す分析的手段(задлаг арга)として以下の形式が指摘されている。

-j bai-：durative/iterative、 imperfective action、progressive、 длительний（継続、進行アスペクト）

-aad bai-：perfective、 durative、 iterative、continuous, repeated action, результативный（反復、完了、反復継続アスペクト）

-saar bai-：strong durative、 continuous、продолжающийся（継続）、Progressive-Perfect action、үйлийн үргэлжлэн болох

-san bai-：perfect（完了アスペクト）

-dag bai-, bol-：олон удаа болох буюу байнга болох（習慣アスペクト）

-(chih)san bai-, -(chih)aad bai -：perfect action

-maar bai-：inceptive

Chuluu (1998)は、アスペクト的意味を表す補助動詞として以下の幾つかを取り上げている。彼はそれらを準補助動詞と呼び、さらに、以下の 3 種類に分類している。

第一グループ：補助動詞 ekile-、oči-、oro-（出来事の始点）

第二グループ：補助動詞 suu-、yav-、ir-（出来事の継続）

第三グループ：補助動詞 bar-、duus-、orhi-、av-（出来事の終点）

3. 清格尔泰 /Chinggeltei /(2010)、Лувсанвандан (1987)、Өнөрбаян (1998)によりアスペクト的意味を表す繰り返し手段 (давталтын арга) として以下のものが指摘されている。

一部の連用語尾により形成された動詞の繰り返しによるアスペクト的意味：

V+-saar V+saar：長期間継続 (уйлсаар уйлсаар)

V+aad V+aad：反復、長期間継続 (бодоод бодоод)

V+n V+n：反復 (бодон бодон)

V+j V+j：長期間継続 (бодож бодож)

V+j V+aad：短期継続 (hadaj hadaad)

V+n V+saar ：継続(бодон бодсоор)

V(語幹) V+saar：継続 (эр эрсээр)

6.V(語幹) V(語幹) ：反復 (бут бут цохих)

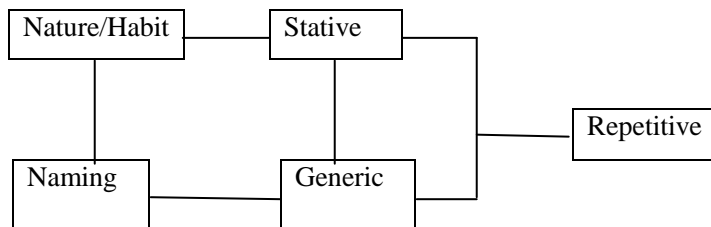
橋本 (1995)は、モンゴル語の-dag 接尾辞を習慣相として扱い、それが表す意味として、繰り返される行為/事態、状態、特性/習性、名付け、総称の 5 つを指摘している。さらに、それらの意味は、次のようなネットワークを形成すると主張している。

（橋本 1995:64）

図 2

橋本は、「行為／事態の繰り返しの頻度が密になり、もはや間隔が識別できないほどになると状態化が起こるようになる。それは個別的な行為／事態にではなく、連続体や集合体に適用されたりする。この状態化をある指示対象に唯一的に付与すれば特性／習性と解釈される。他方、状態化の結果が恒常化すれば、名付けとなり一般的な、すなわち、非特定的な指示対象に適用先が限定されれば、総称的となる。この接尾辞が付く動詞のタイプや他の言語要素、コンテクストなどとの相互作用により、ネットワークを構成する意味のどれかが前景化されるのである」と述べている。

Song (1995, 1997)は、-j bai-形式を進行を表す形式として扱っており、「モンゴル語の進行形-j bai-は語彙的な制限が小さく、動作動詞のみではなく状態動詞にも用いられる。動作動詞の場合は進行を表し、状態動詞の場合は場面の一時的な性質を強調する。モンゴル語の進行形は状態、習慣、継続の意味を表す」と述べている。さらに、モンゴル語の限界動詞 (telic verb) には終了限界後の結果状態を含意するものとしないものがあると主張し、含意しない限界動詞を Telic A、含意する限界動詞を Telic B と呼んでいる。Telic A タイプの限界動詞の場合、-j bai- 形式は、進行の意味を表すのに対し、Telic B タイプの限界動詞の場合、進行の意味か結果の意味かという点については曖昧になると主張している。

松岡(2008)は、中国内蒙古自治区東部で話されるホルチン方言を対象にして、モンゴル語のアスペクトについて、共時態、通時態の 2 つの側面から論じ、従来の研究においてアスペクト形式として扱われて いた形式を以下のように 5 種にまとめている。

a.「ゼロ形式（音形を持たない無標の形式）」

b.「接辞」(-sx-, -čix, -čgaa, -lz-など)

c.「副動詞+bai-」(-j bai-, -aad (l) bai-, -saar bai-)

d.「形動詞+bai-」(-san bai-, -dag bai-)

e.「 副動詞+副動詞」(-saar+-saar, -aad +-aad など)

松岡は、「上記の五種類の中では、アスペクト範疇を形成するのは a と c の 2 種類のみであり、現代語のアスペクト体系は、1.動作の継続について、無標の「一般相」（ゼロ形式）と有標の「継続相」（副動詞+bai-）が対立を成しており、2.有標の「継続相」は、さらに、動作の継続を動きのあるものとして捉えるか、動きのないものとして捉えるかにおいて「動的継続相」（-j bai-）と「静的継続相」（-aad bai-）の対立をなしており、3.有標の「継続相」は、さらに、動作が継続する時間的長さにおいて、「継続相」（-j bai-）と「長期継続相」（-saar bai-）の対立をなす」と述べている。

松岡によれば、ホルチン方言のアスペクト・テンス体系は以下表 4 のように示される。

表 4　ホルチン方言のアスペクト・テンス体系

アスペクト テンス		一般相 （無標）	継続相（有標）		
			（動的）継続相	静的継続相	長期継続相
		- φ -	-j bai-	-aad bai-	-saar bai-
非過去	-n	-n	-j bai-n	-aad bai-n	-saar bai-n
過去	-sn	-sn	-j bai-sn	-aad bai-sn	-saar bai-sn
	-laa	-laa	-j bai-laa	-aad bai-laa	-saar bai-laa
	-jee	-jee	-j bai-jee	-aad bai-jee	-saar bai-jee

(松岡 2008:83)[12]

松岡はさらに、アスペクトの意味に関わる動詞の分類を行い、「現代モンゴル語の動詞は、第一に、形式的にゼロ形と「-j bai-」がアスペクト的に対立するかどうかによって、動作動詞と状態動詞に分類しうる。対立する動詞を動作動詞、対立しない動詞を状態動詞と呼ぶ。第二に、動作動詞は「-gad bayi-」が結果性を表すかどうかによって、限界動詞と非限界動詞に分類しうる。「-gad bai-」が結果性を表す動詞を限界動詞、結果性を表さない動詞を非限界動詞と呼ぶ。第三に、限界動詞は「-ju bayi-」が結果性を表すかどうかによって、Telic A、Telic B に分類しうる。「-j bai-」が進行性のみを表す動詞を Telic A、結果性を表すことのできる動詞を Telic B と呼ぶ」と述べている。

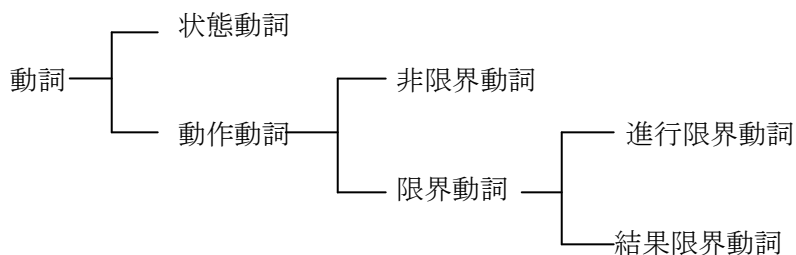
ホルチン方言の動詞分類

松岡 (2008:85)

図 3

12 一部修正箇所がある。

また、従来の研究においてはアスペクトを表す接辞として扱われている“-sx-”を暫時アクツィオンスアールト、“ –čix-”を達成アクツィオンスアールトであると指摘しており、迂言的形“-j exil-”を開始アクツィオンスアールト、“-j bar-”を終了アクツィオンスアールトであること、“-l/-lj-/-walj-/-galj-”(以下、“-l-”と表記)と“-aad(-l) bai-”の 2 つをアスペクト形式ではないと指摘している。さらに、現代モンゴル語に反復相はないと述べており、“-l-”を多回アクツィオンスアールトであること、“-dag bai-”を習慣相ではないと主張しており、「現代語の“-dag” はもともと補文標識であったものが、アスペクト形式として文法化しつつある途上にあるではないかと考える」と述べ、“-san bai- ”をパーフェクト形式だと主張している。

3.3. 英語のテンス、アスペクトに関する先行研究概説

3.3.1.はじめに

英語のテンス、アスペクトに関する先行研究はモンゴル語と比べると、通言語学、個別言語学、対照言語学の分野において、言うまでもなく比較にならないほど多く存在する。従って、現在までの先行研究において学者達が英語の時制、アスペクトをどのように区分し、何を時制、アスペクトを表す形式、表現として認め取り上げてきたかということについて簡単に触れておく。

3.3.2.テンスに関する先行研究の概説

まず、先行研究における学者達の時制区分に関する論述を見ると、英語の時制は過去／非過去の対立を中心に未来時制が存在する(Sweet (1891) 、Poutsma (1904, 1922)、Curme (1931) 、Onions (1932)、Millington-Ward (1954)、Zandvoort (1960)、Declerck (1991, 2006)、Teschner and Evans (2007) など) あるいは未来時制は存在しない (Jespersen (1924, 1931,1933)、 Kruisinga (1932) 、Schibsbye (1965) 、Quirk et. al.(1985)、Biber et. al.(1999)、Leech and Svartik (1994)、Huddleston and Pullum (2002)、Leech (1971, 2004)、Yule (2004)、Downing and Locke (2006)など) という 2 つのグループに大別することができる。

Declerck (1991:8-13) は未来時制はないという指摘に対して、文法範疇は屈折以外に迂言形式によっても成り立つので、英語には過去、現在という 2 つの視点があり、過去、現在、未来の三時制があると述べている。一方、Jespersen (1924:258-262, 1931:3, 1933:231) は英語やドイツ語を含むゲルマン語派の時制は過去と非過去であり、非過去が現在と未来の両方を示すと述べ、英語におい

てはただ2つの時制（現在時制および過去時制）のみがあると述べ、未来時制を認めない。その理由として、一つには未来を表すとしている shall、will には意志の意味が含まれていること、また未来の意味は必ずしもこの表現により表されず、他の仕方によっても表されるからであると述べている。

次に、上述の 2 ないし 3 時制区分以外に何を時制として扱っているかに関して、学者の間の意見は様々である。

第一グループの学者達、つまり現在時制、過去時制、未来時制があると指摘している学者達：Sweet (1891:271) は、完了(Perfect)、過去完了(Pluperfect)、未来完了(Future perfect)、過去未来(Preterite future)、定時制(Definite tense[13]) を認め、Poutsma (1904:29)は、前過去時制(ante-preterite tense)、前未来時制(ante-future tense)、後過去時制(post-preterite tense)、後未来時制(post-future tense)を認め、Curme (1931:36)は Present perfect、Past perfect、Future Perfect を認めている。Onions (1932:107)は単純時制 (simple tense)、複合時制 (compound tense)の 2 つに分け、単純時制 (simple tense)としては、屈折により形成される現在時制、過去時制を挙げ、複合時制(compound tense)としては迂言形式により形成される will(would)+V、shall(should)+V 、have(had)+V-en、be+ing を挙げ、その中で-ing 形式を伴ういわゆる時制を継続時制と呼んでいる。Zandvoort (1960)は完了(Perfect)、過去完了(Pluperfect)、未来完了(Future perfect)、過去未来(Preterite Future)を認め、Declerck (1991, 2006)は、現在完了(Present Perfect)、過去完了(Past Perfect)、過去条件(Conditional past)、未来完了(Future perfect)を認め、Teschner and Evans (2007:38-39)は、Conditional tense、Present Perfect、 Past Perfect、 Conditional Perfect tense 、Present progressive、Past Progressive、Present Perfect Progressive、Past Perfect Progressive、 Present Perfect progressive、Past Perfect Progressive、Conditional Perfect progressive tense を認めている。

第二グループの学者達、つまり現在時制、過去時制があると指摘している学者達：Jespersen (1931:3-4)は、過去時制 (Preterite)、現在時制 (Present)以外に時制表現 (tense- phrases)としてパーフェクト(Perfect)、過去完了(Pluperfect)、拡張現在 (Expanded Present)、拡張過去 (Expanded Preterite)、拡張完了(Expanded Perfect)、過去完了(Expanded pluperfect)を認めている。Leech (1971, 2004:2-3)は、「「時制」(Tense)という術語は現在時制、過去時制という重要な区別だけでなく、現在完了時制、過去進行時制などの下位範疇にも用いる [14]」と述べ、現在進行時制、過去進行時制、現在完了時制、過去完了時制、現在完了進行時制、過去完了進行時制を認めている。Schibsbye (1965) は、完了(Perfect)、過去完了(Pluperfect)を認めている。Huddleston and Pullum (2002)は動詞のテンス体系を一次テンス(Primary tense)および二次テンス(Secondary tense)の 2 つに

---

[13] -ing 形式を伴ういわゆる時制としての形式を指している。
[14] 訳は Kunihiro(1976:4)に従う。

分けており、前者に、過去 (Preterite)、現在 (Present)の 2 つ、 後者には、完了(Perfect)、非完了 (Non perfect)の 2 つを挙げている。

また、第二グループの学者達の中では、Kruisinga (1932:29,154) 、Quirk et. al (1985:176)、Biber et. al. (1999:453) 、Yule (2004:53)などが屈折形式を持つ現在時制 (Present tense)と過去時制 (Preterite or Past)のみを認めており、他は認めていない。

先行研究を見ると、時制区分についての学者達の指摘は大きく 2 つのグループに分かれるが、いくつの下位分類時制があるかに関しては様々であることが分かる。

先行研究において、学者達は、未来時を表す様々な手段、現在時制の現在時以外の時間に言及する用法、同様に過去時制の様々な用法、引用文において、主文が過去時制の場合現在時制が過去時制になる現象などを意味論的、語用論的、統語論的観点から様々に説明している。

上記以外に、最近は、英語のテンス体系を公式的理論 (formal theory of tense[15]) の観点から考察する研究が進んでいる。代表的研究として Reichenbach (1947)、Hornstein (1977, 1990)、Smith (1981)、Comrie (1985)、Klein (1994)、Wada (2001)、Declerck (1991, 2006)が挙げられる。その中から、Declerck (1991)に触れておく。

Declerck (1991: 20)は、decriptive theory という理論を提出している。その理論においては、「英語話者は時間線を過去時領域 (past time-sphere)と現在時領域 (present time-sphere)の 2 つに分けている」と述べ、「過去時領域は、完全に発話時以前にあるものとして捉えられる時間領域であり、現在時領域は、発話時を含む時間領域である」と述べている。さらに、「現在時領域を発話時を境として、現在前時領域 (pre-present sector)、現在時領域 (present sector)、現在後時領域 (post-present sector)の 3 つの部分に分けている。この 3 つの現在時領域の部分は過去時領域とともに発話時との直接関係による絶対的時間部門を成す。従って、過去時領域は、発話時の前の部分であり、現在前時領域 (pre-present sector)は、現在時領域の一部ではあるが、発話時より前の部分であり、現在時領域 (present sector)は、現在時領域の一部で、発話時を取りまいている部分であり、現在後時領域 (post-present sector)は、現在時領域の一部で、発話時に続く部分である」として、この 4 つの絶対的時間領域に場面を位置づけるテンスとして過去時制 (past tense)、過去完了(past perfect)、条件時制(conditional tense)、条件完了(conditional perfect tense)の 4 つを挙げている。また、Declerck の理論においては、「支配領域 (temporal domain)、支配領域の転換 (shift of domain)、時間的視点の転換 (shift of temporal perspective)という 3 つの概念が重要である」としている。

さらに、支配領域 (temporal domain)に関しては、「複文や談話の流れの中においては、複数の異なった節の表す場面と場面の間に、時間の依存関係が見られる。この場合、時間の支配領域

---

[15] Comrie(1985:122)を参照。

(temporal domain)ということが問題となってくる[16]」として、以下の文(1)において過去時領域内にあって、描かれている 4 つの場面の時間からなる時間的範囲が問題とされている。この支配領域は、最上位の動詞の過去形 said によって定められている。was tired は、主文の述語 said との同時関係にあり、had worked hard は従属節の was tired との前時関係にあり、would go to sleep は主文の said との後時関係にある。

(1) John *said* he *was tired* because he *had worked* hard and that he *would go to sleep* early. (Declerck 1991 :20)

さらに、支配領域の転換 (shift of temporal domain)に関しては、「談話の流れの中においては、新しい節を導入する場合、その節が表す場面を、すでに定められている時間の支配領域に組み込むのか、あるいは、その節によって新しい時間の支配領域を定めるのか、話し手は、その都度、決めなければならない。後者の場合、支配領域転換ということが問題となってくる[17]」として、例えば、以下の文(2a)において「left は過去時領域を定める絶対的過去時制であり、あとの二つの過去形は、それぞれの場面が left によって表されている中心場面と同時的であることを示す相対時制である。こうして、三つの場面は、同じ時間の支配領域に位置付けられることになる。(2b)では、幾つかの場面が時間的に連続して生じているが、時制によって場面相互の依存関係を示すことはしていない。どの節にも絶対時制を用いている。従って、新しい節ごとに支配領域が転換されている。」[18]

(2) a.I *left* while Bill *was sleeping* and Mary *was having* a bath. （安井 2011:120）

b. Suddenly the phone *rang*. Jill *stood up* from her chair, *went over* to the telephone and *picked up* the receiver. （安井 2011:120）

時間的視点の転換 (a shift of temporal perspective) に関しては、「ある時間の支配領域に属している場面が、あたかも別時間の支配領域に属しているかのように表される場合がある。典型例は、いわゆる歴史的現在 (historic present) である[19]」と述べ、以下の例を挙げている。

(3) Suddenly a man in uniform *takes* me by the arm and *asks* me what I'*m doing* there. （安井 2011:122）

3.3.3.アスペクトに関する先行研究の概説

英語においては、アスペクトの意味を表す手段としてテンス、副詞表現、名詞表現、動詞のタイプ、動詞構造、句動詞、準動詞、補文構造などの様々な手段が存在する。

---

[16] 訳は安井(2011:119)に従う。
[17] 訳は安井(2011:120)に従う。
[18]訳は安井(2011:120)に従う。
[19] 訳は安井(2011:122)に従う。

英語のアスペクトの先行研究においては、主に動詞の文法形式および動詞の語彙的意味が扱われており、これら 2 タイプの研究が殆どであると言える。

まず動詞の文法形式を扱った研究は進行形 (Progressive) /be V+ing/、および完了(Perfect) /have V+-PP.II/の 2 つの迂言形式に限られている。

進行形に関して、Sweet (1891, 1898)は、この形式を定時制 (definite tense)と呼んでおり、incompletion がその基本的な意味である。Jespersen (1924:277-278)はあらゆる進行形を拡張時制 (expanded tense) と呼び、“The purport of the expanded tenses is not to express duration in itself, but relative duration, compared with the shorter time occupied by some other action.”と述べている。Poutsma (1926:290, 315-348)、Curme (1931:373-377)、Kruisinga (1931:237)、Palmer (1974:35,55-58)は、進行形の基本的意味は duration であると述べ、Kruisinga (1931)は、継続相と呼んでいる。Joos (1964:106-115)、Twadell (1963:9-12)では、limited duration であると述べられている。Quirk et.al. (1972a:93)は進行形が表す意味として temporariness、limited duration、characterisitc activity、incompletion を挙げているが、それらに共通する進行形の本質は議論されていない。Mindt (2000:249-265)は、進行形が表す意味を incompletion 、temporariness、 iteration/habit、 highlighting/prominence、 emotion、politeness/downtowning、 prediction、 volition/intention、 matter-of-course の 9 つに区別し、その中で、incompletion 、 temporariness、iteration/habit、highlighting /prominence の 4 つを原型意味であると述べている。Leech (2004:14-23)は、進行形が、一時的な出来事、継続的な出来事、限界的継続的な出来事、必ずしも完結していない出来事、時間の枠が形成する出来事、時間の枠を形成しない出来事の 6 つの意味を表すと述べており、上記の中では、継続(duration)、限界的継続(limited duration)および物事が必ずしも完結していない、という 3 つの意味が重要であるとしている。Hatcher (1951)は現在時制に限定して考察した結果、上記の学者達とは異なり、進行形は overt あるいは developing 活動および involvement of the subject を表すと述べている。Calver (1946)は“..is used in reporting events merely as such.” つまり進行形は mere occurrence あるいは mere activity を表すと述べている。

学者達は、出来事のタイプおよび動詞の持ち前の意味が進行形の使用に影響する 2 つの要因であることを観察し、その点について論じている。Leech (2004:18-19)は、進行形が容認可能な動詞として、momentary verbs、transitional verbs、activity verbs、process verbs を挙げ、一方、容認不可能な動詞として verbs of inert perception、verbs of inert cognition、verbs of attitude、state verbs of having and being、verbs of bodily sensation を挙げている。進行形(be V+–ing)をテンスとして扱っている少数の研究を除き、先行研究の殆どは相の範疇として認め、継続相、進行相という 2 通りの名称を与えている。先行研究において重視されているのは、まず進行形の意味素で、on-going、duration、 limited duration、 incompletion、 contingency、 mere occurrence、 pure or overt activity、

simultainety、time frame、 tentativeという様々な意味が指摘されていること、次に、動詞のタイプおよび場面タイプとの共起性で、進行形が状態動詞、状態場面、到達動詞、到達場面において制限されたり、されなかったりすることの2点が指摘されている。

完了形に関しては、完了形をアスペクトとして扱うグループ(Kuryłovicz (1964)、McCawley (1971)、Comrie (1976)、Quirk et.al (1985)、Smith (1991))、時制として扱うグループ(Jespersen (1924)、Poutsma (1926)、Curme (1931)、Reichenbah (1947)、Comrie (1985)、Bybee (1985:159-161)、Declerck (1991, 2006)、および時制、アスペクトのいずれも表すとするグループ(Givon 1991:278-284)の3つがある。先行研究においては、完了形がアスペクトであると指摘している学者達の殆どがその基本的意味としてcurrent relevance、completion、resultの3つを挙げている。アスペクトではないとしている学者達は、時間副詞との共起性によりindefinite past、extended now、embedded pastの3つが完了形の基本的意味であると述べている。

完了形が表す意味に関しては、殆どの学者は、大きく2つから4つの意味を表すことを観察しており、意味ごとに様々な呼び方をしている。Jespersen (1924:269-272)は、permansive present or retrospective variety of the present 、inclusive past-and-present、Kruisinga (1931:390-391)は、resultative perfect、continuative perfect、Leech (1971:31-34、2004:36-40)は、state-up-to-the-present、 indefinite past /recent indefinite past/、habit-in-a-period-leading-up-to-the-present、resultative past、McCawley (1971:104)は、stative perfect、universal perfect、existential perfect、hot news perfect、Comrie (1976:56-61)は、perfect of result、experiential perfect、perfect of persistent situation、perfect of recent past、Quirk et.al. (1985:192)は、state leading up to the present、indefinite event(s) in a period leading up to the present、habit (i.e.recurrent event) in a period leading up to the present、Declerck (2006:211)は、indefinite (including the so called ‘experiential perfect’use, the‘hot news’reading, the‘resultative’reading, and the ‘recency’ reading)、continuative、up-to-nowのようにそれぞれ区別している。

また、完了形の動詞タイプおよび時間副詞との相互作用も論じている。例えば、Bauer (1970: 192-193)によるとtelic verbおよびmomentaneous verbsと共起する場合、目的を達成した意味を表し(I have persuaded him.)、atelic verbの場合はこのような意味を表さない(He has lived in different parts of the world.)。さらに、パーフェクトに特徴的な時間領域つまり基準点より前の期間を示す副詞的表現の一種(up till now, ever since, for the last two months, never (yet)など)があり、前者に加えると反復の意味が表され、後者に加えると継続完了の意味が表される。

英語における動詞のタイプの区別を行った代表的研究としては、Poutsma (1926)、Curme (1931)、Kenny (1963)、Vendler (1967)、Dowty (1972, 1991)、Carlson (1981)、Smith (1991)などが挙げられる。

Poutsma (1926:285-313)は英語の動詞を大きくmomentanous (leave, arrive, dip, stab, obtain)、durative(indefinitely durative/live, bear/, ingressively durative/arise, clear/, terminatively durative/bring,

hatch/, continuously durative/outlast, survive/)および iterative (momentaneously iterative/pant/, duratively iterative/struggle/)の 3 つに大別し、文脈が継続動詞および瞬間動詞にアスペクト (ingressive, terminative, durative, continuative, iterative) を付与することができるかについて説明している。

Curme (1931:373-388)は、1.継続相 (durative aspect)/進行形、remain, keep,keep on, go on, continue など/、2.点動作相 (point-action aspects)/始動相 (ingressive aspect) He awoke early. 、結果相(effective aspect) He knocked him out in the fourth round./、3.終結相 (terminate aspect)/He handed me a book/、4.反復相(Iterative aspect)/He threw his head back and haw-hawed. The fire crackles./の 4 つを動詞（句）の持っている辞書的意味の違いにより区別している。

Kenny (1963:171-186)は、動詞を static、activity および performance の 3 つに分けており、Vendler (1967:97-121)は、動詞のタイプとして state、 activity 、accomplishment、 achievement の 4 つを挙げ、それらを±stative、±durative、±telic、±voluntary という 4 つの意味特徴により以下のように区別している。

State:+stative, +durative, -telic, -voluntary
Activity: -stative, +durative, -telic, ±voluntary
Accomplishment: -stative, +durative, +telic, ±voluntary
Achievement: -stative, -durative, ±voluntary

さらに、Vendler は、もう一つの意味特徴として均質性(homogeneity)を挙げ、state と activity は +homogeneous であり、accomplishment は -homogeneous であると主張している。

Dowty (1991:184)は、states、activities、single change of state、complex change of state の 4 つに分け、それらをさらに non-agentive、 agentive に分けている。

	Non-agentive	Agentive
States	be asleep, be in the garden, (stage level); love, know (object level)	be polite, be a hero
	Interval statives: sit,stand, lie	Interval statives: sit, stand, lie (with human subject)
Activities	make noise, roll, rain	walk, laugh, dance
Single change of state	notice, realize	kill, point out
Complex change of state	flow from x to y, dissolve	build a house, walk from x to y, walk a mile

Carlson (1981:31-63)は、momentaneous(hit, notice, blink)、stative(be full-grown, remember)、achievement(close, miss, attack)、dynamic(stand)、accomplishment(run a mile, grow, write a paper)、activity(play, walk, use)を区別しており、±simple tense+momentaneous adverbials、±progressive aspect、±simple tense+durative adverbials と共起するか非かにより特徴付けている。

Momentaneous:+simple tense+momentaneous adverb, -progressive, -simple tense+durative adverb
Stative: +simple tense+momentaneous adverb, -progressive, +simple tense+durative adverb
Achievement: +simple tense+momentaneous adverb, +progressive, -simple tense+durative adverb
Dynamic: +simple tense+momentaneous adverb, +progressive, +simple tense+durative adverb
Accomplishment: -simple tense+momentaneous adverb, +progressive, -simple tense+durative adverb
Activity: -simple tense+momentaneous adverb, +progressive, +simple tense+durative adverb

Smith (1991)は、state、activity、accomplishment、 semelfactive、 achievement の 5 つに分け、「静的か非静的か「±static」」、「持続的か非持続的［±duration］」、「必然的な終点があるかないか［±telic］」という 3 つのパラメーターを持つかどうかにより区別している。状態は、静的で、持続的で、必然的な終点がない。活動は、非静的で、持続的で、必然的な終点がない。達成は、非静的で、持続的で、必然的な終点がある。一回的動作は、非静的で、非持続的で、必然的な終点がない。到達は、非静的で、非持続的で、必然的な終点がある。

相的な意味は個々の動詞あるいは動詞句よりも文単位で維持されている。この問題に関しては、例えば、Verkyul(1972)は、次の例(4a, b)、(5a, b)、(6a, b) のように異なる状況タイプは動詞の補語や補文、目的語名詞句の内部構成、間接目的語および主語等により区別されていることを観察している。

(4) a. Mary walked <u>*in the park*</u>. (atelic)
b. Mary walked <u>*to school*</u>. (telic)

文 (4a) の補語は位置的であるのに対し、文(4b) の補語は方向的である。

(5) a.Edward smoked <u>*cigarettes*</u>. (atelic)
b. Edward smoked <u>*a cigarette*</u> (telic)

(6) a. <u>*A famous movie star*</u> discovered that little spa. (telic)
b. <u>*Famous movie stars*</u> have been discovering that little spa for years. (atelic) (C.Smith 1991:7)

上記の 2 タイプの研究以外にその背景にあるアスペクト的意味を表す verb-particle combinations (phrasal verbs) および aspectual quasi-auxiliaries (aspectualizers)にも焦点を当てて、考察する研究(Bolinger (1971)、Brinton (1988)、Tobin (1993) など)も多く見られる。例えば、Brinton (1988:3-4)は aspect と aktionsart を区別しており、この 2 つを合わせて aspectual と呼んでいる。英語においてアスペクトを表す明確な進行形式、完了形式がある一方、完全には文法化されていない幾つかのアスペクトを表すマーカーがある。それは、verb-particle combinations(phrasal verbs)および aspectual

quasi-auxiliaries (aspectualizers)であると述べ、前者を aktionsart の副システム(subsystem)として、後者を aspect の副システム(subsystem)として扱っている。verb-particle combinations(phrasal verbs)としては 1.perfective (drink up, calm down, wait out, die off, wait out, pass away, carry through, bring about, put over)、 2.ingressive (hurry up, lie down, doze off, set out, pitch in, go away)、および continuative/iterative (hammer away, drive on) を挙げている。aspectualizers としては 1.ingressive 形式(begin, start, come)、2.egressive 形式 (finish, quit, stop, cease)、3.continuative 形式 (keep on, go on, continue)、4.habitual 形式 (used to, take to) を挙げている。

第四章

英語とモンゴル語におけるテンス、アスペクトを表す形式および表現

4.1. はじめに

Bybee (1985:11-12) は、セマンティック要素が結合可能な次の 3 つの主要な手段があると述べている。

1. 語彙的表現 (Lexical expression)
2. 屈折的表現 (Inflectional expression)
3. 統語的表現 (Syntactic expression)

語彙的表現：2 つあるいはそれ以上の意味論的要素は、単一形態素の語彙項目において表現されうる。これは語彙的表現である。例えば、語彙項目 kill は分析のあるレベルにおいてセマンティック要素 die および cause と結合する [1]。

屈折的表現：それぞれのセマンティック要素は個々のユニットにおいて表されるが、それらのユニットは単一の語に拘束されている。屈折的表現は語幹に付加される接辞の形式で、あるいは語幹自身が変化する形で存在しうる [2]。

統語的表現：異なる意味論的要素が完全に分離し、独立したユニット、つまり別々の語により表現される。このように、come to know は「起動相」と know の統語的表現であるが、他方、realize は同じ観念の語彙的表現である。このタイプの表現はしばしば「迂言的」表現とも呼ばれている [3]。

Bybee はまた、「中間的表現タイプも存在する。語彙的表現と屈折的表現の間に**派生的形態素**がある。派生形態素はしばしば適用性において制限されており、形式および意味において特異的であるという点で、語彙的表現と似ている。また、それは 2 つの異なる形態素が単一の語において結合されるという点で屈折的表現と似ている [4]。」と述べ、さらに、「屈折的表現および統語的表現の間に文法的形態素の特性を持つ様々なタイプのユニット、すなわち、closed クラスに属し、固定された位置に起こるが、いかなる語彙項目にも拘束されていないので、屈折的表現ではないも

[1] Bybee(1985:11、訳は筆者による。以下同様)
[2] Bybee(1985:11)
[3] Bybee(1985:11-12)
[4] Bybee(1985:12)

のが存在する。それらのユニットは 「助動詞」(auxiliaries)、「助詞」 (particles)、「接語」(clitics) などと様々に呼ばれている。これら**自由文法的形態素**は位置制限があること、および特定の環境において義務的である対比的なセットを成すという点で屈折的表現と似ている。それらは語彙的語幹に拘束されないという点で迂言的表現と類似している [5]。」とも述べている。

Bybee に従うと、上記の表現タイプは最も強く融合している表現手段としての語彙的表現から最も緩く結合している表現手段としての統語的あるいは迂言的表現まで一列に並べられる連続を形成する [6]。

語彙的---派生的---屈折的---自由文法的形態素---統語的

‹ --

左に向かってより融合の度合が強まる (Bybee1985:12)

図 1

4.2. 両言語におけるテンス、アスペクトを表す形式および表現

ここでは、英語、モンゴル語両言語における先行研究を踏まえながら、上記の Bybee (1985)の区分を考慮に入れて、両言語におけるテンス、アスペクトを表す形式および表現を形態論的手段（屈折的表現、派生的表現）、統語論的手段（自由文法的形態素および統語的表現）という 2 つに分けて、考察する。

4.2.1. 両言語における形態論的手段

Quirk et. al. (1972a:70-71)によると英語の動詞は 1.ベース形式、2.-s 形式、3.過去形式、4.ing 分詞（現在分詞）、5.-ed 分詞（過去分詞）の 5 つの形式（パラダイム）を持っている。

ベース形式は、三人称単数以外の現在時制、命令、仮定法、不定詞を表す。-s 形式は三人称単数現在時制を表す。過去形式は 過去時制を表す。-ing 分詞は進行アスペクト、非定形-ing 節を表す。-ed 分詞は完結相、受動態を表す。その中で、時制を表す屈折的形式（接尾辞）は以下の 2 つである。

a.現在時制-s 形式、b.過去時制-ed 形式

これに対し、モンゴル語における動詞の形式（パラダイム）は複雑である。Tserenpil and Kullmann (2005:113-115)によると、伝統的な形態論では、モンゴル語の動詞には大きく分けて**態接尾辞**、**アスペクト接尾辞**、**法接尾辞**の 3 つのグループの屈折的接尾辞が存在する。法接尾辞はさ

[5] Bybee(1985:12)
[6] Bybee(1985:12)を参照。

らに**修飾接尾辞**および**終結接尾辞**の 2 つに分けられ、修飾接尾辞は**名詞修飾接尾辞、形容詞修飾接尾辞、動詞修飾接尾辞**の 3 つに分けられ、終結接尾辞は**人称限界終結接尾辞**および**時制限界終結接尾辞** の 2 つに分けられる。モンゴル語では全部で 54 の接尾辞が用いられているが、その中で、テンスに関わる接尾辞は以下の 8 つである。

a.一般的な過去 (-san)、b. 過去 (-jee/-chee)、c. 過去 (-v)、d. 過去 (-laa)、e.不定現在 (-dag)、f.現在進行(-aa)、g 現在 (-na)、h.未来 (-na)

　しかし、本研究では、この分類は不適切であると判断し、上記の内、時制として以下の 4 つの屈折的形式（接尾辞）を取り上げる。

a.過去時制-v、b.証拠過去時制-laa、c.推理過去時制-jee/chee、d.非過去時制-na

　また、Tserenpil and Kullmann (2005:113) は、以下の a-f をアスペクト接尾辞として挙げている。

　a.瞬時アスペクト (-shii)

　b.一時的アスペクト (-zana)

　c.完了アスペクト (-chih)[7]

　d.集合的アスペクト (-tsgaa)

　e.反復アスペクト (-l)

　f.他 の反復アスペクト (-lz, -valz/-galz, -gana)

　g.完了-aadah[8] (Өнөрбаян1998:184)

　本発表では、集合的アスペクト(-tsgaa)をアスペクトとして認めない立場を取る。この接尾辞は、出来事の様態を表すというより、ある動作を三人以上の人が一緒にするという意味で動詞に付加される非義務的接尾辞であると考えられる。

　先行研究によると、これらの接尾辞を屈折的と指摘する研究者もいるし、派生的と指摘する研究者もいる。Лувсанвандан, Болд (1985:205)は、「モンゴル語においては動詞のアスペクトが文法的形式によって表される以外に動詞派生接尾辞によっても表される」と述べ、瞬時アスペクト(-shii)、一時的アスペクト (-zana)、完了アスペクト (-chih) を屈折的とし、上記の反復アスペクトおよび他の反復アスペクトを派生的としている。本研究では、瞬時アスペクト (-shii)、一時的アスペクト (-zana)、完了アスペクト(-chih)、完了(-aadah)の 4 つをアスペクトを表す屈折接尾辞として扱い、他は派生接尾辞として扱う。その理由として、派生接尾辞は動詞以外の品詞に付加され、新しい語を作るか、その語に新しい語彙的意味を加えるが、他方、屈折接尾辞は動詞語幹に付加さ

[7] -chih 接尾辞は完了を表す構文的表現である「主動詞+連用語尾-j/ch 補助動詞 orhi -」の省略形式として知られている(Өнөрбаян 1998:184)。

[8] -aadah 接尾辞は完了を表す構文的表現である「主動詞+連用語尾-aad 補助動詞 orhi -」の省略形式として知られている(Өнөрбаян1998:184)。

れて、新しい動詞を作ったり、新しい語彙的意味をその動詞に加えたりすることがない。つまり、屈折接尾辞は動詞に文法的意味を加える機能しか持たないからである。

Song (1997:155, 235-243, 244-256, 283-285) は、非過去時制-na は習慣および進行を、動名詞接尾辞-san は完結相を、-aa は非完結相を、-dag は習慣相（現在時）をそれぞれ表すと述べている。英語においても、時制はアスペクト的な意味を表す場合（現在時制および過去時制は習慣を表す）もある。

英語、モンゴル語における上記の動詞形式（パラダイム）においては、動詞の**時制**は Bybee (1985)により指摘されている語彙的表現、派生的表現、屈折的表現、自由文法的形態素、統語的表現の中で、**屈折的表現**、言い換えれば**屈折接尾辞**により表されていることが分かる。両言語におけるアスペクト形式は、モンゴル語においては、屈折的表現および派生的表現により表されるのに対し、英語においては屈折的表現のみにより表され、派生的表現によっては表されない。

上記を表にまとめると以下表 1、2、3、4 のようになる。

表 1.両言語におけるテンスを表す形態論的手段とその表す時制的意味

形態論的手段	英語	モンゴル語	時制的意味
屈折的表現（屈折接尾辞）	V+ φ /-s	V+-na	非過去時制（現在・未來）
	V+-ed/-d	V+-v, -laa, -jee/-chee	過去時制

表 2. 英語におけるアスペクトを表す形態論的手段およびその表すアスペクト的意味

アスペクトを表す形態論的手段	下位分類	接辞	アスペクト的意味
屈折的表現（屈折接尾辞）	単純過去時制	-ed/-d	完結
			過去習慣
	単純現在時制	φ /-s	現在習慣

表 3.モンゴル語におけるアスペクトを表す形態論的手段およびその表すアスペクト的意味

アスペクトを表す形態論的手段	下位分類	接尾辞	アスペクト的意味
屈折的表現（屈折接尾辞）	a.アスペクト屈接折尾辞	-chih-/-ch-	完成
		-zna-	一時的
		-shii-	暫時
		aadah-	完成
	b.テンス屈折接尾辞	非過去時制-na	習慣
			反復
			進行
	c.動名詞語尾	-dag	習慣（現在時のみ）
		-san	完結
		-aa	不完結
派生的表現（派生接尾辞）		-lz-	反復
		-valz-	
		-galz-	
		-melz-	
		-l-	
		-chigna-	
		-gana-	
		-lhil	
		-ch-	
		-chan-	
		-chigna-	継続
		-gina-	
		-hir-	
		-g-	
		-lhil-	
		-vhil-	
		-ni-	
		- vhii-, -hii	暫時

表 4.　両言語のアスペクトを表す形態論的手段およびその表すアスペクト的意味

形態論的手段	英語における意味	モンゴル語における意味
屈折接尾辞	○ 習慣、完結	○ 習慣、完結、不完結、完成、一時的、暫時、進行、反復
派生接尾辞	×	○ 反復、継続、暫時

（○—接尾辞がある、×—接尾辞がない）

4.2.2.　両言語における統語論的手段

上記 4.2.1.節では、英語においては時制、およびアスペクトが形態論的手段としての屈折的表現により、モンゴル語においては時制およびアスペクトは形態論的手段としての屈折的表現および派生的表現により表されることを述べた。ここでは、統語論的手段としての自由文法的形態素および統語的表現により表されるアスペクト形式について述べる。統語論的手段としての自由文法的形態素および統語的表現は通常 2 つ以上の動詞の組み合わせ、つまり迂言的形式により表されており、それぞれの言語においては、完全動詞以外に助動詞として機能し、テンス、アスペクト、ムード、モダリティ、態の意味を表す種類の動詞も存在するのが一般的であるので、まず、両言語における動詞の分類について述べることにする。

英語における動詞の分類に関して、Quirk et. al. (1972a) は動詞を以下のように分類している。

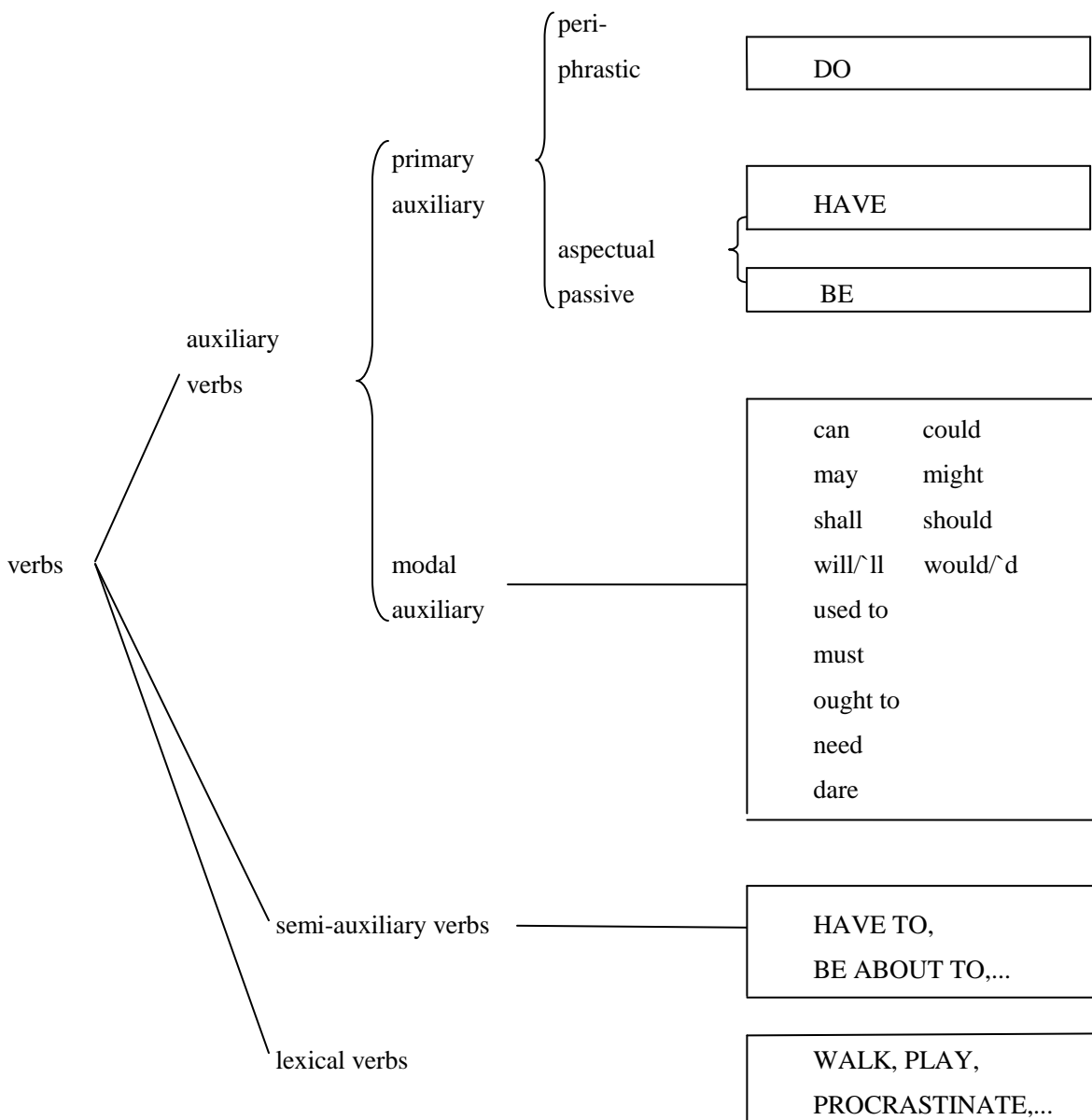



Fig 3:1 Verb classes (Quirk et. al.1972a:69)

図 2

Quirk et. al. (1985:96)は英語における動詞をそれが動詞句において表す機能により 1.完全動詞（open class of full verb or lexical verb/leave.../）、2.一次動詞(closed class of primary verbs/be, have, do/)、3.モーダル助動詞(closed class of modal auxiliary verbs/will, might, etc/)の 3 つに分け、さらに、完全動詞は主動詞としてのみ働き、モーダル助動詞は助動詞としてのみ働き、一次動詞は主動詞としても、助動詞としても働くと述べている。

Tserenpil and Kullmann (2005:192)は、モンゴル語の動詞を機能の観点から分類している。図にまとめると以下のようになる。

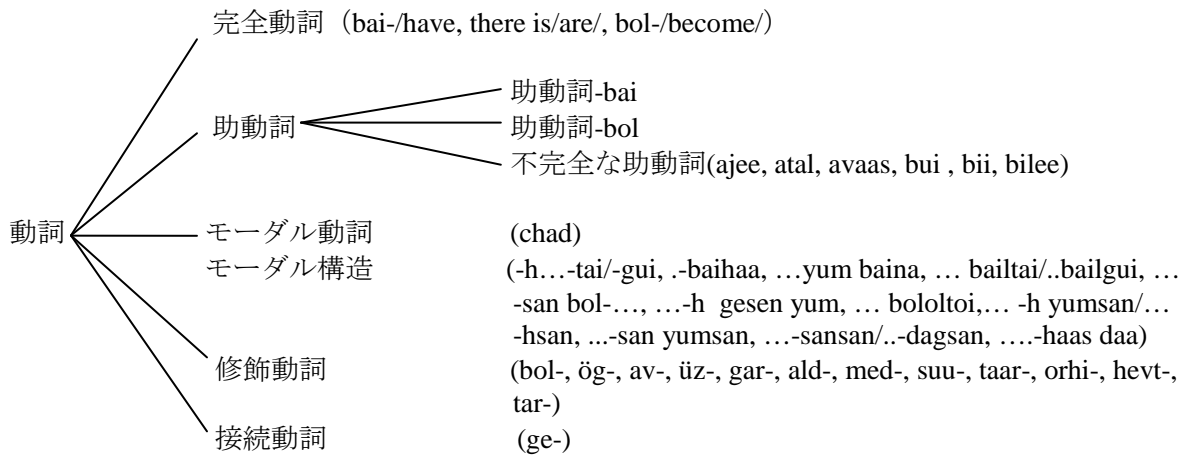



図 3

Chuluu (1998:113)によると、モンゴル語の補助動詞は連結補助動詞(copular auxiliary verb/bai-, bol-/）と準助動詞 (quasi–auxiliary verb) /第 1 グループ動詞 ehel-、 bar-、 duus-、 ir-、och-、 yav-、 or-、suu-、 orhi-、 av-、 ög-、第 2 グループ動詞 chad-、yad-、ol-、gar-、med-/の 2 種類に分けられる。連結補助動詞は名詞、動詞に後続して用いられ、テンス、アスペクト、ムードの意味を表す。その文法的な意味はテンスを表す接尾辞あるいは動詞の非定形の意味により解釈される。準補助動詞はテンス、アスペクト的な意味を表す第 1 グループの補助動詞とムード、モダリティの意味を表す第 2 グループの補助動詞の 2 つに分けられる。図にまとめると以下のようになる。

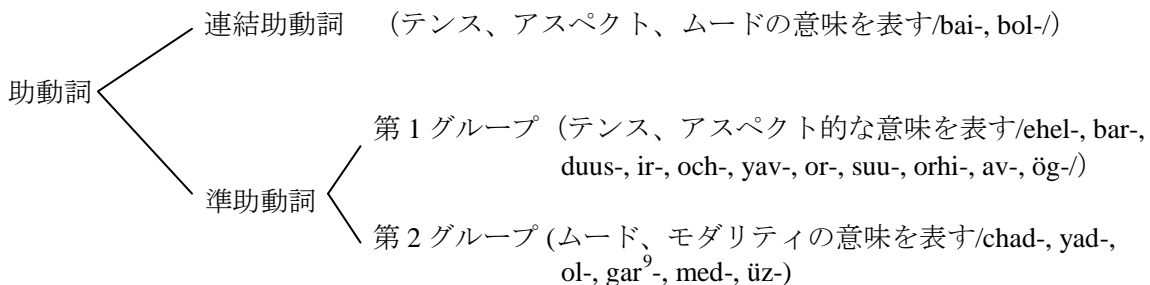



図 4

本研究では、上記の先行研究を参照し、モンゴル語の動詞をその機能により以下のように分類する。

[9] ただし、方言差により準助動詞の第 2 グループに入っている gar- の用法にずれが生じ、ハルハ標準語においてはこの助動詞はアスペクト的な意味を表す。

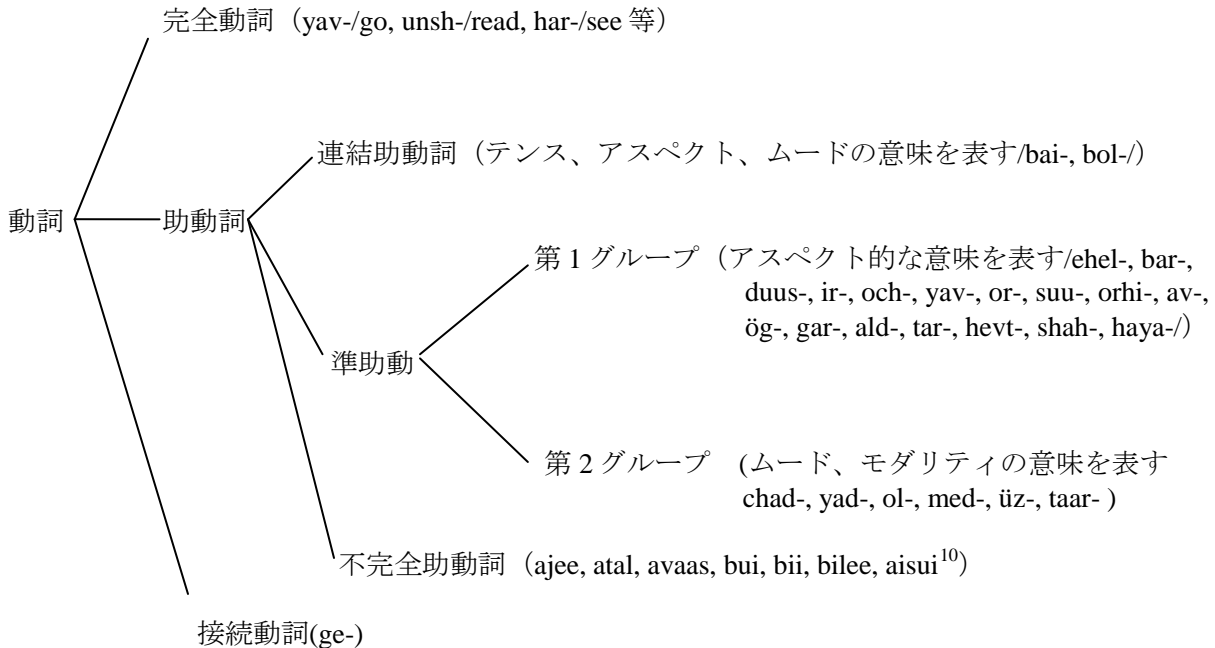



図 5

英語、モンゴル語における動詞の分類によると、両言語共にアスペクトを表す自由文法的形態素としての補助動詞（モンゴル語においては連結補助動詞 bai-、bol-、英語においては一次的補助動詞 (primary auxiliary) have、be）が存在する。

自由文法的形態素としてのモンゴル語の連結詞補助動詞 bai- は以下の組み合わせ形式を成し、幾つかのアスペクト的意味を表す。

主動詞+連用語尾-j/ch 補助動詞 bai-: 進行

主動詞+連用語尾-aad/完了語尾+連用語尾-chihaad 補助動詞 bai-:完了/結果状態/、反復、継続

主動詞+連用語尾-saar 補助動詞 bai-: 継続

主動詞+動名詞語尾-san/完了動名詞語尾-chihsan 補助動詞 bai-:完了/ 結果状態/

主動詞+動名詞語尾-dag 助動詞 bai+過去時制: 過去の習慣

自由文法的形態素としてのモンゴル語の連結詞助動詞 bol- は以下の組み合わせ形式を成し、幾つかのアスペクト的意味を表す。

主動詞+動名詞語尾-dag 助動詞 bol+非過去時制/過去時制: 未来の習慣、過去の習慣

主動詞+連用語尾-j/ch 助動詞 bai+h 助動詞 bol+非過去時制: 未来における進行

主動詞+連用語尾-saar 助動詞 bai+h 助動詞 bol+非過去時制: 未来における継続

[10] この aisui という動詞は、動詞のいかなる形式によっても形成されない。その上、この動詞は ir-/come/という動詞の現在進行形に相当する意味を表しており、動詞の語彙的表現レベルにおいて扱われるべき語である。

主動詞+動名詞語尾-h 助動詞 bol+過去時制:過去における継続

自由文法的形態素としての英語の一次的助動詞 (primary auxiliary) be は以下の組み合わせ形式を成し、進行相を表す：

be 主動詞+-ing/現在分詞/

自由文法的形態素としての英語の一次的助動詞 (primary auxiliary) have は以下の組み合わせ形式を成し、完了、習慣を表す：

have 主動詞+-ed/過去分詞/

自由文法的形態素としての英語のモーダル助動詞 will は以下の組み合わせ形式を成し、未来の習慣を表す：

will 主動詞(infinitive)

上記以外に両言語ともに、自由文法的形態素による以下の**複合アスペクト形式**が存在する [11]。英語においては、完了進行 (have been V-ing)、習慣進行(used to be V-ing)（過去のみ）が存在し、モンゴル語においては、進行習慣(-j baidag/-j baidag bai-)、継続習慣(-saar baidag/-saar baidag bai-, -aad baidag/-aad baidag bai-)、完了習慣(-(chih)san baidag/-(chih)san baidag bai-, -(chih)aad baidag/-(chih)aad baidag bai-)、継続進行(-saar baij bai-, -aad baij bai-)、完了進行(-(chih)san baij bai-, -(chih)aad baij bai-)、継続進行習慣(-saar baij baidag/ -saar baij baidag bai-, -aad baij baidag/-aad baij baidag bai-)、完了進行習慣(-chihsan baij baidag/-chihsan baij baidag bai-)の 7 つが存在する。

また両言語ともに統語的表現に用いられる補助動詞（モンゴル語においては準補助動詞の 1 グループの助動詞/ehel-, bar-, duus-, ir-, och-, yav-, or-, suu-, orhi-, av-, ög-, gar-, ald-, tar-, hevt-, haya-/であり、英語においては/begin, start, come, get, set, grow, continue, keep, finish, stop, quit, used to ）も存在する。

モンゴル語での統語的表現に当たる準補助動詞の中で、アスペクトを表す第 1 グループの動詞は非定型動詞（連用語尾-j、-n、-aad により形式される）に後続し、以下のようなアスペクト的意味を表す。

動詞+連用語尾 ehel-、 gar-、och-、or-: 始点

動詞+連用語尾 suu-、yav-、hevt-、ir-: 継続

動詞+連用語尾 bar-、duus-、orhi-、av-、haya-: 終点

上記以外にモンゴル語の統語的表現において「主動詞+連用語尾-j/-ch、-aad、-saar 、-n」の繰り返しおよび動詞語幹と動詞＋連用語-saar の繰り返しによりアスペクト的意味を表す形式(helj helj,

[11] Comrie (1976:30)によると、さまざまな意味論的なアスペクトの価値の、はっきりとしたしめし手 marker をくみあわせることが、言語の形式的な構造によってゆるされるとすれば、習慣性とほかのなんらかのアスペクト的な価値との両方をはっきりと表現する形式が可能になる。（訳は山田(1988:51)に従う）

haran harsaar, ir irseer)も存在する。具体的には、動詞+j/-ch 動詞+j/-ch、動詞+saar 動詞+saar、動詞+aad 動詞+aad、動詞+n 動詞+n、動詞+n 動詞+saar、動詞語幹 動詞+saar の 6 つの形式がある。

英語で統語的表現に当たりアスペクトを表す補助動詞は非定型動詞および副詞に先行し、アスペクト的意味を表す。Brinton (1988:61)によると英語におけるアスペクト的意味を表す補助動詞は以下の通りである。

起動：begin to V, V-ing、commence to V, V-ing, to V-ing、start (in/out) toV, (off) V-ing、set (about/in) to V, off/about V-ing, to V-ing、get to V, V-ing, to V-ing、proceed to V, V-ing、grow to V、come on to V

継続進行／反復：keep (on) V-ing、go on V-ing、remain V-ing 、persist in V-ing、continue to V, V-ing

終点：cease to V, V-ing、finish V-ing、quit V-ing、stop V-ing、desist (from) V-ing、forsake V-ing、cut out V-ing

習慣：used to V、take to V, to V-ing、be used /accustomed to V, V-ing、be wont to V、 be given to V-ing

また、Brinton (1988:169, 175)、Downing and Locke (2006:341, 342)によると、英語においては、アスペクト的意味を表す不変化詞 (off, on, out, down, up, away, through, back, along, over) が存在し、始点、終点、継続、瞬時、完成などの意味を表す。

上記以外に英語において、モンゴル語と同様に動詞の繰り返し(warned and warned)および不変化詞の繰り返し (go on and on) によりアスペクト的意味を表す形式があり、反復、継続の意味を表す。両方とも接続詞 and により結合される。

上記を表にまとめると以下の表 5、6、7 のようになる。

表 5.　英語におけるアスペクトを表す統語論的手段およびその表すアスペクト的意味

アスペクト的意味を表す統語論的手段	下位分類	アスペクトの種類	形式	表す意味
自由文法的形態素	単一形式	進行	be V-ing	進行、結果状態、状態、反復、前置きの段階性、習慣
		完了	have V-en	完了
		習慣	will V, have V-en, used to, would V	習慣、状態
	複合形式	進行習慣	used to be V-ing	進行習慣
		完了進行	have been V-ing	継続、反復、習慣
統語的表現	補助動詞	局相	keep on	継続
			go on	
			continue	
			begin	始点
			start	
			come	
			finish	終点
			quit	
			stop	
			cease	
		習慣	be accustomed to, take to	習慣
	不変化詞 (particle)		off	始点、終点
			on	始点、継続
			out	始点、瞬間的、終点、完成
			down	瞬間的、完成、動作の終点
			up	瞬間的、終点
			away	完成、継続
			through	完成
			over	終点

			along	継続
	動詞の繰り返し		verb and verb	反復
	不変化詞の繰り返し		verb particle and particle	継続

表 6　モンゴル語におけるアスペクトを表す統語論的手段

アスペクトを表す統語論的手段	下位分類	アスペクトの種類	形式	表す意味
自由文法的形態素	単一形式	進行	-j bai-	進行、結果状態、状態、反復、前置きの段階性、習慣
		継続	-saar bai-, -aad bai-	継続、結果状態
		習慣	-dag bai-/bol-	習慣
		完了	-(chih)san bai-	結果状態
	複合形式	進行習慣	-j baidag/-j baidag bai-	進行習慣
		継続習慣	-saar baidag/-saar baidag bai-, -aad baidag/-aad baidag bai-	継続習慣
		完了習慣	-(chih)san baidag/ -(chih)san baidag bai-, -(chih)aad baidag/-(chih) aad baidag bai-	完了習慣 反復習慣
		継続進行	-aad baij bai-	継続進行
		完了進行	-(chih)san baij bai-, -(chih)aad baij bai-	完了進行 結果状態
		継続進行習慣	-saar baij baidag/ -saar baij baidag bai-, -aad baij baidag/-aad baij baidag bai-	継続習慣
		完了進行	-chihsan baij baidag/	進行習慣、結

		習慣	-chihsan baij baidag bai-	果状態習慣
統語的表現	補助動詞	局相	-ehle-, gar-, och-, or-, ald-, med-, una-	始点
			suu-, yav-, hevt-, ir-	継続
			bar-, duus-, orhi-, av-, ög-, güits-, tavi-, haya-	終点
	動詞の繰り返し		動詞+-j 動詞+-j	継続
			動詞+-saar 動詞+-saar	継続
			動詞+-aad 動詞+-aad	反復、継続
			動詞+-n 動詞+-n	継続、反復
			動詞+-n 動詞+-saar	継続
			動詞語幹 動詞+-saar	継続

表７　英語およびモンゴル語におけるアスペクト的意味を表す統語論的手段とその表す意味

アスペクトを表す統語論的手段	英語	モンゴル語
自由文法的形態素	動詞と補助動詞との組み合わせ形式（完了、進行、結果状態、状態、反復、前置きの段階性、習慣、継続、進行習慣（過去のみ））	動詞と補助動詞との組み合わせ形式（進行、結果状態、状態、反復、前置きの段階性、習慣、継続、継続習慣、完了習慣、反復習慣、継続進行、完了進行、進行習慣、結果状態習慣）
統語的表現	動詞と補助動詞との組み合わせ形式（始点、継続、終点、習慣）	動詞と補助動詞との組み合わせ形式（始点、継続、終点）
	動詞と不変化詞との組み合わせ形式（始点、終点、継続、瞬間的、完成）	×
	動詞の繰り返し（反復、継続） 不変化詞の繰り返し（継続）	動詞の繰り返し（継続、反復）

（×―ない）

4.3.まとめ

本章では、Bybee (1985)によりセマンティック要素が結合可能と指摘されている、語彙的表現 (lexical expression)、屈折的表現 (inflectional expression)、派生的表現 (derivational expression)、自由文法的形態素 (free grammatical morphemes)、統語的表現 (syntactic expression)、という 5 つの手段の区別に基づいて、形態論的手段としての屈折的表現、派生的表現および統語論的手段としての自由文法的形態素および統語的表現に焦点を当て、両言語において時制、アスペクト形式はどのような手段により表されているか、またどのようなアスペクト的意味を表すか、どのような形で互いに共通であったり、異なっているのかを明らかにした。

テンス形式に関しては、両言語は、**過去／非過去**の対立を成し、英語においては**過去時制**及び**現在時制**が存在するのに対し、モンゴル語においては**過去時制**および**非過去時制**が存在し、両言語とも**屈折的表現**により表される。

アスペクトに関しては、英語においては**屈折的表現、自由文法的形態素**および**統語的表現**により表されるのに対し、モンゴル語においては**派生的表現、屈折的表現、自由文法的形態素、統語的表現**という全ての形式により表される。

両言語におけるアスペクトを表す**形態論的手段**に関しては、英語においてはアスペクト的意味は、**屈折的表現**つまり**時制屈折接尾辞**により表され、**完結、習慣**の意味を表す。これに対し、モンゴル語においては、**屈折的表現**（屈折尾辞）つまり**時制屈折接尾辞、アスペクト屈折接尾辞、動名詞語尾**および**派生的表現**つまりアスペクト**派生接尾辞**により表される。この屈折的表現（屈折尾辞）により**完了、一時的、暫時、習慣、反復、進行、不完結、完結**の意味が表され、派生形態素により**反復、継続、暫時**の意味が表される。

アスペクトを表す**統語論的手段**に関しては、両言語とも、**自由文法的形態素**および**統語的表現**をもっている。英語においては、**主動詞と補助動詞の組み合わせ形式、主動詞と不変化詞の組み合わせ形式**および動詞の接続詞 and による**動詞の繰り返し**、あるいはアスペクトを表す**不変化詞の繰り返し**の 4 つ、モンゴル語においては**主動詞と補助動詞の組み合わせ形式**および**動詞語幹と連用語尾により形成された動詞の組み合わせあるいは連用語尾により形成された動詞の繰り返し**の 2 つがこの機能を担っている。

自由文法的形態素によって、英語では、**完了、進行、結果状態、状態、反復、前置きの段階性、習慣、継続、進行習慣（過去のみ）**の意味が表されるのに対し、モンゴル語では、**進行、完了、結果状態、状態、反復、前置きの段階性、習慣、継続、継続習慣、完了習慣、反復習慣、継続進行、完了進行、進行習慣、結果状態習慣**の意味が表される。

統語的表現については、英語では、**主動詞と補助動詞との組み合わせ形式**により出来事の**始点**、**継続**、**終点**、**習慣**の意味が表され、**動詞と不変化詞との組み合わせ形式**により**始点、終点、継続、瞬間的、完成**などの意味が表される。接続詞 and による**動詞の繰り返し**により**反復、継続**の意味、アスペクトを表す**不変化詞の繰り返し**により**継続**の意味がそれぞれが表される。これに対し、モンゴル語では、**主動詞と補助動詞との組み合わせ形式**により出来事の**始点**、**継続**、**終点**の意味が表され、**動詞の繰り返し**により**継続**、**反復**が表される。

最後に、類似点としては、以下のものが指摘できる。すなわち、時制が過去対非過去の対立をなす点、時制が屈折的表現により表される点、明確な完結対不完結対立を持たない点、アスペクト的意味を時制形式も表しうる点、動詞と補助動詞の組み合わせにより局相アスペクトを表す点、複合的アスペクト形式を持っている点、動詞の繰り返しによりアスペクト的意味を表す点の 7 つである。

第五章

英語の単純過去形とそれに対応する モンゴル語の形式および表現

5.1.はじめに

工藤 (1995:165-168)はアスペクトやヴォイスとは異なり、テンスと人称は、発話主体による発話行為の場（わたし・いま・ここ）にアクチュアル（直接的）に関係づけられているダイクティックなカテゴリー(Jacobson (1957)のいう shifter) であると述べ、現実の発話行為の場へのアクチュアルな関係づけの有無の観点から、テクストのタイプを、「発話行為の場へのアクチュアルな関係づけがなされたテクストのタイプ〈**はなしあい**〉」、小説の地の文に見られる、「発話行為の場へのアクチュアルな関係づけがなされていない特別なテクストタイプ〈**かたり**〉」、の 2 種類に分けている。

Declerck (1991:16, 2006:147-148, 152)によれば、英語において時制は 2 つの時間領域である現在時領域 (Present Time Sphere) 及び過去時領域 (Past Time Sphere)に分けられた時間概念的な区分を含意する。Declerck はさらに過去時領域に属する場面 (situation) を典型的に表す 4 つのテンス (the past tense, the past perfect, the conditional tense (would+infinitive), the conditional perfect (would have+ past participle)) が存在すると述べ、それらを過去時領域テンス (PAST (TIME-SPHERE) TENSES) と呼んでいる。

本研究は工藤 (1995:165-168)によるテクストタイプの 2 分類に従い、小説の〈はなしあい〉の文において、Declerck (1991:16, 2006:147-148,152)によって指摘されている上記の過去時領域のテンスの 4 つの形式の一つである英語の Past tense、さらにその中の nonprogressive past tense form　つまり単純過去形 (-ed/-d) がモンゴル語においてどのような形式および表現に対応しているかを、両言語の原作とその翻訳を利用し、分析を通じて明らかにすることを目的とする。

Comrie (1985:19)は「一定の文法範疇は一つ以上の意味、つまり一つの基本的な意味および幾つかの周辺的な意味あるいは用法を持つことがありうる」ということを認めている。時制文法範疇の分析が前進するとともにこの範疇は時間位置という術語によっては包括され得ない用法を含んでいるのみならず、この術語に矛盾する用法が存在することが知られている。たとえば英語の過去テンスの殆どの用法は場面を現在時の前に位置づけることであるが、幾つかの用法はそうではない。その中の一つには条件節がある。例えば「‘*If you did this I would be very happy*’という文の

‘*did*’ は明らかに過去時に言及しておらず、むしろ現在あるいは未来に起こる可能性がある活動に言及している」と Comrie が述べているように、ある時制がもっている全ての用法を包括して、一対一の形でそれぞれを対応させることはできない。つまり、英語の単純過去形 (-ed/-d) を常にモンゴル語の過去形 (-v、-laa、-jee/-chee) のみで訳すということは不可能であり、その対応関係は様々であると考えられる。

近年言語学においては、脱場面、つまり文脈から切り離された文を構造・体系的側面から研究する立場から、コミュニケーション活動、つまり、状況（コンテクスト）の中での言語の実際的使用行為を扱う語用論的研究が盛んになっている。本研究においても、英語とモンゴル語の両言語における時制範疇の文脈における実際的な使われ方を解明するために物語の〈はなしあい〉の文を含むテクストを扱い、多くの先行研究と同様に原作と翻訳を用いた対照言語学的方法に基づいて、英語の単純過去形に焦点を絞りながらそれに対応するモンゴル語の形式及び表現の対応関係を分析し、検討してみたい。

5.2.物語の〈はなしあい〉の文における英語の単純過去形 (-ed/-d)とそれに対応するモンゴル語の形式及び表現

物語の〈はなしあい〉の文における英語の単純過去形 (-ed/-d) はモンゴル語において以下の幾つかの形式および表現に対応する。

1.モンゴル語のテンス形式（単純過去形-v、-laa、-jee/-chee、単純非過去形-na）

2.モンゴル語の動名詞語尾（完結動名詞語尾-san、非現実動名詞語尾-h、不完結動名詞語尾 -aa、動名詞語尾-maar）

3.モンゴル語のアスペクト形式（a.過去進行形、b.過去習慣形、c.現在進行形、d.現在習慣形、e.主動詞+連用語尾-j/-ch と補助動詞+過去形および完結動名詞語尾-san との組み合わせ形式、f.動詞+連用語尾-aad と補助動詞+過去形および完結動名詞語尾-san との組み合わせ形式、g.動詞+完了アスペクト語尾-chih +過去形および完結動名詞語尾 -san 形式、h.動詞+完結動名詞語尾-san と補助動詞 bai-過去形および完結動名詞語尾-san との組み合わせ形式、i.動詞+完了アスペクト語尾 -chih+ 完結動名詞語尾-san と補助動詞 bai-過去形および完結動名詞語尾-san との組み合わせ形式）

4.モンゴル語の連用語尾（前後関係の連用語尾 (contextual converbs (-j, -n, -aad)) および特殊化された連用語尾 (specialized converbs (-val/-bal, -vch, -hlaar, -tal, -haar))

5.モンゴル語のムード及びモダリティ形式

6.モンゴル語の動詞を持たない文及び節

5.2.1.モンゴル語のテンス形式との対応

一般的な理論において、絶対的なテンスの中では現在、過去、未来の 3 区分が認められているが、多くの言語では、実際には、過去／非過去の対立と未来／非未来の対立の二通りの区別しか観察されず、さらに、テンスの区別をまったく持たない言語も存在する(Comrie 1985:2)。先行研究において英語およびモンゴル語は両方とも過去／非過去の対立を持っている言語であることが確認されている。

以下では、英語の単純過去形とモンゴル語の単純過去形および単純非過去形との対応を考察する。

5.2.1.1.モンゴル語の単純過去形 (-v、-laa、-jee/-chee)との対応

過去時制は典型的に発話時前に起こった出来事を指し示す。文 (1a, b)～(10a, b) のように、英語の単純過去形は、モンゴル語において 3 つの形態素 (-v、-laa、-jee/-chee)に対応する。

(1) a.I <u>*struggled*</u> so hard to repress my tears, because of some stupid fear I might draw troubles upon myself ! (Батбаяр 1984)

b.Uilchihval büh yum muugaar ergechih yum shig sanaj tegtlee yund <u>*tevchiv*</u>?

(2) a.Sorry, darling. I was reading. What <u>*did*</u> you <u>*say*</u>?. (Chase 1959)

b.-Uuchlaarai hongor mini. Sonin unshih gej ulaigaad anzaarsangüi.Chi yu <u>*helev*</u>?

(3) a.“I wonder why someone <u>*wanted to flush*</u> it <u>*away*</u>?” (Rowling 1998)

b.-Yagaad üüniig jorlond <u>*hayah bolov*</u> gedgiig bi gaihaj baina..

(4) a.And twice I <u>*failed*</u> to kill you. (Rowling 1998)

b.Bi chamaig ustgah geed hoyor udaa <u>*bütelgüitlee*</u>.

(5) a.What <u>*did*</u> you <u>*say*</u> your name was? (Chase 1959)

b.Tanii ner hen <u>*gelee*</u>?

(6) a.Well, I <u>*warned*</u> you, <u>*didn*</u>’<u>*t*</u> I?

b.Chamd <u>*es helel üü*</u>!

(7) a.He was asking that bloke from the *Daily Prophet* if he’d be able to work the fight into his report — said it <u>*was*</u> all publicity —”（Rowling 1998)

b.ödör tutmiin zön bileg-iin hünd ene bügdiig bas bicheerei, saihan surtalchilgaa <u>*bolloo*</u> gej baisan shüü...

(8) a.If they <u>*caught*</u> me I’d go away for a year,.. (Chase 1959)

b.Bi <u>*barigdlaa*</u> gehed neg jil suuna.

(9) a.“Lucky that I <u>*recorded*</u> my memories in some more lasting way than ink. (Rowling 1998)

b.Azaar, bi ööriin dursamjuudiig behnees ilüü naidvartai udaan <u>*hadgalj chadjee*</u>.

(10) a.I thought you <u>*made*</u> a mistake, but —（Rowling 1998)

b.Chamaig aldaa <u>*gargajee*</u> gej bodoj baital ünen heregtee chi…

モンゴル語の過去時を表す上記の3つの形式は、証拠性の点において異なるものである。

Comrie (1976:108, 山田訳 1988:172) によると、「幾つかの言語には、動詞の特殊な形式として、推理 inferential がある。話し手はこの推理をつかって、自分自身は目撃していないが、それのおこったことを人づてに知っている出来事、そんな出来事を伝えるのである（ついでにいえば、情報の信頼性について、かならずしもうたがっているわけではない）」。Haan (2005:314-315)は多くの言語において、過去時制は「目撃した」（直接）(witnessed (direct)) に対して「目撃されていない」（間接）(unwitnessed (indirect))の区別をしていると述べ、以下のトルコ語の例を挙げている。

a. *Ahmet gel-di*.
Ahmet come-PST.DIR.EVD
'Ahmet came' (witnessed by the speaker)

b. *Ahmet gel-miş*.
Ahmet come-PST.INDIR.EVD
'Ahmet came' (unwitnessed by the speaker) (Haan 2005:314-315)

Haan (2005:314-315) によると証拠性 (evidentiality) のマーカーは話者自身が陳述に対して持つ証拠を表す [1]。証拠性は**直接的な証拠性** (direct evidentials)[2]、および**間接的な証拠性**(indirect evidentials)という 2 つの副範疇に分かれている。直接証拠性(direct evidentials)は話者が話している動作および出来事に対して感覚的な証拠がある場合に用いられる。間接的な証拠性 (indirect evidentials) は話者自身が出来事の目撃者ではなく、事実を後に知った場合に用いられる。さらに、間接的な証拠性 (indirect evidentials) は 伝聞証拠(hearsay evidentials)[3]および推理証拠 (inferential evidential)という 2 つの副範疇に分けられる。推理証拠は可能な身体的証拠性に基づいて推理描写する際用いられる。伝聞証拠は話者が他の人から動作および出来事について知った際に用いられる。多くの言語において伝聞証拠と推理証拠は形式上区別されている。また、Haan (2012:1039-1040) によると証拠性に関連する一つの現象があり、それは mirativity である。Mirativity は話者をなんらかの方法で驚かせたり、ショックを与えたりする予期しない情報の符号化である [4]。彼は、トルコ語の過去時制には証拠性による直接証拠/間接証拠の 2 つがあり、後者の方が表される情報は話者にとって予期しないものであるとしている。

Song (1997:184-185)によると、モンゴル語における過去時を表す過去終止語尾 -v、-laa、-jee は証拠性の区別により -laa: Direct knowlegde past、-jee: Indirect knowlegde past、-v: Neutral Past という具合に互いに異なる。接尾辞-laa は過去において話者自身が目撃しあるいは体験した場面を表す。一

[1] Haan (2005:314).
[2] Haan(2012:1024)によれば直接的な証拠性はファーストハンドあるいは知覚的な証拠性とも呼ばれる。
[3] Haan(2005:314)によれば間接的な証拠性はセカンドハンド、引用的、報告的な証拠性とも呼ばれる。
[4] Haan(2012:1039-1040).

方、接尾辞-jee は、 過去における推理の結果、伝聞のような話者の間接的な知識を表し、話者自身が目撃あるいは参加していない 場面を表す。接尾辞-v はモダリティに関して中立である。

Binnick (2012:61-62)によると、モンゴル語には、証拠 (evidential)-laa および推理 (inferential)-jee の区別がある。さら に、推理-jee は mirative である。もう一つの区別として-laa は疑問文に用いられる-v とともに proximal であり、他の終止語尾は distal である。そして proximal な終止語尾は non-past のように現在時あるいは未来時に用いられる。

一方、Бадан (1989)、Binnick (2012)、Song (1997)、橋本 (1993b)、Chuluu (1998) などは、モンゴル語の上記の 3 つの過去時制形式はテンスあるいはアスペクトにおいて異なることはないと主張している。つまり発話時前に起こった過去の出来事を何の区別もなく 3 つとも平等に表す。従って、英語の単純過去形(-ed/-d)は一般的にモンゴル語の上記の 3 つの単純過去形の肯定形、疑問形、否定形に対応する。

5.2.1.2.モンゴル語の単純非過去形 (-na)との対応

英語の単純過去形 (-ed/-d) は以下の文 (11a, b) ～(13a, b) のようにそれぞれ現在時および未来時の意味を表す単純非過去形 (-na) に対応する場合がある。

(11) a.“And Lochart ***said*** he could not hear it? ” (Rowling 1998)

b.Tegeed Loghart yum sonsoogüi *gene üü*.

(12) a.“Hermione, he ***didn’t have a clue*** what he was doing —” (Rowling 1998)

b.Hermione, ter yag yu hiigeed baigaagaa ööröö ch *gadarlahgüi baina* shüü dee..

(13) a.What if, even worse, I *told* you who’d been strangling roosters. (Rowling 1998)

b.Azargan tahianuudyig hen alsnyig *helchihne* gehees zürh ni amaaraa garah shahaj baisan bailgüi.

このような対応のずれが生じることに関しては以下の 2 点を挙げることができる。

(以下、英語の単純過去形とモンゴル語の単純過去形 (-v、-laa、-jee) 以外の対応を「ずれ」と呼ぶことにする)

1.両言語における歴史的現在用法のずれによるもの

2.両言語の従属節内および補文における話者の視点に関わる相違によるもの

上記の文(11b)、(12b)における単純非過去形 (-na)に関しては、モンゴル語における単純非過去形(-na)の歴史的現在用法によって生じる対応のずれによるものであると考えられる。他の多くの言語と同様にモンゴル語にも歴史的現在用法があり、その機能を担っているのが単純非過去形 (-na)である。この歴史的現在用法は、話し言葉および書き言葉においてよく用いられる。その一つのケースとして「言う」という意味を表わす発言動詞である不完全動詞 ge-(say)の歴史的現在用法を

挙げることができる。英語でも発言動詞 say が歴史的現在としてしばしば用いられるが、上記の (11a, b)によると、両言語におけるこの用法は必ずしも一致しないことが分かる。つまり say と ge-(say)が歴史的現在として用いられる場合とそうでない場合があり、その用法において両言語は異なっている。従って、上記のようなずれが生じると考えられる。

文(13b)における英語の単純過去形とモンゴル語の単純非過去形 (-na) の対応は、英語における話者の視点に基づく「時制の一致」という現象に起因している。これは英語の従属節で見られる現象で、多少の例外はあるが、モンゴル語では見られず、両言語間で大きな相違点の一つであると言える。

英語は、発話時に視点を固定する言語であるのに対し、モンゴル語は、視点を発話時から他の基準点に移すことが可能な言語である。英語において発話時は主文の出来事のみでなく従属節内の出来事まで有効である基準点である。これに対し、モンゴル語においては、発話時はただ主文の出来事のみに有効である基準点であり、従属節内の出来事までは及ばない。つまり英語において過去の出来事を表す文において従属節および補文における出来事が主文および従属節内の他の出来事の後に起こる場合、主文の時制標識が過去であれば従属節内の出来事を表す標識は全て過去時制形式をとることになる。これに対し、モンゴル語においては、過去の出来事を表す文において従属節および補文における出来事が主文および従属節内の他の出来事の後に起こる場合、全て過去形式を取るという現象はない。つまり過去の出来事を表す文において発話時基準点あるいは従属節基準点の後にあるいは同時に起こる出来事を表すのに単純非過去形 (-na) がいずれの場合にも用いられる。従って、上記のような対応のずれが生じる。

物語の〈はなしあい〉の文における英語の単純過去形 (-ed/-d)とそれに対応するモンゴル語のテンス形式の対応関係を分析した結果、英語の単純過去形 (-ed/-d) がモンゴル語の過去形 -v に対応する例として、肯定形 6 例(18.75%) 、疑問形 25 例(78.125%) 、補文に用いられる-v 1 例(3.125%) の計 32 例(100%) 、過去形 -laa に対応する例として、肯定形 63 例(86.34%) 、疑問形 4 例(5.47%) 、否定疑問形 2 例(2.73%) 、補文に用いられる-laa 3 例(4.1%) 、条件節に用いられる-laa 1 例(1.36%) の計 73 例 (100%) 、過去形-jee に対応する例として、肯定形 41 例(97.62%) 、補文に用いられる-jee/-chee 1 例(2.38%) の計 42 例(100%)が存在することが分かった。また、モンゴル語の現在時を表す単純非過去形(-na)に対応する例として肯定形 2 例(40%) 、疑問形 1 例(20%)　否定形 2 例(40%) の計 5 例(100%) 、未来時を表す単純非過去形 (-na) に対応する例として、肯定形 2 例(100%)) が存在することも判明した。全体では英語の単純過去形 (-ed/-d) とモンゴル語の過去形の対応は計 147 例、非過去形との対応は計 7 例であり、総計 154 例である。

表1.英語の単純過去形のモンゴル語のテンス形式に対応する統計結果

<table>
<tr><td colspan="3">対象言語およびテンス
言語および対応する形式</td><td>英語の単純過去形</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="4">モンゴル語の過去形-v</td><td>肯定形</td><td>6 (18.75%)</td></tr>
<tr><td>疑問形</td><td>25 (78.125%)</td></tr>
<tr><td>補文に用いられる-v 語尾</td><td>1 (3.125%)</td></tr>
<tr><td>合計</td><td>32 (100%)</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="6">モンゴル語の過去形-laa</td><td>肯定形</td><td>63 (86.34%)</td></tr>
<tr><td>疑問形</td><td>4 (5.47%)</td></tr>
<tr><td>否定疑問形</td><td>2 (2.73%)</td></tr>
<tr><td>補文に用いられる-laa 語尾</td><td>3 (4.1%)</td></tr>
<tr><td>条件節に用いられる</td><td>1 (1.36%)</td></tr>
<tr><td>合計</td><td>73 (100%)</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">モンゴル語の過去形-jee/-chee</td><td>肯定形</td><td>41 (97.62%)</td></tr>
<tr><td>補文に用いられる-jee 語尾</td><td>1 (2.38%)</td></tr>
<tr><td>合計</td><td>42 (100%)</td></tr>
<tr><td colspan="3">合計</td><td>147</td></tr>
<tr><td rowspan="6">モンゴル語の非過去形-na</td><td rowspan="4">現在時の意味を表す場合</td><td>肯定形</td><td>2 (40%)</td></tr>
<tr><td>疑問形</td><td>1 (20%)</td></tr>
<tr><td>否定形</td><td>2 (40%)</td></tr>
<tr><td>合計</td><td>5 (100%)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">未来時の意味を表す場合</td><td>肯定形</td><td>2 (100%)</td></tr>
<tr><td>合計</td><td>2 (100%)</td></tr>
<tr><td colspan="3">合計</td><td>7</td></tr>
<tr><td colspan="3">総計</td><td>154</td></tr>
</table>

5.2.2.モンゴル語の動名詞語尾 (verbal noun suffixes) との対応

モンゴル語には、完結動名詞語尾-san 、不完結動名詞語尾-aa、非現実動名詞語尾-h、習慣動名詞語尾-dag、 動名詞語尾-maar、 動名詞語尾-gch の 6 種類の動名詞語尾がある。

一般的に殆どの動名詞は文において、修飾語、主語、述語としての機能を果たし、-maar 語尾以外は再帰所有名詞語尾とともに共起し、主語の位置に現れる(Chuluu 1998:109)。

ここでは、英語の単純過去形と、上記の完結動名詞語尾 -san 、不完結動名詞語尾 -aa、非現実動名詞語尾 -h、 動名詞語尾 -maar との対応を考察する。

5.2.2.1. 完結動名詞語尾 –san との対応

以下の文(14a, b)～(23a, b)のように、英語の単純過去形(-ed/-d)は完結動名詞語尾-san に対応する。

(14) a.A fact. We <u>*contacted*</u> the New York police. (Chase 1959)

b.-Hiisen hereg mundahgüi bololtoi. N'yu-Yorkyin tsagdaagiin gazartai <u>*holboo barisan*</u>.

(15) a.What <u>*happened*</u>? <u>*Did*</u> you <u>*pay*</u> her? (Chase 1959)

b.Tegeed yu <u>*bolson be*</u>? Ta tüünd möngö <u>*ögsön üü*</u>?

(16) a.<u>*None*</u> of them <u>*spoke*</u> to me.

b.Tednii <u>*hen ni ch*</u> nadtai <u>*üg solisongüi*</u>.

(17) a. Why <u>*didn*</u>'<u>*t*</u> Harry Potter <u>*go back*</u> home when he missed the train?" (Rowling 1998)

b. Galt teregneesee hotsorchihood Harri Potter yagaad ger rüügee <u>*butssangüi ve*</u>…

(18) a."If I <u>*thought*</u> you'd read my private .. (Rowling 1998)

b.-Minii huviin yumyig unshchihan gej <u>*medsen bol*</u>…'

(19) a.I broke into the bungalow and found the gun that <u>*killed*</u> the Studio guard.. (Chase 1959)

b.Zunyi baishind nevtren orj kino üildveriin manaanyi hüniig <u>*alsan*</u> gar buug olson.

(20) a."It's a shame you <u>*had to see*</u> him on a Burning Day," (Rowling 1998)

b.-Chi tüüniig shatdag ödör ni <u>*harsan ni*</u> jaahan ichmeer l yum.

(21) a."Harry Potter is greater by far <u>*than*</u> Dobby <u>*knew*</u>!" (Rowling 1998)

b.Harri Potter bol Dobbigiin <u>*bodsonoos*</u> augaa hün yum.

(22) a.I have been waiting for you to appear <u>*since*</u> we <u>*arrived*</u> here. (Rowling 1998)

b.End <u>*irsneesee hoish*</u> chamaig l hüleej bailaa.

(23) a."Then you noticed that <u>*after*</u> I <u>*spoke*</u> to it, the snake backed off?" (Rowling 1998)

b.-tegvel namaig mogoitoi <u>*yarisnyi*</u> <u>*daraa*</u> ter hoishoo bolsnyig anzaarsan biz dee..

このような対応のずれが生じることに関しては、以下の4点を挙げることができる。

1.モンゴル語の完結動名詞語尾-san が過去時を表す機能を持っていることによるもの

2. -san が上記の3つの過去時制形式が用いられない疑問文及び否定文に頻繁に用いられることによるもの
3.英語の単純過去形の仮定法に用いられる用法によるもの
4.英語の単純過去形の従属節（a.修飾従属節、b.名詞従属節、c.比較従属節、d.時間副詞従属節）における用法によるもの

第一の点に関しては、文(14b)のように完結動名詞語尾-san は過去時の標識として補助動詞と共起し述語として用いられ、テンス、アスペクトを表すことが知られている。また、単独で主動詞として用いられる。完結動名詞語尾-san を過去時制として扱っている研究も多く存在する。それは、この動名詞語尾が他の 3 つの過去時制形式と同様に過去の出来事を表すのにしばしば用いられているためであると考えられる。しかし、この動名詞語尾が果たす機能は、過去時のみでなく、修飾語、主語、述語としての機能も果たすため通常過去時制形式としては扱わない。

第二の点に関しては、文(15b)～(17b)のように完結動名詞語尾-san は、他の過去時制語尾が用いられない疑問文、否定文及び否定疑問文に頻繁に用いられる。疑問文において用いられる場合、過去時制形式-laa、-jee/-chee が含意する証拠性および過去時制形式 -v が表す話者の丁寧な態度という意味を含意しない。また、否定文においては、他の過去時制形式とは異なり、「何かをするはずだったのにしなかった」という意味を含意する。

第三の点に関しては、 文(18a, b)のように英語の仮定法において用いられる単純過去形 (-ed/-d) はモンゴル語の動詞+完結動名詞語尾-san と連結詞 bol との組み合わせ形式および動詞+動名詞語尾 -san と連結詞 yum 連結詞 bol との組み合わせ形式に対応する。モンゴル語の過去時制形式は、英語とは異なり、仮定法が担う機能を持っていない。

第四の点に関しては、文(19a, b)～(23a, b)のようにa.修飾従属節、b.名詞従属節、c.比較従属節、d.時間副詞従属節に用いられる英語の単純過去形はモンゴル語の完結動名詞語尾-sanに対応する。上記の3つの過去時制形式(-v、-laa、-jee/-chee) はこのような機能を持っていない。

5.2.2.2.不完結動名詞語尾 -aa との対応

英語の単純過去形は、以下の文(24a, b)～(28a, b)のようにモンゴル語の不完結動名詞語尾-aa に対応する。

(24) a.I bet you <u>*went down*</u> some dark alley with an old man with a beard.

b.Neg sahaltai övgön <u>*degeedee biz*</u>… (Chase 1959)

(25) a.I <u>*didn*</u>’<u>*t kill*</u> her,… (Chase 1959)

b.Bi tüüniig <u>*alaagüi*</u>.

(26) a.“*<u>Didn’t</u>* you hear him as we were leaving? (Rowling 1998)

b.Bidniig garahad yu gej baihyig ni *<u>sonsoogüi yu</u>*?

(27) a. What *if* she *never left* the bathroom? (Rowling 1998)

b. Ter ugaalgyin öröönöös hezee ch *<u>yavaagüi bol</u>* yahav?

(28) a.He knows I *<u>didn’t shoot</u>* him,. (Chase 1959)

b.Minii *<u>buudaagüig</u>* ter hün medne.

このような対応のずれが生じることに関しては以下の 3 つの点を挙げることができる。

1.不完結動名詞語尾-aa は過去の出来事を表す機能を持っている。

2.英語の単純過去形の仮定法に用いられる用法によるもの

3.動詞の補文における英語の単純過去形の用法によるもの

第一の点に関しては、Chuluu (1998:111)によればこの語尾は否定語と共に「不完全な」または「まだ完成していない」出来事を表すのに用いられる。文(24a, b)〜(26a, b)のようにモンゴル語の話し言葉において不完結動名詞語尾-aaは肯定形においてモーダル的な意味を表す助詞 biz などと共起して過去の出来事を表すのに用いられる場合がある。また 否定語尾-güiと共起し、過去時制の否定形として頻繁に用いられる。この場合、上記の否定文における完結動名詞語尾-sanと異なる点は「何かをするはずだったのにしなかった」を含意しないということである。

第二の点に関しては、他の過去時を表す過去時制形式、完結動名詞語尾-sanは仮定法の否定形式において用いることができない。従って、文(27a, b)のように仮定法に用いられる英語の単純過去形の否定形はモンゴル語の不完結動名詞-aaの否定形および連結詞bolとの組み合わせ形式に対応する。

第三の点に関しては、文(28a, b)のように動詞の補文における英語の単純過去形の否定形はモンゴル語の不完結動名詞語尾-aaに対応する。3つの過去時制形式 -v、-laa、-jee/-chee および完結動名詞語尾-sanにはこの機能がない。

5.2.2.3.非現実動名詞語尾 -h との対応

英語の単純過去形は、以下の文(29a, b)〜(33a, b)のようにモンゴル語の非現実動名詞語尾-h に対応する。

(29) a. “He *<u>had no idea</u>*,” “that he would shortly be getting much, much more than my book,.(Rowling1998)

b.-Gehdee ter minii nomnoos ch ilüü yumtai boloh gej baigaagaa yaj *<u>medeh</u>* ve dee.

(30) a.They *<u>stayed</u>* to look after the cows. (Батбаяр 1984)

b.Üher malaa haraad *<u>üldehgüi yü</u>*.

(31) a.I never went hungry when I *<u>was</u>* at Smeltings,”　(Rowling 1998)

b.Bi ter surguul`d *baihdaa* yer ölsöj üzeegüi.

(32) a.The culprit must have known it was only a matter of time *before* I *caugh*t him.

b.Tahin shütegchid ni namaig *barihaas ömnö* üüniig medej baisan biz.

(33) a. “Honestly, *if* you *were* any slower, you’d be going backward.” (Rowling 1998)

b. Naiz mini chi iim udaan oilgotstoi *baih yum bol* muu daa.

このような対応のずれが生じることに関しては以下の 3 つの点を挙げることができる。

1.モンゴル語の非現実動名詞語尾-h が過去の出来事を表すことによるもの

2.英語の単純過去形が副詞 when、before 従属節に用いられることによるもの

3.英語の単純過去形が仮定法に用いられることによるもの

第一の点に関しては、文(29a, b)、(30 a, b)のようにモンゴル語の非現実動名詞語尾-hは文末において助詞と共起して過去の出来事を表す場合がある。

第二の点に関しては、Declerck (2006:155-156)によると、英語の過去テンスは絶対的なテンスおよび相対的なテンスの 2 種類の機能を持っている。Stowell (2012:192)も同様に“Finite tenses in english (and many other languages) can have either an absolute or a relative meaning, depending on where they occur syntactically. In main clauses, past tenses are absolute, but in most types of complement clauses, they are relative.”と述べている。

文(31a, b)のように過去のある基準時と同時に起こった出来事を表すのに用いられる過去相対的テンス、つまり英語の接続詞 when と共に副詞従属節に用いられる単純過去形 (-ed/-d) は、モンゴル語の動詞+非現実動名詞語尾 -h+与格及び場所の格語尾 -d 形式に対応する。これ以外に動詞+非現実動名詞語尾 -h および üyed (2 例)、動詞+非現実動名詞語尾 -h 及び hugatsaandaa (1 例)にも対応する例がある。文(32a, b)のように before 副詞節において用いられる英語の単純過去形は、モンゴル語の動詞+非現実動名詞語尾 -h+格語尾-aas 形式に対応する。

第三の点に関しては、文(33a, b)のように仮定法に用いられる英語の単純過去形は、モンゴル語の非現実動名詞語尾-h および連結詞 yum 連結詞 bol の組み合わせ形式に対応する。

5.2.2.4.動名詞語尾 -maar との対応

英語の単純過去形は以下の文(34a, b)のようにモンゴル語の動名詞語尾-maar および補助動詞-bai+非過去時制-na の組み合わせ形式に対応する。

(34) a.“We *wanted to ask* you if you’ve seen anything funny lately,..” (Rowling 1998)

b.-Süüliin üyed yamar negen yer busyin yum ene haviar boloogüi biz gej *asuumaar baina*.

このような対応のずれが生じることに関しては、以下の点を挙げることができる。

1.英語の単純過去形の話者の丁寧な態度を表すモーダル的意味によるもの

動名詞語尾 -maar は主に連体語として用いられ、通常、主文の述語および主語としては用いられない。補助動詞bai-と共起し、話者の願望や要求を表す意味で用いられる。文 (34a, b) のようにモーダルな意味で用いられる英語の単純過去形 (-ed/-d) はモンゴル語の動詞+動名詞語尾-maar および補助動詞 bai+非過去時制-naの組み合わせ形式に対応する。

物語の〈はなしあい〉の文における英語の単純過去形 (-ed/-d)とそれに対応するモンゴル語の動名詞語尾の対応関係を分析した結果、英語の単純過去形 (-ed/-d) がモンゴル語の動詞+完結動名詞語尾-san に対応する例として、肯定形 459 例(88.09%) 、疑問形 34 例(6.52%) 、否定形 21 例(4.04%) 、否定疑問形 7 例(1.35%) の計 521 例(100%)があり、動詞+完結動名詞語尾-san の連結詞 bol との組み合わせ形式に対応する例として、8 例(100%) があり、従属節に用いられる-san に対応する例として 17 例(100%)があり、動詞+非完結動名詞語尾-aa に対応する例として、肯定形 1 例(0.76%) 、疑問形 12 例(9.16%) 、否定形 82 例(62.60%) 、否定疑問形 32 例(24.43%)、仮定法 2 例(1.525%)、動詞の補文 2 例(1.525%)の計 131 例(100%)があり、動詞+非現実動名詞語尾-h に対応する例として、現在時を表す場合 11 例(14.66%) 、未来時を表す場合 28 例(37.33%) 、動詞+非現実動名詞語尾 -h+与格及び場所の格語尾-d 形式 36 例(48.01%) の計 75 例(100%)があり、動詞+動名詞語尾-maar および補助動詞 bai-の組み合わせ形式に対応する例として、肯定形 4 例(100%) があることが判明した。全体では英語の単純過去形 (-ed/-d) に対応するモンゴル語の動名詞語尾に関しては、-san が 546 例、-aa が 131 例、-h が 75 例、-maar が 4 例、総計 756 例である。

表 2. 英語の単純過去形のモンゴル語の動名詞語尾に対応する統計結果

言語および対応する形式 ＼ 対象言語およびテンス		英語の単純過去形-ed/-d
モンゴル語の動名詞語尾-san	肯定形	459 (88.09%）
	疑問形	34 (6.52%)
	否定形	21 (4.04%)
	否定疑問形	7 (1.35%)
	合計	**521 (100%)**
動詞+動名詞語尾-san 及び連結詞 bol	仮定法形式	8 (100%)
	合計	**8 (100%)**
動詞+動名詞語尾-san	従属節	17 (100%)
	合計	**17 (100%)**

合計		546 (100%)
モンゴル語の動名詞語尾-aa	肯定形	1 (0.76%)
	疑問形	12 (9.16%)
	否定形	82 (62.60%)
	否定疑問形	32 (24.43%)
	仮定法	2 (1.525%)
	動詞の補文	2 (1.525%)
合計		**131 (100%)**
モンゴル語の動名詞語尾-h	現在時を表す場合	11 (14.66%)
	未来時を表す場合	28 (37.33%)
	動詞+非現実動名詞語尾 -h+与格及び場所の格語尾-d 形式	36 (48.01%)
合計		**75 (100%)**
モンゴル語の動名詞語尾-maar	肯定形	4(100%)
合計		**4(100%)**
総計		**756**

5.2.3.モンゴル語のアスペクト形式との対応

ここでは、英語の単純過去形の、モンゴル語のアスペクト形式である 1.過去進行形、2.過去習慣形、3.現在進行形、4.現在習慣形、5.主動詞+連用語尾-j/-ch と補助動詞+過去形および完結動名詞語尾-san との組み合わせ形式、6.動詞+連用語尾-aad と補助動詞+過去形および完結動名詞語尾-san との組み合わせ形式、7.動詞+完了アスペクト語尾-chih +過去形および完結動名詞語尾 -san 形式、8.動詞+完結動名詞語尾-san と補助動詞 bai-過去形および完結動名詞語尾-san との組み合わせ形式、9.動詞+完了アスペクト語尾-chih+完結動名詞語尾-san と補助動詞 bai-過去形および完結動名詞語尾-san との組み合わせ形式のそれぞれとの対応を考察する。

5.2.3.1.モンゴル語の過去進行形（動詞+連用語尾-j/-ch 及び補助動詞 bai+過去形および完結動名詞語尾-san）との対応

以下の文 (35a, b)、(36a, b)のように英語の単純過去形 (-ed/-d) はモンゴル語の過去進行形に対応する場合がある。

(35) a.“We *hoped* you'd only gone one grate too far. . ” (Rowling 1998)

b.Chamaig gantshan zuuhaar zörsön baih gej *goridoj bailaa*.

(36) a.“So you never — *never attacked* anyone?” (Rowling 1998)

b.-Tegeed ta hezee ch, hezee ch hün rüü *haldaj baigaagüi yu*?

このような対応のずれが生じることに関しては以下の 2 点を挙げることができる。

1.両言語における語彙アスペクトと進行形との相互作用によるもの

2.モンゴル語における過去進行形の用法によるもの

第一の点に関しては、Smith (1991:111) は「進行形は非状態場面のみに用いられる」と述べている[5]。それは、「進行的」という意味は進行相の基本的意味であるため典型的に活動場面に適用され、状態場面に適用されないという観察に基づいている。つまり何かが進行中であるという動作表現が状態場面に当てはまらないからであると考えられる。しかし、言語によっては進行形が状態場面にも現れることがある。Comrie (1976:35-36) は「進行性とは進行の意味と非状態の意味とが結合したものである、という一般的な定義を与えることができる。…しかし、残念なことに、現実はそうではない[6]」と述べ、英語等においても進行形は状態動詞にも用いられると述べている。状態場面、活動場面のどの場面タイプに言及するかは、進行相の定義が当てはめにくい言語があればそれが最大の特徴として指摘できる言語もあるため、決定することが困難である。例えば、英語およびモンゴル語の進行形は状態述語と共起しない場合もする場合もある。しかし、共起しないかするかの決め手は両言語において異なる。英語においては、出来事を動的なものとして表すか状態として表すかという観点に従って状態述語に進行形が用いられたり、用いられなかったりする。これに対し、モンゴル語においては殆どの場合進行形が容認され、英語に比べて制限が緩い。このように両言語における状態場面と進行形の相互作用の相違により上記の文(35a, b)のように英語の単純過去形はモンゴル語の過去進行形に対応する。

第二の点に関しては、モンゴル語の過去進行形は「～したことがある」および「そんな経験がある」という過去の経験を表すために用いられる。従って、上記の文(36a, b)のように英語の単純過去形はモンゴル語の過去進行形に対応する。

[5] Smith (1991:111)、訳は筆者による。
[6] 訳は 山田(1988:58)に従う。

物語の〈はなしあい〉の文における英語の単純過去形 (-ed/-d) とそれに対応するモンゴル語の過去進行形の対応関係を分析した結果、英語の単純過去形 (-ed/-d) がモンゴル語の状態の意味を表す過去進行形に対応する例としては、肯定形 43 例(68.25%) 、疑問形 2 例(3.17%) の計 45 例、経験の意味を表す過去進行形に対応する例としては、肯定形 10 例(15.88%) 、疑問形 1 例(1.59%) 、否定形 6 例(9.52%) 、否定疑問形 1 例(1.59%) の計 18 例、総計 63 例(100%)であることが判明した。

表3. 英語の単純過去形のモンゴル語の過去進行形に対応する統計結果

対象言語およびテンス ＼ 言語および対応する形式			英語の単純過去形-ed/-d
モンゴル語の過去進行形	状態の意味を表す	肯定形	43 (68.25%)
		疑問形	2 (3.17%)
	合計		**45**
	経験の意味を表す	肯定形	10 (15.88%)
		疑問形	1 (1.59%)
		否定形	6 (9.52%)
		否定疑問形	1 (1.59%)
	合計		**18**
総計			**63(100%)**

5.2.3.2.モンゴル語の過去習慣形（動詞+習慣動名詞語尾-dag及び補助動詞bai+過去形および完結動名詞語尾-san）との対応

以下の文 (37a, b) 、(38a, b) のように英語の単純過去形はモンゴル語の過去習慣形に対応する場合がある。

(37) a.“I always *knew* Salazar Slytherin was a twisted old loony,”　(Rowling 1998)

b.Salazar Slizerin bol gajigtai högshin teneg baisan gej bi ürgelj *meddeg baisan*…

(38) a.We house-elves *were treated* like vermin, sir!　(Rowling 1998)

b.Noyonton, geriin ongon bidniig öt horhoi met *üzdeg bailaa*.

このような対応のずれが生じることに関しては以下の点を挙げることができる。

1.英語の単純過去形の習慣的用法によるもの

英語においては過去習慣を表すのに used to あるいは would+verb infinitive の2つの形式が用いられる。また、単純過去形 (-ed/-d) も反復を表す副詞と共起することもあるが、共起することなく過去習慣の意味を表す場合もある。これに対し、モンゴル語においては過去習慣形として動詞+動名詞語尾-dag と補助動詞bai-の組み合わせ形式がある。上記の英語における過去習慣の意味を表す3つの形式はモンゴル語の過去習慣形に対応する。

物語の〈はなしあい〉の文における英語の単純過去形 (-ed/-d) とそれに対応するモンゴル語の過去習慣形の対応関係を分析した結果、英語の単純過去形 (-ed/-d) がモンゴル語の過去習慣形に対応する例として、肯定形 12 例(64%)、疑問形 2 例(12%) 、否定形 4 例(24%) の計 18 例が存在する。

表4. 英語の単純過去形のモンゴル語の過去習慣形に対応する
統計結果

対象言語およびテンス ＼ 言語および対応する形式		英語の単純過去形-ed/-d
モンゴル語の過去習慣形	肯定形	12 (64%)
	疑問形	2 (12%)
	否定形	4 (24%)
合計		**18 (100%)**

5.2.3.3.モンゴル語の現在進行形（動詞+連用語尾–j/-ch 及び補助動詞 bai+非過去形）との対応

以下の文(39a, b)のように英語の単純過去形 (-ed/-d) がモンゴル語の現在進行形に対応する場合がある。

(39) a.He *told* me if he finds you he’ll kill you. (Chase 1959)

b.Herev chamaig olvol alna gej *yar`j baina*.

このような対応のずれが生じることに関しては以下の点を挙げることができる。

1.モンゴル語における現在進行形の歴史的現在用法によるもの

モンゴル語においては現在進行形が単純非過去形-na と同様に歴史的現在用法を持っている。この用法は、話者が発話時以前あるいは発話時直前に起こった過去の出来事を今との強い関連性を感じつつ述べる場合に用いられると考えられる。英語においても現在進行形の歴史的用法がある。例えば、Someone is asking for you. What is she saying? (Declerck(1991:69)。しかし、上記の文(39a, b)

のように両言語における現在進行形の歴史的用法は必ずしも一致しないことが分かる。従って、英語の単純過去形がモンゴル語の現在進行形に対応する場合が存在する。

物語の〈はなしあい〉の文における英語の単純過去形 (-ed/-d) とそれに対応するモンゴル語の現在進行形の対応関係を分析した結果、英語の単純過去形 (-ed/-d) がモンゴル語の現在進行形に対応する例として、肯定形 24 例(82.76%) 、疑問形 5 例(17.24%) の計 29 例が存在する。

表5. 英語の単純過去形のモンゴル語の現在進行形に対応する
統計結果

対象言語およびテンス ＼ 言語および対応する形式		英語の単純過去形-ed/-d
モンゴル語の現在進行形	肯定形	24 (82.76%)
	疑問形	5 (17.24%)
合計		**29 (100%)**

5.2.3.4.モンゴル語の現在習慣形（動詞+習慣動名詞語尾 -dag）との対応

以下の文(40a, b)、(41a, b)のように英語の単純過去形はモンゴル語の現在習慣形に対応する場合がある。

(40) a.That girl told me that she <u>*lived*</u> with her grandmother. (Bruce 1981)

b.Ter ohin emeeteigee <u>*amidardag*</u> gej nadad helsen.

(41) a.“Of all the trees we could’ve hit, we <u>*had to get*</u> one that hits back.” (Rowling 1998)

b.-Olon mod baihad bid gantshan uur hilenteig ni olj <u>*mörgödög.*</u>

このような対応のずれが生じることに関しては以下の2点を挙げることができる。

1.両言語の間接話法における話者の視点に関わる相違によるもの

2.モンゴル語の現在習慣形の過去の出来事を表す用法によるもの

第一の点に関しては、過去の出来事を表す文の直接話法から間接話法への転換の際に、英語の間接話法においてはもとの発言における時制はその発言を伝える人の指示センターに対応し移行する。それに対し、モンゴル語においては間接話法の動詞の時制は対応する直接話法と同じ時制であり、そのまま全く変化しない。それは、モンゴル語における間接話法の時制は話者のhere-

and-now の deictic centre の視点により解釈されるのではなく、元の発話者の指示センターにより解釈されるからである。英語におけるこの現象について先行研究では、a. 出来事及び状態は過去時に位置していることにより、that 節の動詞のテンスは主文の動詞のテンスと同じである、b. that 節のテンスは主文のテンスと同じ絶対的なテンスではなく、相対的なテンスであり、主文の出来事と同時に起こったという意味を表す、c. 英語において現在時制は過去時制に機械的に後戻りの転換 (backshift) をするsequence of tenses ルールがあるという三通りの説明がなされている (Declerck 1991:4)。

第二の点に関しては、上記の文 (41a, b) のようにモンゴル語の現在習慣形が過去の出来事を表す用法がある。この場合、話者の出来事に対する後悔や驚きの意味を含意する。

物語の〈はなしあい〉の文における英語の単純過去形 (-ed/-d) とそれに対応するモンゴル語の現在習慣形の対応関係を分析した結果、英語の単純過去形 (-ed/-d) がモンゴル語の現在習慣形に対応する例として、肯定形 15 例(62.51%) 、疑問形 2 例(8.33%) 、否定形 7 例(29.16%) の計 24 例(100%) が存在することが分かった。

表6. 英語の単純過去形のモンゴル語の現在習慣形に対応する
統計結果

対象言語およびテンス / 言語および対応する形式		英語の単純過去形-ed/-d
モンゴル語の現在習慣形	肯定形	15 (62.51%)
	疑問形	2 (8.33%)
	否定形	7 (29.16%)
合計		**24 (100%)**

5.2.3.5.主動詞+連用語尾-j/-ch と補助動詞+過去形および完結動名詞語尾-san の組み合わせ形式との対応

以下の文 (42a, b) のように英語の単純過去形 (-ed/-d) はモンゴル語のアスペクト的な意味（完了）を表す主動詞+連用語尾-j/-ch と補助動詞+過去形および完結動名詞語尾-san の組み合わせ形式に対応する場合がある。

(42) a.“Dobby was so shocked when he heard Harry Potter was back at Hogwarts, he *let* his master’s dinner

burn! (Rowling 1998)

b.-Harri Potter surguul`daa ochij chadsanyig sonsood tsochirdsondoo bi ezniihee oroin hoolyig *tülj orhison*.

このような対応のずれが生じることに関しては、モンゴル語において出来事の局面を表すのに動詞+連用語尾と補助動詞の複合形式が用いられることによる。上記の主動詞+連用語尾-j/-chと補助動詞+過去形および完結動名詞語尾-sanの組み合わせ形式は過去に起こった出来事の完成を表しているのみでなく偶然であるという意味を含意する。従って、上記の文(42a, b)のように英語の単純過去形は、モンゴル語の主動詞+連用語尾-j/-chと補助動詞+過去形および完結動名詞語尾-sanとの組み合わせ形式に対応する場合がある、という理由を挙げることができる。

物語の〈はなしあい〉の文における英語の単純過去形 (-ed/-d)とそれに対応するモンゴル語の主動詞+連用語尾-j/-ch と補助動詞+過去形および完結動名詞語尾-san との組み合わせ形式の対応関係を分析した結果、英語の単純過去形 (-ed/-d) は主動詞+連用語尾-j/-ch 補助動詞+過去形、完結動名詞語尾-san との組み合わせ形式に計 2 例(100%)対応する。

表7. 英語の単純過去形のモンゴル語の主動詞+連用語尾-j/-ch 補助動詞+過去形および完結動名詞語尾-sanとの組み合わせ形式に対応する統計結果

対象言語およびテンス ＼ 言語および対応する形式	英語の単純過去形-ed/-d
主動詞+連用語尾-j/-ch 補助動詞+過去形および完結動名詞語尾-san との組み合わせ形式	2 (100%)
合計	**2 (100%)**

5.2.3.6.主動詞+連用語尾-aad 補助動詞+過去形及び完結動名詞語尾-san の組み合わせ形式との対応

以下の文(43a, b)～(45a, b)のように英語の単純過去形 (-ed/-d) はモンゴル語のアスペクト的な意味（反復、継続）を表す主動詞+連用語尾-aad と補助動詞+過去形および完結動名詞語尾-san との組み合わせ形式に対応する場合がある。

(43) a. Dobby *warned and warned* Harry Potter. (Rowling 1998)

b. Dobbi *anhaaruulaad l baisan*.

(44) a They *said* something funny. A different language, I think it must have been. (Rowling 1998)

b.Orj irsen hümüüs neg hachin heleer *yariad baisan*.

(45) a. “Malfoy *called* her ‘Mudblood’...” (Rowling 1998)

b. Malfoi tüüniig shalbaagan tsust *<u>geed baigaa</u>* yum daa.

物語の〈はなしあい〉の文における英語の単純過去形 (-ed/-d)とそれに対応するモンゴル語の主動詞+連用語尾-aad と補助動詞+過去形および完結動名詞語尾-san との組み合わせ形式の対応関係を分析した結果、計 21 例(100%)である。

表 8. 英語の単純過去形のモンゴル語の主動詞+連用語尾-aad と補助動詞+過去形および完結動名詞語尾-san との組み合わせ形式に対応する統計結果

対象言語およびテンス ＼ 言語および対応する形式	英語の単純過去形-ed/-d
主動詞+連用語尾-aad と補助動詞+過去形および完結動名詞語尾-san との組み合わせ形式	21 (100%)
合計	**21 (100%)**

5.2.3.7.モンゴル語の動詞+完了アスペクト語尾-chih+過去形、完結動名詞語尾-san 形式との対応

以下の文(46a, b)～(49a, b)のように英語の単純過去形(-ed/-d)はモンゴル語の「不意に」或いは「偶然に」起こった出来事及び「完了した」出来事を表す動詞+完了アスペクト語尾-chih+過去形、完結動名詞語尾-san 形式に対応する場合がある。

(46) a."I told you, I *<u>was lost</u>* — what were you doing down there, anyway?" (Rowling 1998)

b.Tegeed ch *<u>töörchihsön</u>* gej helsen shüü dee. Ingehed ta ööröö yu hiij yavsan yum be?

(47) a.Five minutes *<u>passed</u>*. (Bruce 1981)

b.5 minut *<u>öngörchihlöö</u>*.

(48) a.I meant to call, but I *<u>forgot.</u>* (Bruce 1981)

b.Bi utastaya gej baigaad *<u>martchihjee</u>*.

(49) a.Why *<u>did</u>* you *<u>pause</u>*? (Bruce 1981)

b.Ta yagaad *<u>zogschihoo ve</u>*?

この対応のずれに関しては、モンゴル語の形式が上記の 5.2.3.5.において述べられた主動詞+連用語尾-j/-ch と補助動詞+過去形および完結動名詞語尾-san との組み合わせ形式とほぼ同じ意味を表すことによる。つまり過去の出来事が完了したのみでなく、偶然という意味を加える機能を果たしている。上記の文(46a, b)～(49a, b)は、すべて話者の意図によるものでなく lose、forget などのように意図的でない偶然の出来事を表している。

物語の〈はなしあい〉の文における英語の単純過去形 (-ed/-d) とそれに対応するモンゴル語の動詞+完了アスペクト語尾-chih+過去形および完結動名詞語尾-san 形式の対応関係を分析した結果、英語の単純過去形 (-ed/-d) はモンゴル語の動詞+完了アスペクト語尾- chih+過去形、完結動名詞語尾-san の肯定形 42 例(93.33%)、疑問形 3 例(6.67%) に対応し、計 45 例(100%)である。

表 9. 英語の単純過去形のモンゴル語の動詞+完了アスペクトの形式-chih+過去形、完結動名詞語尾-san に対応する統計結果

対象言語およびテンス ／ 言語および対応する形式		英語の単純過去形-ed/-d
モンゴル語の動詞+完了アスペクトの形式-chih+過去形、完結動名詞語尾-san	肯定形	42 (93.33%)
	疑問形	3 (6.67%)
合計		**45 (100%)**

5.2.3.8.モンゴル語の主動詞+完結動名詞語尾-san と補助動詞 bai-との対応

英語の単純過去形は、以下の文(50a, b)～(52a, b)のようにモンゴル語の主動詞+完結動名詞語尾-san と補助動詞 bai-との組み合わせ形式に対応する場合がある。

(50) a.“You *were seen*,”

b.-Ta nar hünd *haragdsan baina*.

(51) a.This letter *arrived* on the morning of the 17th. (Chase 1959)

b.Ene zahidal 17-nyi ödör *ochson baina*.

(52) a. Mandon’s fingerprints *were* on the steering wheel. (Chase 1959)

b. Joloon deer n` Mendonyi huruunyi hee *üldsen baisan*.

主動詞+完結動名詞語尾 san と補助動詞 bai-との組み合わせ形式は、過去に起こった出来事の基準点における結果状態の意味を表す。

物語の〈はなしあい〉の文における英語の単純過去形(-ed/-d)とそれに対応するモンゴル語の主動詞+完結動名詞語尾 san と補助動詞 bai-過去形及び完結動名詞語尾-san 形式との対応関係を分析した結果、英語の単純過去形 (-ed/-d) はモンゴル語の主動詞+完結動名詞語尾 san と補助動詞 bai-過去形及び完結動名詞語尾-san の肯定形 26 例(96.29%)、疑問形 1 例(3.71%)に対応し、計 27 例(100%)である。

表 10.モンゴル語の主動詞+完結動名詞語尾 san と補助動詞 bai-
過去形及び完結動名詞語尾-san に対応する統計結果

対象言語およびテンス／言語および対応する形式		英語の単純過去形-ed/-d
モンゴル語の主動詞+完結動名詞語尾-san 及び補助動詞 bai-過去形、完結動名詞語尾-san	肯定形	26 (96.29%)
	疑問形	1 (3.71%)
	合計	**27 (100%)**

5.2.3.9.モンゴル語の主動詞+完了アスペクト語尾-chih+完結動名詞語尾 san と補助動詞 bai-との対応

英語の単純過去形は、以下の文(53a, b)、(54a, b)のようにモンゴル語の主動詞+完了アスペクト語尾-chih+完結動名詞語尾-san と補助動詞 bai-との組み合わせ形式に対応する場合がある。

(53) a. "I <u>*booked*</u> the field for today! (Rowling 1998)

b.Bi önöödör talbaig <u>*avchihsan baigaa shüü dee*</u>.

(54) a.You <u>*left*</u> your binoculars. (Батбаяр 1984)

b.Chi durangaa <u>*martchihsan baina lee*</u>

物語の〈はなしあい〉の文における英語の単純過去形 (-ed/-d) とそれに対応するモンゴル語の主動詞+完了アスペクト語尾-chih+完結動名詞語尾–san と補助動詞 bai-との組み合わせ形式との対応関係を分析した結果、英語の単純過去形 (-ed/-d) はモンゴル語の主動詞+完了アスペクト語尾-chih +完結動名詞語尾–san と補助動詞 bai-との組み合わせ形式の肯定形 4 例(100%)に対応し、計 4 例(100%)である。

表 11.モンゴル語の主動詞+完了アスペクト語尾-chih+完結動名詞語尾-san
及び補助動詞 bai-過去形、動名詞語尾-san に対応する統計結果

対象言語およびテンス／言語および対応する形式		英語の単純過去形-ed/-d
モンゴル語の主動詞+完了アスペクト語尾-chih+完結動名詞語尾-san 及び補助動詞 bai-	肯定形	4(100%)
	合計	**4 (100%)**

5.2.4.モンゴル語の連用語尾との対応

英語の単純過去形は、以下の文(55a, b)～(57a, b)のようにモンゴル語の連用語尾に対応する場合がある。

(55) a. ..and then Dad *came* home and said you'd got an official warning for using magic in front of Muggles —" (Rowling 1998)

b. ..getel aav öchigdör gertee *ireed* chamaig maagluudyin nüden deer shid üzüüleed albanaas sanuulga avsan gej yarilaa.

(56) a.In my fifth year, the Chamber *was opened* and the monster *attacked* several students, finally killing one. (Rowling 1998)

b.Hogvardad sursan 5 dah` jild Nuutsat öröö *ongoij*, hed heden oyutan ruu mangas *dovtolj*, etsest ni neg oyutan ühsen.

(57) a.but I have every confidence that if your wife *went* to Dr. Zimmerman's place she would have the very best chance of recovery. (Chase 1959)

b.Gevch ehneree tend *hevtüülvel* edgereh hamgiin sain naidlagatai...

このような対応のずれが生じることに関しては、以下の 2 つの点を挙げることができる。

1.並列関係言語、従属関係言語の相違によるもの

2.英語の単純過去形の条件節において用いられる用法によるもの

第一の点に関しては、Binnick (2012:160) によれば、モンゴル語は従属関係 (hypotaxis) 言語であり、英語は並位関係 (parataxis) 言語である。Binnick (2012:160) は「従属関係 「下置」(putting-under)は、あるユニットを他のユニットに従属させる構文上の従属関係を表す。モンゴル語を含むアルタイ系の言語では、統語的に同じランクの単位として処理することができないユニットを並列させる傾向がある。例えば、一連の出来事は一つの定形動詞の語尾によりマークされた、ただ一つの節を伴う単一の文において伝えられる。残りの全ては、一つの主節に従属した分詞あるいは連用形構文である。並列関係「並置」(putting-alongside)は、ユニットの構文的等位関係を表す。英語や中国語のような言語では、同じランクの単位として処理され得るユニットを並位させる傾向がある。一連の出来事は、それぞれが定形動詞を持っている独立した節 (i,iii) あるいは文 (ii,iv) によって伝えられる。i. I came, I saw, I conquered. ii. I came. I saw. I conquered. iii. I drove home and found the front door wide open. iv. I drove home. I found the front door wide open.」と述べている [7]。

連用語尾 (Converb) は nonfinite verb form であり、その主な機能は副詞的な従属関係を表すことである(Haspelmath 1995:3)。Chuluu (1998:77)によるとモンゴル語の連用語尾には前後関係の連用語

[7]Binnick (2012:160)、訳は筆者による。

尾 (contextual converbs (-j/-ch, -n, -aad, -saar)) および特殊化された連用語尾 (specialized converbs (-bal, -vch, -hlaar, -magts, -tal, -haar)) の 2 種類がある。Nedjalkov (1995:107) によると文脈における前後関係の連用語尾について、同時性、前、後などのような時間的意味および態度、譲歩、条件、目的のような非時間的意味を持っている。Chuluu (1998:77)は“The specialized converbs …express the particular circumstantial meanings related to such meanings as anteriority, posteriority, condition, concessive, successive and purpose etc.”と述べている。従って、上記の文(55a, b) 、(56a, b) のように、過去の連続して起こった出来事を表す英語の単純過去形 (-ed/-d) はモンゴル語の前後関係の連用語尾に対応する。

第二の点に関しては、上記の文(57a, b)のように英語の単純過去形は条件節において用いられる。モンゴル語において特殊化された連用語尾 (specialized converb) val/-bal はこのような条件節に用いられる。従って、英語の単純過去形は、モンゴル語の特殊化された連用語尾-bal に対応する。

物語の〈はなしあい〉の文における英語の単純過去形 (-ed/-d) とそれに対応するモンゴル語の連用語尾の対応関係を分析した結果、英語の単純過去形 (-ed/-d) はモンゴル語の前後関係の連用語尾 -j/-ch 34 例(26.771%) 、-aad 60 例(47.244%) 、-n 3 例(2.362%) 、特殊化された連用語尾-val/-bal 17 例 (13.385%) 、-vch 1 例(0.787%) 、-hlaar 1 例(0.787%) 、-tal 7 例(5.515%) 、-haar 4 例(3.149%) に対応し、計 127 例(100%)である。

表12. 英語の単純過去形のモンゴル語の連用語尾に対応する統計結果

対象言語およびテンス 言語および対応する形式			英語の単純過去形-ed/-d
モンゴル語の連用語尾	前後関係の連用語尾	-j/-ch	34 (26.771%)
		-aad	60 (47.244%)
		-n	3 (2.362%)
		saar	0 (0%)
	特殊化された連用語尾	-val/-bal	17 (13.385%)
		-vch	1 (0.787%)
		-hlaar	1 (0.787)
		-magts, -nguut[8]	0 (0%)
		-tal	7 (5.515%)

[8] 本研究で用いた資料の範囲においてはこの特殊化された連用語尾-magts、-nguut に対応する例は観察されなかったが、時間副詞従属節 (when, as soon as) においてこの連用語尾に対応する場合が多くある。

		-haar	4 (3.149%)
合計			**127 (100%)**

5.2.5.モンゴル語のムード及びモダリティ形式との対応

以下の文 (58a, b)〜(61a, b) のように過去の出来事の意味を表さず、周辺的な意味つまりモーダルな意味で用いられる英語の単純過去形 (-ed/-d) が、モンゴル語の願望語尾-aasai、主動詞+習慣動名詞語尾-dag (ch) と補助動詞bol+願望法語尾-oosoiとの複合形式、願望語尾-ya およびモンゴル語のモダリティ形式に対応する場合がある。

(58) a.I wish he <u>*was*</u> mine, he's really divine、.. (Rowling 1998)

b.Tüüniig miniih <u>*baigaasai*</u> gej bi hüsne, ter üneheer hurmastyin hüü

(59) a."Ah, if Harry Potter only <u>*knew*</u>!" (Rowling 1998)

b.Harri Potter <u>*oilgodog ch boloosoi*</u>.

(60) a.It's just that the child longed to see his father. Also, I <u>*wanted to meet*</u> you. (Батбаяр 1984)

b.Ene hüühdiig l etsgiin ni baraag haruulchihya.Ta nartai ch neg <u>*uulzaya*</u> gej yavaa yum.

(61) a."Bet you <u>*loved*</u> that, <u>*didn't*</u> you, Potter?" (Rowling 1998)

b.Chi ingüülehdee ih <u>*durtai baigaa bailgüi*</u> …

このような対応のずれが生じることに関しては、以下の点を挙げることができる。

1.英語の単純過去時制のモーダル的意味を表す用法によるもの

物語の〈はなしあい〉の文における英語の単純過去形 (-ed/-d)とそれに対応するモンゴル語のムード及びモダリティ形式の対応関係を分析した結果、英語の単純過去形 (-ed/-d) はモンゴル語のムードを表す願望法語尾- aasai 5例(25%) 、主動詞+習慣動名詞語尾 -dag(ch)と補助動詞 bol+ 願望語尾 -oosoi との複合形式 2例(10%) 、願望法の語尾-ya 5 例(25%) 、モダリティ形式 8 例 (40%) に対応し、計 20 例(100%)である。

表13. 英語の単純過去形のモンゴル語のムードおよびモダリティの形式に対応する統計結果

対象言語およびテンス ＼ 言語および対応する形式		英語の単純過去形-ed/-d
モンゴル語のムード	願望法語尾-aasai	5 (25%)
	願望法の語尾-ya	5 (25%)

	願望複合形式主動詞+習慣動名詞語尾-dag(ch)と補助動詞 bol+ 願望語尾-oosoi との複合形式	2 (10%)
モンゴル語のモダリティ形式		8 (40%)
合計		**20 (100%)**

5.2.6.動詞を持たない文及び節との対応

以下の文 (62a, b) 、(63a, b) のように英語の単純過去形はモンゴル語の動詞を持たない文および節に対応する場合がある。

(62) a.No, it *<u>was</u>* Chopin..(Chase 1959)

b.-Bi bishee, *<u>Shopen</u>*.

(63) a.It *<u>belonged</u>* to Wilbur.(Chase 1959)

b.*<u>Uilburyin buu</u>*.

このようなずれに関しては、以下の点を挙げることができる。

1.モンゴル語において連結詞が省かれることが頻繁にあることによるもの

英語において連結詞(copular verb)として用いられるbe 動詞およびそれ以外の動詞の単純過去形 (-ed/-d) が、モンゴル語において動詞を持たない文及び節に対応する場合がある。

物語の〈はなしあい〉の文における英語の単純過去形 (-ed/-d) とそれに対応するモンゴル語の動詞を持たない文及び節の対応関係を分析した結果、英語の単純過去形 (-ed/-d) はモンゴル語の動詞を持たない文及び節の肯定形 28例(75.67%) 、疑問形 9例(24.33%) に対応し、計37 例(100%)である。

表 14. 英語の単純過去形のモンゴル語の動詞を持たない文及び節に対応する統計結果

言語および対応する形式 ＼ 対象言語およびテンス		英語の単純過去形 -ed/-d
モンゴル語の動詞を持たない文及び節	肯定形	28 (75.67%)
	疑問形	9 (24.33%)
合計		**37 (100%)**

5.3.まとめ

本章では、物語の〈はなしあい〉の文における英語の単純過去形 (-ed/-d) とそれに対応するモンゴル語の形式および表現の対応関係を分析した。その結果、英語の単純過去形 (-ed/-d) はモンゴル語において単純過去形のみではなく単純非過去形、アスペクト形式、動名詞語尾、連用語尾、ムード及びモダリティ形式、動詞を持たない文及び節に対応することが明らかになった。さらに詳しく見ると、物語の〈はなしあい〉の文においてモンゴル語の計 6 種類における 43 形式について、英語の単純過去形 (-ed/-d) と完結動名詞語尾-san との対応は 546 例であり、英語の単純過去形 (-ed/-d) に対応するモンゴル語の形式及び表現の中では用例数に関して第 1 位、非完結動名詞語尾-aa との対応は 131 例であり第 2 位、非現実動名詞語尾-h との対応は 75 例であり第 3 位という具合に、これら 3 つが突出しているのに対し、過去形-laa との対応は 73 例であり第 4 位、過去形-jee/-chee との対応は 42 例であり第 8 位、過去形-v との対応は 32 例であり第 11 位という具合に、対応例が相対的に少ないことが明らかとなった。

先行研究において、英語の単純過去形の用法は、1.過去の状態・動作・出来事を表す、2. モーダル遠隔性 (modal remoteness) を表す、3. 後戻りの転換 (backshift) および時制照応に係る、という具合に、大きく 3 つの用法に分かれている。本研究で用いられた物語の〈はなしあい〉の文においても上記全ての用法が現れており、英語の単純過去形は過去の状態・動作・出来事を表すという用法の場合のみモンゴル語の過去形 (-v、 -laa、-jee/-chee) に対応し、他の用法においては対応しないことが明らかとなった。

英語の単純過去形とそれに対応するモンゴル語の形式および表現における対応のずれに関わる主な要因としては以下の 7 つを挙げることができる。

1.モンゴル語の歴史的現在用法　/a.モンゴル語の単純非過去形、b.モンゴル語の現在進行形/

2.話者の視点に関わる相違　/a. 従属節における、b.補文における、c.間接話法における/

3.両言語における語彙アスペクトと進行形の相互作用　/a.状態動詞における/

4.従属関係(hypotaxis)と並列関係(parataxis)に関わる相違　/a.連続して起こった出来事/

5.英語の単純過去形の用法　/a.過去習慣的用法、b.モーダル的用法、c.仮定法、d.条件節/

6.モンゴル語の現在習慣形の用法　/a.過去の出来事を表す用法/

7.モンゴル語の過去進行形の用法　/a.過去の経験を表す用法/

以下では、モンゴル語の単純過去形 (-v,-laa,-jee/-chee) の英語に対応する形式および表現に触れておく。

5.4. モンゴル語の単純過去形（-v、-laa、-jee/-chee）の英語に対応する形式および表現

5.4.1. はじめに

物語の〈はなしあい〉の文において、モンゴル語の単純過去形 (-v、-laa、-jee/-chee) が英語の単純過去形に対応するのは、過去の状態・動作・出来事の場合のみであることを述べた。ここでは、英語の単純過去形以外にどのような形式表現に対応するかを考察する。

モンゴル語の単純過去形 (-v、-laa、-jee/-chee) はそれぞれ過去時を表す英語の単純過去形と同様に、基本的な意味以外に周辺的な意味も持っており、英語において対応する形式および表現も様々であると考えられる。

5.4.2.物語の〈はなしあい〉の文におけるモンゴル語の単純過去形(-v -laa -jee/-chee)とそれに対応する英語の形式及び表現

物語の〈はなしあい〉の文におけるモンゴル語の単純過去形 (-v、-laa、-jee/-chee) は、それぞれ英語において大きく分けて以下の 7 種類の形式及び表現に対応する。

1. テンス形式（単純現在形）
2. 未来時を表す形式
3. アスペクト形式（現在進行、現在完了形、現在完了進行形）
4. ムードおよびモダリティ形式
5. 付加疑問語句
6. 不定詞
7. 動詞を持たない文および節

5.4.2.1. 英語の時制との対応

5.4.2.1.1. 英語の単純現在形との対応

以下の文 (1a, b)～(13a, b) のようにモンゴル語の単純過去形 (-v、-laa、-jee/-chee)が、英語の単純現在形に対応する場合がある。

モンゴル語の単純過去形-v

(1) a.Yamar ih <u>*yadrav aa*</u>,...

b.“Blimey, I’*m tired*,”

(2) a.-Za tegeheer *oilgov uu*?Asuuh züil baina uu...

b.“*Is* that *clear*? Any questions?”

(3) a.Odoo *sanaa chin` amrav uu*? (Chase 1959)

b.*Does* that *satisf*y you?.

モンゴル語の単純過去形-laa

(4) a. .. öö *bayarlalaa*, hatagtai Braun. (Rowling 1998)

b. — ah, *thank* you, Miss Brown —

(5) a.-Uagadogud bas neg iimerhüü yavdal bolsnyig *sanalaa*. (Rowling 1998)

b.“… I *remembe*r something very similar happening in Ouagadogou,”

(6) a. Adal yavdal ingeed *duuslaa*, hövgüüd ee. (Rowling 1998)

b.“The adventure *ends* here, boys!”

(7) a.Ta odoo ene delhiin hamgiin bayan hün *bolloo shüü dee*.

b.You *are* the richest man in the world now.

(8) a.-Uilburyig horin jil suuna hemeen *sonsloo*…(Chase 1959)

b.I *hear* Wilbur is going away for twenty years..

(9) a.“But it can’t hurt you if someone *throws* something at you,”

b.-Gehdee cham ruu yum *chuluudlaa* geed gemteej chadahgüi biz dee.

モンゴル語の単純過去形-jee/-chee

(10) a.Hüü chin` bür er hün *boljee*. (Bruce 1981)

b.Your boy *is* a quite a man now.

(11) a. -Jaahan *tomdjee dee*.. (Батбаяр 1984)

b. It’*s* a bit big for you.

(12) a.Yamar neg yum *alga bolj uu*? (Rowling 1998)

b.“*Is* there anything *missing*?”

(13) a.Ta Beejin hotod *ochjee* gej bod.

b.Could you guess that you *are* in Beijing city.

上記のような対応の違いが生じることに関しては以下の 5 つの点を挙げることができる。

1.モンゴル語の単純過去形の語用論的推論によるもの

上記の文(1a, b)～(3a, b)、(10a, b)～(12a, b)のように、モンゴル語においては単純過去形で表されるのに対し、英語においては単純現在形で表されている。西山 (2009:173-175)によると過去形の状態文においては 2 つの相反するタイプの推論が可能である。一つ目は、過去形で記述された状態が現在には当てはまらないという推論で、二つ目は、過去形で記述された状態が現在にも当ては

まるという推論である。二つ目の推論は過去にある状態が存在すれば、談話の文脈の中では他に相反する要素がなければ、その状態は持続し続けるという持続の推論に基づいている。二つ目の推論は、Grice (1975) が提出した「必要以上に多くの情報を提供しない」という量の格率 ii によって生ずる。聞き手は話者がこの格率を守っていると想定し、必要な情報のみを提供していると考える。つまり話し手が提供しなくても聞き手が推論する情報は提供する必要はないとして提供しない。これを話者の最小化の格率 (Maxim of minimization) という。聞き手は話し手が最小化の格率に従っているという前提で、必要最小限の情報を含む発話に対して、推論によってより詳細な情報を加えて解釈する。例えば、日本語の「今日は休みだった」では、聞き手は、現在について述べられていないが、特に変更がなければ、持続の推論により、過去の状態が現在にも持続し、「今日は休みである」と推論する。モンゴル語の過去時制の現在の状態にも言及する用法は、上記の二つ目の推論つまり過去形で記述された状態が現在にも当てはまるという推論に基づくものであると考えられる。

2.英語の現在時の瞬間的用法によるもの

上記の文(4a, b)～(7a, b)のように、モンゴル語においては単純過去形で表されるのに対し、英語においては単純現在形で表されている。英語における単純現在形の用法は出来事と発話行為が同時であるが、それは両者が同一のものであるという理由による(Leech 1971:10)。遂行的場面に用いられる動詞は、発言自体が一つの行為となっている、request、advise、predict 等のような発言行動を表す動詞が殆どである。この他に I resign のような儀式的行動を表す遂行的場面もある。遂行的場面において英語では、単純現在形が用いられる。これに対し、モンゴル語においては現時点および発話時と同時に起こる出来事を表す瞬間的用法において単純非過去形(-na)はあまり用いられない。

3.英語の現在時制の歴史的現在用法によるもの

上記の文(8a, b)のようにモンゴル語においては単純過去形で表されるのに対し、英語においては単純現在形で表されている。Leech (1971:15)は、「英語において現在時制は過去に言及して用いることができる。この用法は伝統的に歴史的現在という呼び名で知られている。歴史的現在は伝達の動詞とともに見出される。動詞 tell、 write、say は過去における伝言の起点に言及している。したがって過去あるいは完了時制が当然期待されるところである。しかし、動詞の意味は伝言の起点から終点に移されているように思われる。伝達はそれを受けた人にとってはまだ働いているので、それで現在時制が許されるのである」と述べている。安藤 (1996:77) は ask、say、tell、write 等のような動詞を「発言動詞」と呼び、learn、hear、see、find、read、be told、be informed などのような動詞を「受信動詞」と呼んで区別している。伝達はそれを受けた人の意識に作用し続けて

いるので、そのために英語において現在時制が許容されるのである。しかし、モンゴル語においてはそれは不可能であり、必ず過去時制が用いられる。

4. モンゴル語の単純過去形 -laa が仮定法に用いられる用法によるもの

上記の文(9a, b)のようにモンゴル語の単純過去形-laa が仮定法に用いられる用法がある。この場合は英語の単純現在形に対応する場合がある。

5. モンゴル語の単純過去形 -jee/-chee が動詞の補文に用いられる用法によるもの

上記の文(13a, b)のようにモンゴル語の単純過去形-jee/-chee が動詞の補文に用いられる用法がある。この場合は英語の単純現在形に対応する場合がある。

5.4.2.2. 英語の未来時を表す形式との対応

5.4.2.2.1. 英語の未来時を表す形式 (will/shall+verb infinitive)との対応

以下の文 (14a, b)～(21a, b) のようにモンゴル語の単純過去形 (-v、-laa、-jee/-chee) が英語の未来時を表す will/shall+verb (infinitive) 形式に対応する場合がある。

モンゴル語の単純過去形-v

以下の文 (14a, b)、(15a, b) のように、モンゴル語の動詞+動名詞語尾 -h、-dagと補助動詞bol+過去形-v+ 疑問助詞 uu との組み合わせ形式においては、話者には十分な自信がないという「仮定」の意味が表される。この形式が英語の未来時を表す will+verb infinitive 形式に対応する場合がある。

(14) a.*Taardag bolov uu*? (Батбаяр 1984)

b.*Will* they *fit* or not?

(15) a.-Edniih manai göröösiig ter tom tol`nyihoo ömnö *tavih bolov uu* ,yah bol. (Батбаяр 1984)

b.*Will* they *put* the deer in front of that big mirror or not?

モンゴル語の単純過去形-laa

以下の文 (16a, b)～(18a, b)のように、発話時直後に起こる出来事を話者が決意したという意味を含意するモンゴル語の過去形-laa、文(19a, b) のように不完全動詞bi-と共起して確認の意味を表すモンゴル語の過去形-laa、文(20a, b) のように未来時を表すモンゴル語の過去形-laaが、それぞれ英語の未来時を表す will/shall+verb infinitive 形式に対応する場合がある。

(16) a.Bi Jennig *avaad orloo*. Ta hoyor araas irne biz.. (Rowling 1998)

b.“I’*ll take* Ginny and you two come right after us,”

(17) a.Bi odoo *yavlaa*..

b.I'*ll go* now,"

(18) a.-Yostoi ih uuchlaarai, hövgüüdee. Ta hoyort ch gesen Oi sanamj ustgah shivshleg *heregleh bolloo*.

b."Awfully sorry, boys, but I'*ll have to put* a Memory Charm on you now. (Rowling 1998)

(19) a.Petunia chi *yah bilee*? (Rowling 1998)

b.Petunia, you *will be* — ?"

(20) a.Hövgüüd ee, *ingelee* geed yamar ashigtai yum be? (Rowling 1998)

b."Boys, what good *will* it *do*?"

モンゴル語の単純過去形-jee/-chee

以下の文(21a, b)のように、「きっとそうなる」と、話者が未来の出来事を想定して述べる意味を表すモンゴル語の過去接尾辞-jee/-chee が、英語の未来時を表す will +verb infinitive 形式に対応する場合がある。

(21) a.Chi ch ene temtseend *türüüljee*.(Лувсанвандан 1987:168)

b.It is clear that you *will win* in this competition.

5.4.2.2.2. 英語の未来時を表す形式 (be going to+verb infinitive)との対応

警告や注意の意味を表す単純過去形 -laa が英語の未来時を表す be going to+verb infinitive 形式に対応する場合がある。以下の文 (22a, b)、(23a, b) のように警告や注意の意味を表す過去形 -laa は英語の未来の意味を表す be going to+verb infinitive 形式に対応する場合がある。

(22) a.Хүүе яанаа! Naad mod chin` толгой дээрээс *уналаа* шүү. (Өнөрбаян 1998:205)

b.Hey watch out. The tree *is going to fall* on our head.

(23) a. Minii *hajuulah tsag bolloo*. (Chase 1959)

b.I'*m going to hit* the sack,.

5.4.2.2.3. 英語の未来時を表す現在進行形との対応

近未来の出来事の意味を表す単純過去形-laa が英語の未来時を表す現在進行形に対応する場合がある。

(24) a.-Bi tiishee *orloo*.

b."I'*m going down* there,"

(25) a.Bi zagasand *yavlaa*.

b.I'*m going out* to fish.

(26) a.-Eejee aav *mordloo shüü dee* süügee örgööch. (Батбаяр 1984)

b.Dad’*s riding off*, mommy! Do you milk offering!

(27) a.-Za, bi *ochloo*…

b.“All right, I’*m coming*,”

上記のようなずれが生じることに関しては以下の 2 つの点を挙げることができる。

1.モンゴル語の単純過去形 (-v、laa 、-jee/-chee) の未来の出来事を表す用法によるもの

2.モンゴル語の単純過去形 -laa が警告や注意の意味を表す用法によるもの

5.4.2.3. 英語のアスペクト形式との対応

5.4.2.3.1. 現在進行形との対応

以下の文 (28a, b)～(33a, b)のようにモンゴル語の単純過去形 (-v、-laa、-jee/-chee) が英語の現在進行形の疑問形に対応する場合がある。

モンゴル語の単純過去形-v

(28) a.Za chamd yu *tohioldov*?

b.What’*s bothering* you?

モンゴル語の単純過去形-laa

(29) a.Surguuliin hamag baitsaig *suitgej duuslaa*. (Rowling 1998)

b.“They’*re ruining* the school cabbages.

(30) a.Chamaas *zalhaj güitslee*. (Chase 1959)

b.You’*re boring* me..

(31) a.Har, bi ta nart tüüniig *avchirlaa*.

b.Look, I’*m bringing* him out to you.

モンゴル語の単純過去形-jee/-chee

(32) a.-Honi ih hol *hevtej dee*. (Батбаяр 1984)

b.The sheep *is lying* far away, ..

(33) a.-Hervee ilbeer nuusan bol mash sain *nuutsaljee*. (Rowling 1998)

b.“If it has, it’*s hiding* them very well,”

5.4.2.3.2.英語の現在完了形との対応

以下の文(34a, b)～(51a, b)のようにモンゴル語の単純過去形(-v、-laa、-jee/-chee) が英語の現在完了形に対応する場合がある。

モンゴル語の単純過去形-v

(34) a.Manai zuslangiin muu har baishin hayagdsanaasaa hoish heden jil ch *öngöröv döö*. (Bruce 1981)

b.Many years *have elapsed* since we abandoned our little summer country house, which grew dark with time.

(35) a.Gerees garalgüi hed hichneen ch *honochihov doo*. (Батбаяр 1984)

b.How many days *have passed* since I was out in the steppe?

(36) a.Honi *togtov uu*? (Батбаяр 1984)

b.*Have* the sheep *settled down* to pasture?

(37) a.Yu *hiichihevee*? (Батбаяр 1984)

b.What *have* I *done*?

モンゴル語の単純過去形-laa

(38) a. Hoyulaa chinii öngörsön, minii ireedüi hoyort hoyor udaa *uulzlaa*. (Rowling 1998)

b."Twice — in your past, in my future — we *have met*.

(39) a.Well, I'*ve said* my piece.

b.Za bi heleh ügee *hellee*. (Chase 1959)

(40) a.Bid ene oroin horin negen tsag arvan hoyor minutand tanyi orshin suugaa gazart Hiisgeh tarn` hereglesen gesen medeelel *avlaa*. (Rowling 1998)

b.We *have received* intelligence that a Hover Charm was used at your place of residence this evening at twelve minutes past nine.

(41) a.Chamaig garyin üsegtei zurag taraaj baina gej *sonsloo*. (Rowling 1998)

b.I'*ve heard* you've been giving out signed photos.

(42) a. Bi neg saihan duuldag hüühen *olloo*. (Chase 1959)

b.I'*ve found* a girl who can sing,.

(43) a.Galt tereg *hödölchihlöö*. *Yavchihlaa shüü dee*. (Rowling 1998)

b."It'*s gone*," ... "The train'*s left*.

(44) a.Chi namaig zartsaas mini *salgalaa*.. (Rowling 1998)

b."You'*ve lost* me my servant, boy!"

(45) a.Bi döngöj saya Markus Flint Malfoig zagnaj baihyig *harlaa*. (Rowling 1998)

b."I'*ve* just *seen* Marcus Flint yelling at Malfoy.

モンゴル語の単純過去形-jee/-chee

(46) a.-Zaluu min` mangas neg ohinyig *avaad yavj*. (Rowling 1998)

b.“The very man. A girl *has been snatched* by the monster, Lockhart

(47) a.Damba ch hünii hün *boljee*. (Батбаяр 1984)

b.Damba *has become* a stranger indeed.

(48) a.Hen negen *archij dee*... (Rowling 1998)

b.Someone’*s mopped* it *up*.”

(49) a.-Ta *butsaad irjee*. Iveen tetgegch nar tanyig halchihaad baihad Hogwardad ergeed irjee.. (Rowling 1998)

b.“You’*ve come back*. The governors suspended you, but you still saw fit to return to Hogwarts.”

(50) a.-Bi Hedvigiig *martchihjee*. (Rowling 1998)

b.“I’*ve forgotten* Hedwig!”

(51) a.-Hogwardyin tüüh nomyin büh huviig *avchihjee*. (Rowling 1998)

b.“*All* the copies of *Hogwarts, A History* *have been taken out*,”

5.4.2.3.3.英語の現在完了進行形との対応

以下の文 (52a, b)～(57a, b)のようにモンゴル語の単純過去形 (-v、-laa、-jee/-chee) が英語の現在完了進行形に対応する場合がある。

モンゴル語の単純過去形-v

(52) a. Mister Holidei tanyi setgel ih *hödlöv üü*? (Chase 1959)

b.*Have* you *been sweating* it out, Mr. Halliday?.

モンゴル語の単純過去形-laa

(53) a.Ajil yavdal n` bolsongüi yum baih daa hed honog *harlaa*, alga.

b.I’*ve been waiting* for her, probably work of some kind kept her away.

(54) a.Chamaig *oloh gej yadlaa*. (Chase 1959)

b.I’*ve been trying to get* you,.

(55) a.Chinii byatshan jüjgiig *üzlee*. (Chase 1959)

b.I’*ve been watching* your little performance.

モンゴル語の単純過去形-jee/-chee

(56) a.-hen negen etgeed yamar neg züil *haij dee*. (Rowling 1998)

b.“Someone’*s been looking for* something,”

(57) a.-Ta busdyin hiisniig ööröö hiisen bolgoj *<u>hulgailjee</u>*… (Rowling 1998)

b.“So you’*<u>ve</u>* just *<u>been taking</u>* credit for what a load of other people

5.4.2.4.　ムードおよびモダリティ形式との対応

以下の文 (58a, b)～(70a, b) のようにモンゴル語の単純過去形 (-v、-laa、-jee/-chee) が英語のムードおよびモダリティ形式に対応する場合がある。

5.4.2.4.1.モンゴル語の単純過去形-v

警告及び念押しの意味を表す単純過去形 -v

先行研究によると過去形-v は起こりうる出来事に対し警告し念押しする意味を表し、二人称のみで用いられるとされている。その中で特に Chuluu (1998:137) は、“…the-ba/-be form functions to indicate that, unless prevented, something may happen,i.e. the inductive prediction.This use of the suffix is only associated with the second person subject and it can not be used with the first and third persons.”と述べている。警告及び念押しの意味を表すモンゴル語の過去形-v は 以下のように英語の幾つかの形式に対応する。

don’t +verb infinitive

以下の文 (58a, b)～(60a, b) のように don`t +verb infinitive 形式に対応する。

(58) a.Sandraad bologüi baihad *<u>buuv aa</u>*.

b.“But *<u>don’t</u>* panic and *<u>get out</u>* too early; (Rowling 1998)

(59) a. Honio hünii hon`toi *<u>niilüülev</u>*.　(Батбаяр 1984)

b. And *<u>don’t</u>* you *<u>let</u>* your herd of sheep *<u>mix</u>* with others.

(60) a.Khorloo Dejid hoyoryig *<u>mörgöldüülchihev</u>*. (Батбаяр 1984)

b.*<u>Don’t bring</u>* Dejid and Khorloo *<u>together</u>*.

may be+verb infinitive

以下の文 (61a, b) のように英語の may be +verb infinitive 形式に対応する。

(61) a.Tegj baij chi *<u>alganyi amt üzev ee</u>*! (Батбаяр 1984)

b.*<u>Maybe</u>* you *<u>need a slap</u>*!

would+verb infinitive

以下の文 (62a, b) のように英語の would +verb infinitive 形式に対応する。

(62) a.Ron chi Harrig avchrahyin tuld yamar negen huul` bus yum hiigeegüi biz? Harrig tegj *<u>ballav aa</u>*!

b. ...and that you didn’t do anything illegal to get him out, Ron, because that *<u>would get</u>* Harry *<u>into</u>*

trouble, *too.* (Rowling 1998)

not +to verb infinitive

以下の文 (63a, b)～(65a, b) のようにモンゴル語の警告及び念押しの意味を表す過去形 **-v** が英語の不定詞の否定形 not +verb infinitive にも対応する場合がある。

(63) a. Harin chi l am muruih bolgondoo ur`d hoichyin yum *söhööd baiv daa*. Tegvel ch sainaa üzehgüi shüü.

b.And as for you, *try not to remind* him of the past whenever you are at odds with him, or else things won't come to any good. (Батбаяр 1984)

(64) a.Чи түрийвчтэй мөнгөө *хаяваа*.(Лувсанвандан 1987:166)

b.*Careful not to lose* your wallet with money.

(65) a.-Hen negnii *dunduur garav aa*, medeetei baigaarai... (Rowling 1998)

b."*Careful not to walk through* anyone,"

後悔の意味を表す過去形-v

話し手の後悔の意味を表す過去形 **-v** は次の形式に対応する。

must+verb (infinitive)

以下の文 (66a, b) のように英語の must+verb infinitive 形式に対応する。

(66) a.Bi chamd yah gej *helev ee*.

b.I *must not tell* you.

wish+never verb +Simple past tense(-ed/-d)

以下の文(67a, b)のように wish+never verb+ Simple past tense (-ed/-d) に対応する。

(67) a.Yah gej chamtai *holbogdov oo*, bi! (Chase 1959)

b.I *wish* I *never had* anything to do with you!

5.4.2.4.2.モンゴル語の単純過去形-laa

発話直後に起こる出来事の意味（話者の決意）を表す単純過去形-laa

must+verb infinitive、have+verb infinitive

以下の文 (68a, b)、(69a, b)のように発話直後に起こる出来事を表すモンゴル語の過去形 -laa が英語の must+verb infinitive、have to+verb infinitive 形式に対応する場合がある。

(68) a.-Bi nair luu *ergej orloo*, Minerva. (Rowling 1998)

b."I *must go back* to the feast, Minerva,.."

(69) a.Harin odoo bi tüüniig *avaad yavlaa*. Ene minii ajil bish ch gesen.. (Rowling 1998)

b.But I'*ve got to take* him. Got to. Wouldn't be doing my duty —"

5.4.2.4.3.モンゴル語の単純過去形 -jee/-chee

後悔の意味を表すモンゴル語の単純過去形 -jee /-chee

should+have let verb(infinitive)

以下の文 (70a, b)のように話者の出来事に対する後悔の意味を表すモンゴル語の過去形-jee/-chee が英語の should+have past participle 形式に対応する場合がある。

(70) a. -Professor Sneipeer ene argyig *demii l* *zaalgaj dee*...

b."*Shouldn't have let* Professor Snape *teach* us that one," （Rowling 1998)

上記のずれが生じる点に関しては以下の3つを挙げることができる。

1. 単純過去形-v が表す警告及び念押しの意味、後悔の意味によるもの
2. 単純過去形-laa が表す近未来に起こる出来事の意味（話者の決意）、警告や注意の意味によるもの
3. 単純過去形-jee/-chee が表す後悔の意味によるもの

5.4.2.5.　付加疑問語句との対応

以下の文(71a, b)～(73a, b)のようにモンゴル語の付加疑問語句として用いられる動詞+med, har + 過去形-v の疑問形-v uu は英語の付可疑問語句に対応する。

(71) a.-Namaig end yamarhuu yanztai am`dardagiig *harav uu*? (Rowling 1998)

b."*See* what it's like here?"

(72) a.Bi ch gesen dürem juramaas zörmöörgüi baina, *medev üü*? (Rowling 1998)

b."I don't want to break rules, *you know*.

(73) a. Odoo untaya. *Harav uu*, neg tsag boloh gej baina…(Chase 1959)

b.Let's go to bed. *Look* at the time: it's pushing one o`clock..

5.4.2.6.　英語の不定詞との対応

以下の文(74a, b)のように、モンゴル語の過去形-laa が英語の現在分詞に対応する場合がある。

(74) a.-Hagridyig *holduullaa* geed yamar ch nemergüi gej heleed baina shüü dee, Pyuj. (Rowling 1998)

b."Yet again, Cornelius, I tell you that *taking* Hagrid *away* will not help in the slightest,"

5.4.2.7.　動詞を持たない文及び節との対応

以下の文 (75a, b)～(77a, b) のようにモンゴル語の単純過去形 (-v、-laa、-jee/-chee) が、英語の動詞を持たない文および節に対応する場合がある。

(75) a.-Mollid <u>*helev ee*</u>... (Rowling 1998)

b.“<u>*Not a word*</u> to Molly,”

(76) a.-Za <u>*medlee*</u>. (Chase 1959)

b.Well, <u>*all right*</u>,.

(77) a.Bid hoyor uulzalgüi <u>*udjee*</u>. (Chase 1959)

b.<u>*Long time*</u> no see..

物語の〈はなしあい〉の文におけるモンゴル語の単純過去形 (-v、-laa、-jee/-chee) と英語の形式との対応及び統計結果を表にまとめると以下の通りである。

表 15. 物語のはなしあいの文におけるモンゴル語の単純過去形(-v、-laa、-jee)と英語の形式との対応及び統計結果

形式および表現タイプ	対応する英語の形式および表現	単純過去形 -v	単純過去形 -laa	単純過去形 -jee/-chee
時制形式	単純現在形	76	102	34
未来時を表す形式	will/shall+verb infinitive	3	9	1
	be going to+verb infinitive		3	
	現在進行形		8	
アスペクト形式	現在進行形	1	8	2
	現在完了形	11	46	22
	現在完了進行形	1	6	2
ムードおよびモダリティ形式	don’t +verb infinitive	4		
	may be+verb infinitive	1		
	would+verb infinitive	1		
	not +to verb infinitive	3		
	must+verb infinitive	1	5	
	wish+never verb + simple past tense	1		
	have+verb infinitive		2	
	should+have let verb infinitive			1

付加疑問語句		3		
不定詞	現在分詞		1	
動詞を持たない文や節		3	21	3
総計		**109**	**201**	**65**

5.4.3.まとめ

分析の結果、物語のは〈なしあい〉の文におけるモンゴル語の単純過去形 (-v, -laa, -jee) は英語のテンス形式、未来時を表す形式、アスペクト形式、ムードおよびモダリティ形式、付加疑問語句、不定詞、動詞を持たない文及び節の計 7 種類 17 形式に対応することが明らかとなった。さらに詳しく見ると、物語の〈はなしあい〉の文におけるモンゴル語の単純過去形-v に対応する英語の形式および表現の中では単純現在形が 76 例であり第 1 位、現在完了形及びムードおよびモダリティ形式がそれぞれ 11 例であり第 2 位、単純過去形-laa に対応する英語の形式及び表現の中では、単純現在形が 102 例であり第 1 位、現在完了形が 46 例であり第 2 位、単純過去形-jee/-chee に対応する英語の形式及び表現の中では単純現在形が 34 例であり第 1 位、現在完了形が 22 例であり第 2 位という具合であり、モンゴル語の単純過去形(-v、-laa、-jee/-chee) 3 つとも過去形のみならず、英語の単純現在形及び現在完了形にも対応しやすいことが明らかになった。また、モンゴル語の単純過去形(-v、-laa、-jee/-chee)　とそれに対応する英語の形式および表現における対応のずれに関わる主な要因として以下の 6 つを挙げることができる。

1.モンゴル語の過去時制形式の語用論的推論によるもの

2.英語の現在時の瞬間的用法によるもの

3.英語の現在時制の歴史的現在用法によるもの　/a.受信動詞、b.発言動詞/

4.モンゴル語の単純過去形 (-v、-laa、 -jee/-chee)のムードおよびモーダル的意味を表す用法によるもの　/a. 単純過去形-v が表す警告及び念押しの意味、後悔の意味によるもの、b.単純過去形-laa が表す発話直後に起こる出来事の意味（話者の決意）、警告や注意の意味によるもの、c.単純過去形-jee/-chee が表す後悔の意味、仮定の意味によるもの/

5. モンゴル語の単純過去形 (-v、-laa、-jee/-chee)の未来の出来事を表す用法によるもの

6.モンゴル語の単純過去形 (-laa)が用いられる仮定法の用法によるもの

最後に、本章の全体的まとめとして、物語の〈はなしあい〉の文においての両言語における単純過去形の対応関係におけるずれは 1.話者の視点、2.語用論的推論、3.文法的アスペクトと語彙アスペクトとの共起性、4.従属関係 (hypotaxis) 及び並列関係 (parataxis)、5.周辺的用法の 5 つによるものであることが明らかになった。

第六章

英語の単純現在形(-φ/-s)及びモンゴル語の単純非過去形(-na)に関する考察 /意味・用法を中心に/

6.1.はじめに

本章では、現在時及び未来時を表す形式として用いられている英語の単純現在形及びモンゴル語の単純非過去形の意味・用法を比較対照する。Dryer (2005:110-113)によると英語及びモンゴル語は両方とも屈折形態として主に接尾辞を用いる言語である。英語においては単純現在形は人称との一致により基本形式 (base form) 及び接尾辞-s（I *know*/He *knows*など）により示され、モンゴル語においては単純非過去形は人称による形式上の一致がなく接尾辞-na（Bi *medne/*Ter *medne*.）により示される [1]。

[1]先行研究の中では、Binnick (1978)、Baek (1986:70)、Бадан (1989)、Swanteson (1991)、Song (1997)、Chuluu (1998)などが、モンゴル語に時制区分があるかに関して、過去時制と非過去時制の 2 つの時制区分があり、過去と非過去の対立をなすと指摘している。本論文では、上記の 6 人の学者の指摘に従い、モンゴル語の非過去時制 (-na) は以下の文 (1)、 (2) のように現在時だけではなく、英語の現在時制とは異なり、未来時に用いられる場合制限なく全ての場合（進行、習慣、完了）において未来の出来事を表すので、現在時制・未来時制を合わせて非過去時制と呼び、過去と非過去の対立をなすという立場を取る。

(1) Aav gertee bai-na.
father home-at is
“Father is at home”

(2) Aav margaash gertee bai-na.
father tomorrow home-at is
“Father will be at home tomorrow”

6.2.英語の単純現在形(φ/-s)及びモンゴル語の単純非過去形(-na)の意味・用法についての先行研究

ここでは、英語の単純現在形及びモンゴル語の単純非過去形それぞれの意味・用法についての先行研究を概説し述べることにする。

6.2.1.英語の単純現在形(φ/-s)の意味・用法の先行研究

単純現在形に関する英語の先行研究はモンゴル語に比べると数多く存在し、研究者達により以下のような意味・用法が設定されている。

Millington-Ward (1953:7-9) : 1. Repeated actions, 2. Facts that are always true, and facts that are true at the moment of speaking, 3. Express customs, habits, ability, 4. To replace the future tense after if (unless, in case) in conditions of Future probability and in statements of cause and effect, 5.to replace the future tense after when, whenever, until till, as soon as, as, directly, immediately, before, while, after, as long as etc., in subordinate adverbial clauses of time, 6. To express a future action in a categoric manner, 7.Historical present

Leech (1971) : 1.非制限用法、2.瞬間的用法、3.習慣的用法、4.過去及び未来に言及する用法、5.想像的用法 [2]

Leech (2004:6-13, 16-17) : 1.State use, 2. Event use, 3. Habitual use, 4. Referring to past and future, 5.Imaginary uses

Quirk et.al. (1985:179) : 1. State present, 2 Habitual present, 3. Instantaneous present, 4. Referring to the past, 5. Referring to the future, 6. In fictional narrative.

Declerck (1991:2-3) : 1.the reference is to relatively short interval which includes the moment of speaking, 2. refers to an interval which is indefinitely long and encompasses not only the present but also the past and future, 3.refers to habitual activity consisting of a repeated number of occurrences ; the habit includes the moment of speech and extends into the past and possibly also into the future

[2] 訳語は Kunihiro(1976:7-17, 23-25)による。

; it is not necessary that any of the occurrences should coincide with the moment of speech itself, 4. The reference is to a future event, 5. Refers to an event that took place in the past and is still relevant at the present moment; it is thus roughly equivalent to have heard, 6. Historical present which refers to events that took place in the past.

Huddleston and Pullum (2002:127-136) : 1.Present time reference, 2. The timeless use of the present tense, 3. Extension of the present tense into past time territory, 4.Future time reference in main clauses, the present futurate, 5.Deictic future time in subordinate clauses, 6. Future interpretation of a non-deictic present tense

上掲の先行研究により指摘されている英語の単純現在形の意味・用法をまとめると、1.状態的用法、2.習慣的用法、3.瞬間的用法、4.過去に言及する用法、5.未来に言及する用法、6.虚構的用法の 6 つに大きく分けることができる。

6.2.2.モンゴル語の単純非過去形(-na)の意味・用法の先行研究

先行研究によるとモンゴル語の単純非過去形(-na)の意味・用法としては次の幾つかが挙げられている。

Poppe (1951:79) : 1. Allgemein oder gelegentlich geltendes Prädikat ohne jegliche nähere Zeit-oder Artbestimmung /*Chamaas baga* chamaig orgono./, 2. Gegenwart ohne die Hervorhebung, *dab* die Handlung gerade im Augenblick des Sprechens stattfindet/ *Bi medne*. *Tend baina gene*./, 3.eine sich wiederholende Handlung-iterative Action /*Chono sain nohoid barigdana*. /, 4.Futurum /*Chi irne uu*?/

Тодаева (1951:105-106) : 1.действие совершающееся в момент речи/ Би орос болж төрсөндөө бахархана./, 2. действие которое совершится после момента речи, 3.действия обычние для данного предмета, присущие им, причем без указания на совершение действия именно в момент речи. /Уулыг өндөр гэж бүү ай, явбал давна./

小沢(1963:43) : 1. 現在の一点において、ある動作が確実に遂行されること、2. 現在における、或る事物の存在及び状態

Бертагаев (1964:97-100) : 1. Настоящее прошедшее/ Жаргал салхин зээрдээ онц хэрэг явдал, найр наадамд унана./, 2. Настоящее предостерегательное /Бүжин багш хоёр минь яана даа./, 3.

Настоящее бытийное, или вневременное, / Зэс бол элсэн чулуунд байна./, 4.Настоящее наставительно / Зарим үед хүмүүжүүлэгч тоглоомын гол ролийг авна. Тухайлбал, Загасны тор гэдэг тоглоомын загасчинд өөрөө тоглох зэрэг болно.Ихэнхдээ хүүхдүүдийг бие дааж тоглуулан сургана./, 5.Историческое настоящее /Богд уулыг жилд хоёр удаа тайдаг байлаа.Хавар тайхад манж амбан, намар тайхад монгол амбан тус тус очно.Монгол амбан тайлга хийгээд, Чулуутын аманд хоёр сар шахам болно./, 6. будущего времени

Bosson (1964) : 1.Present, 2. Future

Hangin (1968:23) : 1.Present, 2.Future

Poppe (1970:130) : 1.timeless action may take place in the future or at any indefinite time

Sanzheev (1973:92) : 1.Present, 2.Future

Binnick (1979:57) : 1.Timeless action, 2.Present, 3.Future

小沢 (1987:16-17) : 1. 現在、 2.超時制の動作、3.未来の動作

Лувсанвандан (1987:160-161) : 1.Тодорхой одоо цаг, 2.Ерөнхий одоо цаг

Лхагваа, Хашимото (1989:74) : 1.Хэлэх үетэй тохирох ерөнхий одоо цаг/ Бат тэр явна.Ном энд байна. Болд ном уншиж сууна./, 2. Ерөнхий одоо цаг /Бод малыг уналга тээвэрт хэрэглэнэ. Гүүний сүүгээр айраг хиинэ. Дэлхий нарыг тойрно./

Song (1997:151-160) : 1.Present, 2.Future, 3.Timeless situations, 4.Habitual, 5.Progressive

Chuluu (1998:129-134) : 1.Non-past meaning (referring to the present or future event), 2.Non specific time, 3. A gnomic situation, 4. Habitual meaning

Өнөрбаян (1998:204-205) : 1.Одоо цаг, 2.Бодит тодорхой одоо цаг, 3. Ерөнхий хийсвэр одоо цаг, 4. Ирээдүй цаг

Sanders and Bat-Ireedüi (1999:34-35) : 1.Present, 2. Future

Tserenpil and Kullmann (2008:188,190-191) : 1.Present, 2. Actions that remain the same or lasting truths, 3.Future, 4.in literature

上掲の先行研究により指摘されているモンゴル語の単純非過去形(-na)の意味・用法をまとめると 1.現在時に言及する、2.未来時に言及する、3.無時間的用法、4.習慣的用法、5.進行的用法、6.歴史的現在用法の 6 つに大きく分けることができる。

先行研究による英語の単純現在形及びモンゴル語の単純非過去形の意味・用法を表にまとめると、以下表 1 のようになる。

表 1

英語の単純現在時制(-φ /-s)	モンゴル語の非過去時制(-na)
a.状態的用法	a.無時間的用法
b.習慣的用法	b.習慣的用法
c.未来に言及する用法	c.未来に言及する用法
d.虚構的用法	d.歴史的現在用法
e.瞬間的用法	e.現在に言及する用法
f.過去に言及する用法	f.進行的用法

上記の表 1 を見ると、英語の単純現在形(φ/-s)及びモンゴル語の単純非過去形(-na)が表す意味・用法において共通点も相違点も存在することが分かる。しかし、その共通点の背景にも相違点があるということが推測できる。

6.3.英語の単純現在形 (φ/-s) 及びモンゴル語の単純非過去形 (-na) の意味・用法

ここでは、両言語の先行研究を踏まえ、英語の単純現在形(φ/-s)及びモンゴル語の単純非過去形(-na)の意味・用法を次のように区別し、順番に記述することにする。

1. 現在状態的用法
2. 現在瞬間的用法
3. 現在習慣および反復的用法
4. 指図を与える用法
5. 未来時に言及する用法
6. 過去時に言及する用法

7.　モンゴル語の単純非過去形(-na)の進行的用法

6.3.1.　現在状態的用法

Leech (1971)は「現在時制の全ての用法には現時点（発話の時点）との基本的なつながりがある。このつながりは次のように表現することができる：その状態あるいは出来事は現在時点において‘心理的に’存在している”。この意味要素は状態あるいは出来事が現在以外の時に‘現実に’存在する可能性を除外するものではない。特別な状況における現在時制は現在時を除いた過去及び未来に言及することができる：歴史的現在では過去の出来事を‘あたかも’今起こっているかのように表現する；未来現在では‘すでに予定された’ものとみなされる未来の出来事に言及する」と述べ、さらに「単純現在の非制限 (unrestrictive) 用法は状態を表現する動詞に見出される。この用法は状態が過去および未来に向かって伸びてゆく範囲に何の制限も加えない。この中には永遠の真理、地理的記述などのような諸用法も含まれている」と述べている [3]。

Chaolu (1996:59-61)は「モンゴル語の非過去時制接尾辞を付加する動詞は意味論的に状態動詞および動作動詞の 2 グループに分かれ、現在時に言及できる動詞はすべて状態動詞であり、この場合、知っていたり、話したりする状態は発話時におけるのみでなく、また過去時にも存在し、恐らく未来時にも継続することから非過去時制は現在時より無時間的な事実に言及する」と述べている。 しかし、両言語におけるこの現在状態的用法においては以下の文(1a, b)のように状態動詞のみでなく動作動詞も現れる。

Quirk et.al. (1985:179)によるとこの現在状態的用法に文(1)、(2)のように 1.永遠の真理 (eternal truths)（諺、科学及び数学に関する文）を表す文、文(3)、(4)のように 2. 無時間的現在 (timeless present)（地理学に関する文）を表す文、文(5)、(6)のように 3.我々の一般的な知識、状態の時間スパンが多かれ少なかれ制限されることを教えてくれるという意味を含意する文の 3 つの種類がある。

6.3.1.1. 永遠の真理

(1) a.The earth ***moves*** round the sun.(Quirk et.al.1985:179)

b.Delhii naryig toiron *ergene*/*ergedeg.*

(2) a.Even though water is liquid, it gets hard by freezing to ice.

b.Us shingen bolovch mös bolon *hatuurna*/*hatuurdag.* (Өнөрбаян 1998:205)

[3]訳は Kunihiro(1976:6-7)による。

6.3.1.2.無時間的現在

(3) a. Peru ***shares*** a border with Chile. (Quirk et.al.1985:179)

b.Peru uls Chiltei hil *zalgadag*/**zalgana.*

(4) a.The Nile is the longest river in Africa. (Quirk et.al.1985:179)

b.Nil bol Afrikiin hamgiin urt *gol*/*gol yum*.

6.3.1.3.時間スパンの制限がある状態

(5) a.She ***knows*** several languages. (Quirk et.al.1985:179)

b.Ter hed heden hel *medne*/*meddeg*.

(6) a.We *live* near Toronto. (Quirk et.al.1985:179)

b.Bid Torontogiin oiroltsoo *amidardag* /**amidarna*

上記英語のモンゴル語訳(1b)～(6b)を見ると対応する形式は単純非過去形(-na)のみではないことが明らかであり、この用法において相違点があることが分かる。

第 1 に、文(4a, b) のように S+N、S+A という文構造が現れており、その場合英語においては主語と述語（名詞、形容詞の場合）を繋ぐ連結詞として用いられる補助動詞 be は不可欠であるのに対し、モンゴル語においてはそうではない。英語の補助動詞 be に対応するのは連結詞として用いられる不変化詞 (particle) bol、ni 、及び補助動詞 bai-であり、補助動詞 bai-は現在時を表す際頻繁に省略される。従って、S+N、S+A 文構造の場合、動詞を持っていないのでモンゴル語の単純非過去形-na は当然現れない。

第 2 に、上記の文(1b)、(2b)、(3b)、(5b)、(6b)のようにモンゴル語において単純非過去形-na 以外に現在の習慣の意味を表す動名詞語尾-dag にも対応することが可能である。

Tserenpil and Kullmann (2008:188)によると動名詞語尾-dag は「住む」(to live)のような不確定の期間継続する出来事を表す。もしくはその出来事は習慣的である。

橋本 (1995:41, 65-66)は「〈-dag〉の意味は、“繰り返される行為／事態、状態、特性／習性、名付け、総称”の 5 つに分類することができる。現在形接尾辞-na にも-dag に対応する意味がある」と述べ、以下の例を挙げている。

a.Hadalj avsan mösiyg tsoxivol *butarna.*

b.if you smash some ice broken up , it will break into pieces. (橋本 1995:65)

a.Malchid övöl, havar, zun, namriyn ulirald maliynhaa us belcheeriyg toxiruulan, hashaa horoo barij, övs tejeeliyg ni *beltgene*.

b.Shepherds, in the four seasons of winter, spring, summer, and autumn, adjust water and pasture to good condition, secure enclosures and prepare hay and feed for their cattle.(橋本 1995:65-66)

前者は水の性質を述べた文であり、後者は 1 年をサイクルとした遊牧民達の生活風景の描写で、定期的に繰り返される行為を表す。

Лувсанвандан (1987:161-162)は「現代モンゴル語の時制終止語尾-на により表される現在時を一定の現在時および一般的な現在時に分ける。動詞の語幹に時制終止語尾-на を付け、発話時と同時に当該の出来事が起こっていることを表すのが一定の現在時である。例えば、“Энэ ууланд морь явна.” (A horse is walking on this mountain.)。動詞の語幹に時制終止語尾-на を付加し発話時のみではなく発話時から離れた広い範囲を含んでいる一般的な現在時を表すことができる。一般的現在時制の表す意味は動名詞語尾-dag および補助動詞との組み合わせ形式の意味と対応する。例えば、“Ус хар болович цас болон цайрна/цайрдаг байна.”/ (Water is black, but turns white when it becomes snow.)」と述べている。

Өнөрбаян (1998:204-205) も同様に「現在時制終止語尾-на は発話時と同時に起こっている一定の客観的な現在時および発話時と合わない一般的・主観的な現在時をそれぞれ表す」と述べ、「一般的現在時-na を現在動名詞語尾-dag で交替させて、用いることができる」と述べている。

上記の先行研究によると、モンゴル語においては一般的(generic)、格言的 (gnomic) 、現在の習慣的出来事を表すのに、現在の状態を表す単純非過去形-na および現在習慣を表す動名詞語尾-dag の 2 つの形式が用いられており、表す意味がある程度重なっていることが明らかである。つまり、現在状態的用法において、どちらを使っても過去および未来に向かって伸びてゆく時間的な限定がない状態が表現されており、両者は意味において同じである。ただし、Tserenpil and Kullmann (2008:190)が現在時制-na は叙情的響き(lyrical sound)があることにより口語においてあまり用いられないと述べ、Лувсанвандан (1987:162)でも「現実の状態を聞き手、読み手に伝える一番適切な時制形式は一般的現在時制終止語尾-na であり、記事および科学的文献において幅広く用いられる」と述べられているように、現在習慣を表す動名詞語尾-dag の方が口語においてより頻繁に用いられている傾向があると言える。

第 3 に、上記の文(3b)、(6b)それぞれにおいて現在の習慣を表す動名詞語尾-dag のみが現在時における状態に言及することが可能であり、単純非過去形-na は言及できない場合もある。モンゴル語の非過去時制-na は狭い文脈において用いられる時、変化状態を表す動詞つまり運動動詞（bol-, ehle-, ir-, gar-など）の場合は未来時を表し、状態、恒久的な意味を表す動詞（bai-, orsh-, med-, chad-など）の場合は現在時を表す (Бадан 1989:39)。従って、上記の文(3b)、(6b)においては用いられたり、用いられなかったりすると考えられる。

永遠の真理状態の意味を表す文の一種である諺に関する文 (2b) においては、諺が普通の日常的な会話文ではなく、ある一定の特殊な表現である理由から、現在習慣を表す動名詞語尾-dag を用いても意味的には変わりがなく、その使用も可能ではあるが、-dag を使用すると特殊な表現とい

う感じが弱まり、普通の日常会話文のように聞こえるために、むしろこの場合は単純非過去形(-na)のほうが適切である。

　また Бадан (1989:42)は、疑問文において一定の現在時を表す非過去時制-na が現れる時、疑問助詞 uu、ve と共起すると述べている。この場合は、疑問助詞 uu と受身形で形成された har (see)、üz (see)、 bod (think)、sana (remember)、meder (feel)、 sons (hear)等のような受動的感覚の動詞と共起し、以下の文(7a)のように発話時に起こる出来事の一般的な疑問文に用いられ、英語の単純現在形に対応する。

(7) a.Chamd nögöö hün <u>*haragdana uu*</u>?

　　b.<u>*Can*</u> you <u>*see*</u> the man?

　上述のように両言語の現在状態的用法において英語の単純現在形に対応するモンゴル語の 2 つの形式（単純非過去形(-na)および現在習慣の意味を表す動名詞語尾-dag）があり、この 2 つの形式は一定の特殊な表現（諺、早口言葉）、或いは狭い文脈つまり単純非過去形-na を付けると現在の状態に言及せず未来時に言及する動詞の場合を除くと自由に交替させて用いることが可能である。英語の単純現在形及びモンゴル語の単純非過去形-na は両方とも発話時を含めて過去および未来に向かってゆく状態に言及する用法を持っているが、上に述べられているように英語の単純現在形よりモンゴル語の単純非過去形(-na)の方が制限が強いと言える。

6.3.2.　現在瞬間的用法

　Leech (1971)は「単純現在の瞬間的用法は、状態ではなく出来事を表す動詞と共に生じる点で非制限用法と対立している。この用法は現時点と同時の出来事を意味し、通常ある容易に定義できる脈絡においてのみ生じる。多くの場合、出来事は恐らくそれが言葉で表現されるのと‘厳密に’同じ瞬間に起こることはない。この用法で伝えられるものは客観的というよりむしろ主観的な同時性である」と述べている [4]。

　Quirk et.al. (1985:180)によれば、瞬間的現在は動作がおおよそ発話時において始まるかあるいは単一の出来事に言及し、その出来事には短時間における継続性がある場合とそうでない場合があるために、限られた場面においてのみ用いられる。それらの場面として、1.実況解説 (commentaries)、2.実演解説および他の自己実況解説 (demonstrations and other self-commentaries)、3.特殊な詠嘆文(special exclamatory sentences)、4.遂行文 (performatives)の 4 種類がある。

[4]訳は Kunihiro (1976:8-9) に従う。

6.3.2.1.実況解説用法

Williams (2002:1236) によると現在非進行形には瞬間的場面の 1.実況解説場面 (commentarial situations)、2.実演解説場面 (demonstration situations)の 2 タイプがある。実況解説場面(commnetaries where the action — over which the speaker has no control and in which the speaker is not personally involved at the moment of speech — unfolds before the commentator`s eyes) は a.スポーツの実況解説（ラジオ、テレビで放送されているスポーツイベントなど）、b.儀式の実況解説（国王の結婚式、公式の葬式、他の儀式的行事など）、c.語りの実況解説（話者が自分自身に見えているものを伝える/双眼鏡を用いている場合もある、等）の 3 つに分けられる。

a.スポーツの実況解説

Williams (2002:1239)によると出来事は起こる瞬間において全体的に表され、発話時とほぼ同時に始まって終わる。

(8) a.Napier *passes* the ball to Attwater, who heads it straignt into the goal! (Leech 1976:8)

b.Napier bömbögiig Attwatert *damjuullaa* Attwater gool ruu *shidlee*.

b.儀式の実況解説

Williams (2002:1238)は現在非進行形は幾つかの段階から成り立つ出来事の時間的連続を設定する手段としてしばしば用いられる。非進行形では活動が前方へ突き進む(pushing the action forward)傾向があると述べ、以下の例を挙げている。

(9) a.The Pope *waves* to the crowd from the balcony, *turns* round and *re-enters* the room. (Williams 2002: 1238)

b.Romyin Pap tagtan deerees tsuglasan olon luu garaaraa *dallaad* *ergen* *orloo*.

c.語りの実況解説

(10) a.She *powders* her nose, then she *takes* a long look at herself in the mirror.She *puts on* her lipstick,then she *takes* another long look at herself in the mirror. She *puts on* her fur coat. (Williams 2002:1249)

b.Ter hamraa *budlaa*/*budaj baina*. Odoo tolind ööriigöö *harlaa*/*harj* *baina*.Uruulaa *budlaa/budaj baina*. Odoo tolind *harlaa*/*harj baina*. Ter nehii deelee *ömslöö*/*ömsöj baina*.

6.3.2.2.実演解説及び自己実況解説用法

Williams (2002:1237)によると、その出来事の正確な順序をすでに知っている発話者により一般的に長続きしない動作が表される場面である。一般的には、表されている出来事を行うのが実は話者であるが、いつもそうとは限らない。例えば、話者はだれか実行する助手を有することができる。このような場面の例には手品師のおしゃべり、調理法の実演解説、コンピュータの操作説明などがある。

(11) a.Now, I *put* the cake-mixture into this bowl and *add* a drop of vanilla essence.(Leech1971、Kunihiro

訳 1976:8-9)

b.Za, byaluunyihaa zuurmagiig ene tavgand *hiigeed* deerees ni neg dusal vaniliin shüüs *nemne*.

Williams (2002:1237)によると、スポーツの実況解説の場合は儀式実況解説および実演解説と異なり、表される出来事は通例発話時の前に終結するのに対し、後者の 2 つ、特に実演解説の場合は表される連続的な出来事を演じるのは話者であり、その連続的な出来事は発話時の後に伸びてゆくことが可能である。さらに儀式的実況解説および実演解説はともに予知によるのに対し、スポーツ実況解説は必ずしも予測できない性質がある。実演解説においては一定の場面はそれらが宣言された直後に行われることが可能である。

6.3.2.3.特殊な詠嘆文

Leech (1971)によると現在時制の瞬間的用法は以下の文(12a)のような感嘆文にも起こる。この用法は一般に進行形現在時制に対する「有標の」、つまり普通でない変則的用法である。というのは動作が話しているまさにその瞬間に始まり完了すると考えてもおかしくないような状況は殆どないからである。

(12) a.Here *comes* my bus! (Leech 2004:7)

b.Avtobus maan` *irlee*.

6.3.2.4.芝居的用法

Leech (1971)によると出来事の全体が、報告されると同時に完了することを強調しているので、何か芝居がかっている [5]。

(13) a.I *open* the cage. (Leech 2004:7)

b.Bi shuvuunyi toryig *ongoilgoj baina*.

6.3.2.5.遂行文

Leech (1971)は「この場合は出来事と発話行為が同時であるが、それは両者が同一のものであるという理由による [6]」と述べている。遂行的場面に用いられる動詞はものを言うこと自体が一つの行為となっている動詞である requist、advise、predict 等のような発言行動を表す動詞が殆どである。この他に I resign のような儀式的行動を表す遂行的場面もある。

(14) a.We *accept* your offer. (Leech 1971、Kunihiro 訳 1976:10)

b.Chinii sanalyig *hüleej avlaa*/*hüleej avya.*

(15) a.I *congratulate* you. (Hirtle 1995:267)

---

[5] 訳は Kunihiro (1976:9)に従う。

[6]訳は Kunihiro(1976:10)による

b.Chamd bayar *hürgeye*.

英語と異なりモンゴル語ではこの現時点および発話時と同時に起こる出来事を表す瞬間的用法において単純非過去形(-na)はあまり用いられない。上記の**実演解説および自己実況解説用法**の文(10b)においてのみ単純非過去形(-na)が用いられ、他の 4 種類の場面においてはモンゴル語の単純過去形-laa、現在進行形、願望語尾-ya などが用いられる。Chaolu (1996:59-61)によると、モンゴル語の非過去時制接尾辞-na は動作動詞に付けると未来時に言及するため、発話時において出来事をひとまとまりの全体として表すことができないと考えられる。従って、発話直後にも伸びてゆくことがより普通である出来事として把握されている**実演解説および自己実況解説用法**においてのみ用いられる。

6.3.3. 現在習慣および反復的用法

英語の単純現在形(φ/-s)及びモンゴル語の単純非過去形(-na)は両方とも現在習慣および反復的用法を持っている。

Leech (1971)は「単純現在の習慣的あるいは繰り返し的用法は「出来事動詞」に限られている瞬間的用法に似ている。事実、瞬間的現在とそれとの関係は、単数名詞と複数名詞の関係に似ている。習慣的現在は個々の‘出来事’の連続を表し、それは全体として‘状態’をなし、過去と未来に伸びている。従ってこれは瞬間的用法と非制限用法の両面を結び合わせていることになる」と述べている[7]。

Song (1997:155-156)は接尾辞-na は現在の場面に言及する時習慣および進行のような不完結相の意味を表すと述べている。

Leech (1971)は「「出来事」動詞の解釈の仕方としては、習慣的現在の方が瞬間的現在よりも普通であり、瞬間的現在は少数の限られた脈絡以外では殆ど見られない。習慣的現在と瞬間的現在の間に曖昧な文というのは殆どない。以下の文(16)、(17)のように複数形の目的語が習慣的意味を取り出すのを助けてくれたり、文(18)のように頻度の副詞表現が繰り返しの概念を強化する[8]」と述べている。

(16) He *scores a goal*.（瞬間的用法）

(17) He *scores goals*.（習慣的用法）

(18) I *generally /often/sometimes buy* shirts at Harrolds. (Leech 1971、Kunihiro 訳 1976:13)

[7]訳は Kunihiro(1976:12-13)による
[8]訳は Kunihiro (1976:13) による

モンゴル語の単純非過去形(-na)は動作動詞と共起する場合には未来時の出来事を表すことが基本的であるため、現在の習慣・反復の意味を表しているか未来における習慣・反復の意味を表しているかは曖昧になる場合があり、その際共起している反復を表す副詞のみならず文脈をも考慮しなければならない。例えば、以下の文(19)、(20)、(21)では反復を表す副詞が用いられているが、未来における反復を表しているか現在の反復を表しているか曖昧である。

(19) a.We go to Brusells every year. (Quirk et.al. 1985:179)

b.Bid Brusel ruu jil bür <u>*yavna*</u>/<u>*yavdag*</u>.

(20) A:What <u>*do*</u> you <u>*do*</u> on Sundays.

Ta hagas sain ödör yu <u>*hiideg ve*</u>?

B:I <u>*clean*</u> my room, <u>*watch*</u> TV, and <u>*wash*</u> my clothes.

Geree <u>*tseverlene/tsevreledeg*</u>. TV <u>*üzne/üzdeg*</u>. Huvtssaa <u>*ugaana/*</u> <u>*ugaadag*</u>.

(21) a.Ter ödör bür l manaid <u>*irne*</u>/<u>*irdeg*</u>. Yostoi yadargaatai.

b.How annoying, he <u>*comes*</u> to my house every day.

現在の習慣の意味を表すモンゴル語の単純非過去形(-na)は疑問文においてあまり用いられないが、以下の文(22a)のように「あることができるかどうかの能力を問う意味を含意し、一体そうであるかどうか質問する場合」においてのみ用いられることがある。

(22) a.Ta yer n` tamhi <u>*tatna uu?*</u>/<u>*tatdag uu?*</u>/ <u>*Do*</u> you <u>*smoke*</u>?

b.<u>*Tatnaa*</u>, <u>*tatna*</u>./ Yes, I do.

英語においては現在の習慣を表すのが単純現在形のみであるのに対し、モンゴル語には現在の習慣を表す動名詞語尾-dag と単純非過去形(-na)の 2 つがあり、前者の方は反復を表す副詞がなくてもまた文脈を考慮しなくても習慣の意味を表しているかどうかについて曖昧になるということがないため、制限なく頻繁に用いられると考えられる。

6.3.4.　指図を与える用法 (direction-giving)

英語の単純現在形(φ/-s)およびモンゴル語の単純非過去形(-na)とも指図を与える用法を持っている。Leech (1971、および Kunihiro 訳 1976:24) によると現在時制の用法において分類しにくい(23a)のような 1.旅行の旅程 (travel itinerary) における用法、(24a)のような 2.使用説明書 (instruction manual) における用法の二つの特別な用法があり、使用説明書(instruction manual) における用法に相当する口語の例は文(25a)のように口頭による道順の指示に見られる。この 2 つの用法は、一方において習慣的現在のような連続的出来事と解釈することが可能であり、他方においてより妥当な解釈は想像的現在である。Hirtle (1995:265, 270) はこの用法を「指図を与える用法」（It is shown that in direction-giving event time is seen as prospective and so differs from that found in habit, future and

other uses commonly classified as stative or dynamic… ） と呼び、この用法は取扱説明書(instruction booklet)のみでなく、授業の前、あるいは新人の訓練などの話し言葉においても現れると述べている。

(23) a.To reach Chugwell, we *make* our way up to the source of the river Ede, then *skirt* the bleak slopes of Windy Beacon, crowned by sparse remains of a Bronze Age fort. (Leech 1971、Kunihiro 訳 1976:24)

b.Chagweld hürehiin tuld Ed golyin ehiig chiglen *ögsönö*. Tegeed hürel zevsgiin üyeiin shiltgeenii üldegdel oroid n` orshih Windi Biikonyi naluug *toirch garna*.

(24) a.You *test* an air –leak by disconnecting the delivery pipe at the carburetor and pumping petrol into a container.(Leech1971, Kunihiro 訳 1976:24)

b.Karbirator deer baigaa damjuulah hooloig holbolgüigeer shatahuunaa savandaa shahah zamaar hiin aldagdlyig *shalgana*.

(25) a.You *take* the first turning on the left past the roundabout, then you *cross* a bridge and *bear* right until you reach the public library. (Leech 1971Kunihiro 訳 1976:24)

b.Ta ayulgüin toirgiig öngörööd, züün gar tiishee *ergene*/*ergeerei*/*erge*.Tegeed güüreer *garaad*, baruun gar tiish *ergeheer* nomiin san baigaa.

上記の文(23b)、(24b)のようにモンゴル語の単純非過去形(-na)は取扱説明書においては交替する形式はなく用いられ、文(25b)のように話し言葉においては勧告語尾-aarai、命令形、連用語尾なども用いられているため制限があると言える。またモンゴル語の単純非過去形(-na)は法令の条文、様々な規程においてもしばしば用いられる。

6.3.5. 未来時に言及する用法

英語の単純現在形及びモンゴル語の単純非過去形(-na)両方とも未来時に言及する用法を持っている。

6.3.5.1.英語の単純現在形(φ/-s)の未来時に言及する用法

Leech (1971、2004:63-66 および Kunihiro 訳 1976:97-101) によると、単純現在時制が未来時に言及するものとして、1.従属節における用法 (Subordinate future use) 2.未来用法 (Futurate use)の 2 つがあり、前者は 1.条件、2.時間、3.様態を表す接続詞(if, unless, when, as soon as, as) などによって導かれる従属節、4.「that、wh 節」および関係節に用いられ、後者は 1.事実としての未来を表す、2. 変更不可能と見なされる計画・取り決めを表す、3.未来の定的な場合を指す主節に用いられる。

6.3.5.1.1.従属節における用法

1.条件節において

(26) a.I'll tell you if it *hurts*. (Leech 1971、Kunihiro 訳 1976:98)

b.Herev *övdvöl* bi chamd helne.

2.時間節において

(27) a.When the spring *comes*, the swallows will return. (Leech 1971、Kunihiro 訳 1976:98)

b.Havar *bolohoor* haraatsainuud ergej irne.

3.様態節において

(28) a.Next time do as she *tells* you. (Leech 2004:63)

b.Daraa udaa tüünii *helsneer* hiigeerei.

上記の文 (26a) 、(27a) 、(28a)のような条件、時間、様態などを表す接続詞 (if, unless, when, as soon as, as) によって導かれる従属節に用いられている英語の単純現在形φ/-s はモンゴル語においては文 (26b) 、(27b) 、(28b)のように連用語尾、動名詞語尾などに対応する。

4.「that、wh 節」および関係節

(29) a.Just suppose we *miss* the plane. (Leech 2004:64)

b.Ongotsnoosoo *hotsorvol* yanaa.

(30) a.The man she *marries* will have to be rich. (Leech 2004:64)

b.Tüüntei *suuh* hün bayan baih yostoi.

(31) a.I hope you (will) *win*.(Leech 2004:64)

b.Bi chamaig *yalna* gedegt itgeltei baina.

(32) a.Make sure you *get up* early. (Leech 2004:64)

b.Zaaval ert *bosoh shaardlagatai*/*bosno shüü*/*bosooroi*.

上記の文(31b)、(32b)のように英語の単純現在形(φ/-s)はモンゴル語の単純非過去形(-na)に対応するものもあるが、文(29b)のように非現実的出来事を表す補部においてモンゴル語の連用語尾が用いられる場合があり、(30b)のようにモンゴル語の単純非過去形(-na)は関係節に用いられないため、英語の単純現在形(φ/-s)はそれぞれモンゴル語の単純非過去形(-na)に対応しない。

6.3.5.1.2.未来用法

1.事実としての未来

(33) a.Tommorow *is* Saturday. (Leech 2004:65)

b.Margaash byamba garig.

(34) a.Next Christmas *falls* on a Thursday. (Leech 2004:65)

b.Ireh Krismasyin bayar pürev garigt *bolno*.

2.変更不可能と見なされる計画・取り決め

(35) a.The train *leaves* at 7.30 this evening. (Leech 2004:65)

b.Galt tereg önöö oroi 7:30-d *hödölnö*.

3.未来の定的な場合を指す

(36) a.Right! We *meet* at Victoria at 9 o'clock, *catch* the fast train to Dover, have lunch at the Castle Restaurant, then walk across the cliffs to Deal. (Leech 2004:66)

b.Za tegeheer bügdeeree 9 tsagt Victoriyad *uulzaad*, Dover luu yavah hurdan galt tergend *suuna*. Tegeed Kasl restorand üdiin hooloo *ideed*, Del hürtel had asgatai gazraar *yavna* (daa).

上記の文(34b)～(36b)のように未来用法において用いられる英語の単純現在形(φ/-s)はモンゴル語の単純非過去形(-na)に対応する。

6.3.5.2.モンゴル語の単純非過去形 (-na)の未来時に言及する用法

Hangin (1968:23)は「現在・未来時制あるいは単に現在時制は現在および未来に起こる動作を表すのに用いられる。文脈によっては場面の時間が理解される。この時制は話し言葉において現在より未来に言及することが多い」と述べ、Tserenpil and Kullmann (2008:188, 190-191) は、「この接尾辞は、差し迫った未来の強調つまり差し迫った未来の意味を持たない、不定の未来の意味において主に用いられる」と述べている。モンゴル語の単純非過去形(-na)は、未来時に言及する、1.未来用法、2.動詞の補部内、3.引用文、4.丁寧な要求の 4 つの場合に用いられる。

6.3.5.2.1.未来用法

モンゴル語の単純非過去形(-na)は英語の単純現在形(φ/-s)とは異なり、差し迫った未来つまり発話時直後に起こる出来事以外の未来の出来事をより制限なく表すことが可能である。モンゴル語においては、以下の文(37a)、(38a)のように、差し迫った未来を表すのに過去時制-laa、願望語尾-ya 等を用いる。

(37) a.Za bi *ochloo*. (Rowling 1998)

b.All right, I'*m coming*.

(38) a.Aliv hold. Bi *ugaana/ugaaya*.

b. Come on, give me some room. I'*m going to wash*.

6.3.5.2.2.動詞の補部において

動詞の補部において用いられるモンゴル語の単純非過去形(-na)は文(39b)のように英語の現在進行形に対応する場合がある。

(39) a.Bi chamaig udahgüi *saijirna* gej itgej baina.

b.I hope you *<u>are feeling</u>* better soon. (Huddleston and Pullum 2005:45)

6.3.5.2.3 引用文において

引用文において用いられるモンゴル語の単純非過去形(-na)は以下の文(40b)、(41b)のように英語の単純過去形、過去条件形式(would +verb infinitive(without to))などに対応する。

(40) a.Aavyig margaash *<u>irne</u>* gej ah nadad helsen.

b.My brother said me tnat my father *<u>would come</u>* the day after.

(41) a.Bagshiig gertee *<u>baina</u>* gej ter helsen.

b.He said the teacher *<u>was</u>* at her home.

6.3.5.2.4.丁寧な要求を表す用法

モンゴル語の単純非過去形(-na)は丁寧な要求を表す用法を持っている。Бадан (1989:42)によると未来時を表す非過去時制(-na)は疑問助詞-uu と共起し、質疑の意味を表さず丁寧な要求を表す。

(42) a.Ахиад нэг ая барина уу. (Бадан 1989:42)

b.*<u>Could</u>* you *<u>sing</u>* one more please.

英語の単純現在形(φ/-s)は、未来時に言及する場合、変更不可能と見なされる計画・取り決めに用いられるという制限があるのに対し、モンゴル語の単純非過去形(-na)の用法においてはそのような制限はないが、差し迫った出来事においては英語の単純現在形は用いられないのに対し、モンゴル語の単純非過去形(-na)は用いられたり用いられなかったりする。さらに英語の単純現在形は条件節及び未来時を表す時間的副詞節および条件節、関係節、that 節、wh 節に用いられるのに対し、原則としてモンゴル語の単純非過去形(-na)は引用文において、もしくは hope、think、know などの動詞の補部としての従属節以外の従属節（条件節、時間的副詞節、関係節、様態節など）においては現れない。

6.3.6.　両言語の過去時に言及する用法

英語の単純現在形(φ/-s)およびモンゴル語の単純非過去形(-na)は過去に言及して用いることができる。柏野 (1999:15)は「過去時に言及する現在時制の代表的なものは歴史的現在である。これは、過去の行為・出来事をあたかも眼前で行われたり、起こっているかのように述べる表現方法である。歴史的現在が用いられるのは、1.日常の話し言葉の場合と、2.小説などの書き言葉の場合がある(Graver 1986:55)」と述べている。

6.3.6.1. 日常の話し言葉における歴史的現在用法

日常の話し言葉においても歴史的現在は用いられる。用いられる場面には 1.過去時制で始まる語り体、2.情報伝達動詞、3.今でも効力のある過去の出来事、4.慣用的な表現、5.モンゴル語の単純非過去形-na の過去形-lee との共起の 5 種類がある。

6.3.6.1.1. 過去時制で始まる語り体

柏野 (1999:15)によると話し言葉の場合は過去時制で始まる語り体 (narrative) の中で用いられるが、suddenly、all of sudden を契機として現在時制に切り替わることが多い。

(43) a.I was just about to go to bed when all of sudden there's a knock at the door and Sam <u>*rushes*</u> *i*n.(柏野 1999:15)

b.Bi yag orondoo oroh gej baital genet haalga togshin Sem güij orj <u>*irsen*</u>/<u>*irdgiin baina*</u>.

以下の文(44a)のようにモンゴル語においても単純非過去形(-na)にこの過去時制で始まる語り体の用法があり、状態を表す文、つまり背景文に用いられる。

(44) a.Saya zamdaa balarlaa. Neg shongiin modon deer zarlal <u>*baina*</u>. Avirch garaad unshsan chin` "Anhaar. Ene mod budagtai." gej bichsen baidag baigaa.

b.A bad thing just happened to me on my way. There <u>*was*</u> a notification on a pole. So I climbed the pole and looked at the notification. It said "Be careful. This pole is painted".

英語においても以下の文(45a)のように、状態を表す、つまり背景文にも用いられる場合がある。

(45) a.I met Takeda yesterday. It was terrible. He <u>*is*</u> drunk. He speaks to anybody around him and says he is ready to make them happy. (http:www.englishcafe.jp)

b.öchigdör bi Takedatai uulzlaa. Yostoi aimaar baisan. Ter shal sogtuu. Hün bolgontoi ochij yariad l ta bühniig az jargaltai bolgohod bi belen shüü geed l.

Cowper (1998:14)は歴史的現在は普通の現在形に見られる多くの特性を持っていると述べ、以下の文(46a)のように習慣・総称的意味を表すと述べている。

(46) a.During my last year of teaching before I retired a strange thing happened. One of my student walks into the office and asks to speak to me. I always <u>*get*</u> to work yearly, so I do have time to talk to her. She tells me she wants to hand her paper in a week before the due date. (Cowper 1998:14)

b.Namaig tetgevertee gardgiin urd jil negen sonin yavdal bolson yum. Manai neg oyutan manai ajlyin öröönd orj ireed tand neg heleh züil baina gelee.Bi ter üyed dandaa ert ajildaa <u>*ochdog*</u> <u>*baisan*</u> bolohoor nadad tüüntei yariltsah tsag baisan yum. Tegtel nögöö oyutan maan` togtooson hugatsaanaas neg doloo honogiin hoino ajlaa huraalgamaar baina gedgiin/gedgiin baina/gedeg baigaa/gelee/

6.3.6.1.2.情報伝達動詞

Leech (1971) は「英語において現在時制は過去に言及して用いることができる。伝統的に歴史的現在という呼び名で知られている。異なった種類の歴史的現在が伝達の動詞とともに見出される。動詞 tell、write、say は過去における伝言の起点に言及している。したがって過去あるいは完了時制が当然期待されるところである。しかし、動詞の意味は伝言の起点から終点に移されているように思われる。伝達はそれを受けた人にとってはまだ働いているので、それで現在時制が許されるのである[9]」と述べている。

安藤(1996:77)は ask、say、tell、write 等のような動詞を「発言動詞」と呼び、learn、 hear、 see、find、read、be told、 be informed などのような動詞を「受信動詞」と呼んで区別している。

(47) a.The ten o'clock news *says* that there's going to be a bad storm. (Quirk et.al. 1985 :181)

b.Ayultai shuurga bolno gej 10 tsagiin medeegeer *hellee*/*helsen*/*helj baina*.

(48) a.I *hear* that poor Mr Simpson has gone into hospital. (Quirk et.al.1985:181)

b.Höörhii muu noyon Simpsong emnelegt hevtsen gej bi *sonsloo*.

上記の用法に対応する用法はモンゴル語には存在しないことがモンゴル語訳文を見ると明らかである。しかしモンゴル語においても同様に、以下の文(49a)のように単純非過去形(-na)は「言う」という意味を表す不完全動詞 ge-と共起し、過去時を表す。

(49) a.Tegeed Loghart yum sonsoogüi *gene üü*?

b."And Lochart *said* he could not hear it? " (Rowling 1998)

6.3.6.1.3.今でも効力のある過去の出来事

以下の文(50a)においても現在時制を同じように拡張して、厳密に歴史的な見地からすると過去に属するような情報を含んでいる。

(50) a.The book of Genesis *speaks* of the terrible fate of Sodom and Gomorrah. (Quirk 1985:181)

b.Genesiin nomond Sodom Gomorra hoyoryin emgenelt huv` tavilangiin tuhai *ogüüljee/ogüüldeg.*

また過去時制と現在時制が自由に交替する以下の文(51a)のような例がある。芸術家や後に残されたその作品を論じる場合に用いられる。

(51) a.Brahm *was*/*is* the last great representative of German classicism. (Quirk et.al. 1985:182)

b.Bram bol Germanyi classikchuudyin tölöölögch *baiv*/*yum*.

6.3.6.1.4. 慣用的な表現

(52) a.She walked over and kissed him on the cheek."What *brings* you home so early, darling?" (柏野 1999: 18)

b. "Chamaig min` yu ingej ih ert gertee *irehed hürgev dee*, hongor min`"geed ter tüün rüü hürch iren

[9] 訳は Kunihiro (1976:15)による

hatsar deer n` ünsev.

上記の文(43a, b)～(52a, b)において、英語の単純現在形およびモンゴル語の単純非過去形(-na) 両方とも日常の話し言葉における歴史的現在用法を持っているが、相互に対応する例が余りないことが分かる。つまりこの用法において英語の単純現在形はモンゴル語の過去時制、過去習慣形、現在習慣形および補助動詞 bai-の組み合わせ形式、完結動名詞語尾-san および補助動詞 bai-の組み合わせ形式などに対応し、モンゴル語の単純非過去形は英語の過去時制に対応する。

6.3.6.1.5.モンゴル語の単純非過去形-na の過去形-lee との共起

またモンゴル語において、話者が目撃したり聞いたりした過去の出来事を思い出し、その出来事に対してさり気ない調子で言う場合に単純非過去形-na は以下の文(53a)のように過去形-lee と共起して用いられる[10]。

(53) a. Tedniid hoyor hün *irne lee*.

b. Two men *came* to his home.

6.3.6.2.　書き言葉における歴史的現在用法および虚構的用法

Leech (1971, 2004:16)は「現在時制には現実の時間ではなく、想像上の現在時に関連を持つ用法がある」と述べ、それを想像的用法と呼んでいる。さらに「専門的には現在時制の歴史的用法と虚構的用法を区別することができる。小説家や物語作家は慣行として想像上の出来事（現実の時間から見て過去であれ現在であれ未来であれ）を描写するのに過去時制を用いるので、作り話（直接話法は別として）の中で単純現在を用いることは通常の仕来たりをはずれるという印象を与える。作家の中には口頭による物語の通俗的な歴史的現在を使うものがある。もっとまじめな書き言葉の場合、虚構的現在に転換するのは劇的な高揚(dramatic heightening) を狙う 1 つの手法である；こうすると読者はそこに描写される出来事を実際に目撃している人間の立場におかれるのである[11]」と述べている。

[10] Брозиг (2012:5)は、「驚きの意味を表すのに билээ より-на と共起する-лээ という独立的な助詞(сул үг)が発展してきた。この助詞は主に聞き手に関心を持たせる(сонирхуулах)意味を表すが驚きの意味も表すことができる。動名詞(тэмдэг үйл үг)あるいは名詞に後続する билээ と比較すると-на лээ は出来事が過去に起こったことを表す。... -лээ は不思議な気持ちを抱きながら驚きとともに思い出す(гайхан санах)様子を表す助詞であると見なすことができる」と述べている。本稿では、-на лээ は-на билээ の省略された形式であると考え、-лээ を助詞ではなく過去時制形式として扱う。

[11] 訳は Kunihiro (1976:23)による。

書き言葉においては歴史的現在用法および虚構的用法が両方とも用いられる。虚構的用法が用いられるのは 1.小説の地の文、2.台本のト書きの 2 つであり、歴史的現在用法が用いられるのは 1.見出し、2. 要訳、3.参照の 3 つである。見出しには、新聞の見出し、ニュース見出し、副題、小見出し、小説の章の表題などがあり、要約には節の要約、写真や絵などの説明文、歴史に関する要約および年代表などがあり、参照には 1 箇所から他の箇所への前後参照、相互参照がある。

6.3.6.2.1.書き言葉における虚構的用法

6.3.6.2.1.1.小説の地の文において

英語の単純現在形およびモンゴル語の単純非過去形(-na)が小説の地の文において前景場面および背景場面を表すという 2 つに分けて述べることにする。

1.前景場面を表す（過去の連続して起こった出来事）

Leech (2004:16)によると、単純過去の場合と同様に、以下の文(54a)のように単純現在を並べて用いた場合には出来事の重なり合いというよりはむしろ連続を表す傾向がある。

(54) a.Mr.Tulkinghorn *takes out* his papers, *asks* permission to place them on a golden talisman of a table at my Lady's elbow, *puts on* his spectacles, and *begins to read* by the light of a shaded lamp. (Dickens, Bleak House,Chapter 2) (Leech 2004:16)

b.Noyon Tulkinhorn bichgee *gargaj iren* hadagtain yag hajuud baigaa altan sahius shig jijig shireenii deer tavij boloh esehiig *asuugaad* nüdnii shilee *züün* bürhüültei gerliin dor suun *unshij ehlev*.

上記の文(54b)のようにモンゴル語においてはこの連続して起こった出来事を表す用法は存在しない。

2.背景場面を表す（過去の状態、進行、習慣）

英語の単純現在形(φ/-s)およびモンゴル語の単純非過去形(-na)は以下の文(55a, b)のように過去の状態を表す文において用いられる。

(55) a.He gets up to make himself a drink at the bar and Beth comes in from the kitchen. She *looks* tired; ... (J.Guest, *Ordinary People*). (柏野 1999:15)

b.Ter teknees öörtöö uuh yum avahaar bosohod Bet gal togoonoos orj irev.Ter ih yadarsan *haragdana* /haragdaj bailaa..

以下の文(56a, b)のように過去の状態を表すモンゴル語の単純非過去形(-na)が英語において過去形に対応する場合もある。

(56) a.Harri Hogwardaas ch, kwidich toglohoos ch ilüüteigeer ööriin and Ron Viizli, Hermione Granjer naryig *ügüilne*. (Rowling 1998)

b.More than anything else at Hogwards, more even than playing Quidditch, Harry *missed* his best

friends, Ron Weasly and Hermione Granger.

以下の文(57a, b)のようにモンゴル語の単純非過去形(-na)が過去の習慣・反復的出来事を表すのに用いられ、英語の過去形に対応する場合がある。

(57) a.Harri Ron hoyor tüün deer oroi bür *irne*.

b.Harry and Ron *went to visit* her every evening. (Rowling 1998)

以下の文(58a)のようにモンゴル語の単純非過去形(-na)が過去に進行していた出来事を表すのに用いられ、英語の過去進行形に対応する場合がある。

(58) a.Ergen toiron targan tsagaan tahianuud yu ch yum be *tonshin* *tongolzono*.

b.Several fat brown chickens *were pecking* their way around the yard. (Rowling 1998)

本研究で使用したテクストである、三人称の小説 Rowling (1998) の *Harry Potter and the Chamber of Secrets* 及びそのモンゴル語訳 Myandas and Batsoyombo (2011) “Харри Поттер ба нууцат өрөө”、一人称の小説 Chase (1959) の *What's better than money* 及びそのモンゴル語訳 Чойжил (1995) “Мөнгө шиг сайхан юм юу байна?” の地の文における英語の単純現在形とモンゴル語の単純非過去形の歴史的現在用法の出現度を考察した結果、モンゴル語の単純非過去形(-na)は三人称の小説、一人称の小説両方においても用いられており、使用数は 513 例であるのに対し、英語の単純現在形は、三人称の小説においては一度も使用されず、一人称の小説においてのみ用いられており、使用数は 17 例であった。用いられる場面を詳細に見ると、モンゴル語の単純非過去形(-na)は過去の状態、習慣、進行、反復的な出来事に用いられているのに対し、英語の単純現在形は以下の文(59a, b)のように状態、特に一般的な状態に用いられていることが分かった。

(59) a.All of a sudden the bar door crashed open and a man came in. He took four plunging steps into the bar, *the way a man walks on a rolling ship*, and then came to an abrupt standstill. (Chase 1959)

b.Haalga genet ongoij, guanzand negen er orj ireed *usan ongotsnyi* *daivalzan bui tavtsan deegüür yavj baigaa yum shig* taahag taahag hiin döröv alhasnaa höshsön yum shig moodoin zogsloo.

6.3.6.2.1.2.台本のト書き

英語の単純現在形およびモンゴル語の単純非過去形 (-na) 両方ともト書きの用法を持っている。Leech (2004:16)によると、ある語りの文脈においては過去時制ではなく現在時制の方が慣習的である。

(60) a.Mallinson *enters*. The girls immediately *pretend* to be working hard. (Quirk et.al. 1985:183)

b.Malinson orj *irne*. Ohiduud ter darui shurguu ajillaj bui *dür* *esgene*.

6.3.6.2.2.書き言葉における歴史的現在用法

6.3.6.2.2.1.見出し

見出しには新聞の見出し、ニュース見出し、副題、小見出し、小説の章の表題などがある。

(61)a.Ex champ *dies*. (Leech1971、Kunihiro 訳 1976:17)

b.Eks avarga *nas barjee*.

6.3.6.2.2.2.要訳

要約には節の要約、写真や絵などの説明文、歴史に関する要約および年代表などがある。

(62)a.Father O'Brien *gives* his first blessing. (Leech1971, Kunihiro 訳 1976:17)

b.Etseg O Brein anhnyi adislalaa *ögch baigaa n`*./*ögsön n`*.

6.3.6.2.2.3. 参照

Leech (1971)によると同じ本の中の一箇所から他の箇所への前後参照および相互参照に用いられ、過去時制と単純現在時制について自由な交替が見られる。

(63)a.The *problem was*／*is discussed* in Chapter 1. (Quirk et.al.1985:182)

b.Asuudliig deerh hoyordugaar bülegt *ogüülev*.

上記によると、モンゴル語においては歴史的現在としての単純非過去形-na は**日常の話し言葉における歴史的現在用法**の過去時制で始まる語り体において背景（状態、習慣）を表し、情報伝達動詞としての不完全動詞 ge-および過去形-lee と共起する場合のみにしか用いられない。また、**書き言葉における歴史的現在用法および虚構的用法**の内の**書き言葉における虚構的用法**においては、物語の地の文における背景（状態、進行、習慣）を表す場合のみ、また劇等のト書きにおいて用いられる。それに対し、英語の単純現在形(-φ/-s)は**日常の話し言葉における歴史的現在用法**の過去時制で始まる語り体において前景、背景（状態、習慣）両方を表し、**書き言葉における虚構的用法**としての物語の地の文においても前景、背景（状態、習慣）両方とも表すのに用いられる。また**書き言葉における歴史的現在用法**についてはモンゴル語の単純非過去形-na は用いられない。

6.3.7.　モンゴル語の単純非過去形(-na)の進行的用法

モンゴル語の単純非過去形(-na)の進行的用法には、1.話し言葉つまり発話時における進行的用法と、2.書き言葉つまり小説の地の文における想像上の過去における進行的用法の 2 つがある。

6.3.7.1.話し言葉つまり発話時における進行的用法

英語及びモンゴル語において発話時に起こる進行的な出来事を現在進行形により表すが、モンゴル語においては単純非過去形(-na)により表す場合もある。この用法には、1.肯定文において、2.特別疑問文においての 2 つの場合があると考えられる。

6.3.7.1.1.肯定文において

モンゴル語の単純非過去形(-na)は以下の文(64a)のように動詞 yav-と共起し、発話時における進行的な出来事を表す。

(64)a.Энэ ууланд морь явна. (Лувсанвандан 1987:162)

b.A horse is walking on this mountain.

6.3.7.1.2.特別疑問文において

以下の文(65a)のように疑問助詞 be/ve と共起し、yund、yagaad、yu などの疑問詞がある疑問文に用いられ、発話時に起こる出来事としての特別疑問文に用いられる。

(65) a.Chi yund *ineene ve*?

b.Why *are* you *laughing*?

6.3.7.2. 書き言葉つまり小説の地の文における想像上の過去における進行的用法

この用法に関しては上記の節 6.3.6.2.1.書き言葉における虚構的用法を参照。

6.4.まとめ

Comrie (1985:37-39)、Bybee et. al. (1994:126) などは多くの言語において現在時を表す形態素は進行的動作、習慣的場面および格言的場面等を含めた様々な不完結的場面を表すことを認めている。

Bybee et.al. (1994:140-141)によると、場面は発話時と同時であることから、現在は幾つかの異なる相（アスペクト）的タイプであると言える。現在の場面は発話時に起こっている進行的活動として見ることができる。発話時が習慣的場面により特徴付けられる期間に含まれている場合、習慣的に起こる場面は発話時と同時であると見ることができる。状態は発話時間中に効果的であるように表される。総称的、格言的 (gnomic) 場面は全ての時間に保持されているため多くの場合無時間的と見なされているが、発話時においてもなお効果的であると見なすことができる。従って、上記の進行、習慣、存在する状態、格言の全ての意味を表す現在時制の文法を見つけることが可

能である。またこの4つの意味の様々な部分集合を表す文法を見つけることも可能である。一方、Williams (2001:93) は「非進行形はある場合には完了的で、ある場合には未完了的である」と述べ、Williams (2002:1236) は「現在時制の非進行形的、瞬間的用法は完了したひとまとまりとして知覚される場面という理解を伝えているために完結的である」と述べている。Bybee、Williams の指摘通り、英語の単純現在形 (-φ/-s) 及びモンゴル語の単純非過去形 (-na) は次のように完結、不完結の両方の意味に区分できる：1.現在状態的用法、2.現在瞬間的用法、3.現在習慣および反復的用法、4.進行的用法（モンゴル語のみ）、5. 指図を与える用法、6.未来時に言及する用法、7.過去時に言及する用法。過去時、現在時、未来時 3つに言及する点において、英語、モンゴル語両言語は共通しているが、一方、用法ごとに詳細に考察した場合、異なる点も多くあることが判明した。

本章における英語の単純現在形 (-φ/-s) およびモンゴル語の単純非過去形 (-na) の意味・用法の詳細な考察の結果を表にまとめると以下の表 2 のようになる。

表2　英語の単純現在形 (-φ/-s) およびモンゴル語の単純非過去形 (-na) の意味・用法

用法種類	下位分類			英語単純現在形	モンゴル語の単純非過去形
現在状態的用法	1.永遠の真理	a.一定の特殊な表現（諺、早口言葉）		○	○
		b.科学に関する文		○	○
		c.教育に関する文		○	○
	2.無時間的現在	a.地理学に関する文		○	×
	3.時間スパンの制限がある場面			○	△
	一般的疑問文	受動的感覚/認識の動詞と共起する		○	○
現在瞬間的用法	1.実況解説	a.スポーツ実況解説		○	×
		b.儀式実況解説		○	×

		c.語り実況解説		○	×
	2.実演解説および自己実況解説			○	○
	3.遂行文			○	×
	4.特殊な詠嘆文			○	×
	5.芝居的用法			○	×
現在習慣および反復的用法				○	△
両言語の指図を与える用法				○	△
未来時に言及する用法	1.主節	a.未来用法	未来の事実	○	○
			変更不可能と見なされる計画・取り決め	○	○
			変更可能と見なされる計画・取り決め	×	○
			未来の定的な場合	○	○
			差し迫った出来事	×	△
		丁寧な要求		×	○
	2.従属節	a.条件節		○	×
		b.時間節		○	×
		c.関係節		○	×
		d.様態節		○	×
		e.引用節		△	○
		f.動詞の補部		○	○
過去時に言及する用法	1.日常の話言葉における歴史的用法	a.過去時制で始まる語り体	出来事の連続	○	×
			習慣的出来事	○	○
			状態的出来事	○	○

		b.情報伝達動詞	発言動詞	○	△
			受信動詞	○	×
		c.今でも効力のある過去の出来事		○	×
		d.慣用的用法		○	×
		e. モンゴル語の単純非過去形-na の過去形-lee との共起		×	○
	2.書き言葉における虚構的用法および歴史的現在用法	a.小説の地の文	前景(出来事の連続)	○	×
			背景（状態、進行、習慣）	△	○
		b.台本のト書き		○	○
		a.見出し	新聞の見出し	○	×
			ニュース見出し	○	×
			副題、小見出し	○	×
			小説の章の表題	○	×
		b.要約	節の要約	○	×
			写真や絵等の説明文	○	×
			歴史に関する要約および年代表	○	×
		c.参照	前後参照	○	×
			相互参照	○	×
	現在進行	日常会話	肯定文	×	○

進行的用法			特別疑問文	×	○
	想像上の過去における進行	小説の地の文	背景描写内	×	○

（○―表す、△―表す場合もあり、表さない場合もある、×―表さない）

第七章

英語とモンゴル語における語彙アスペクトと進行形の共起性について

7.1. はじめに

本章では、英語及びモンゴル語[1]における**語彙アスペクト**と**進行形**[2]の共起性およびその表す意味を比較対照し、類似点および相違点を明らかにする。進行形は英語においては I **am reading**のように主動詞に現在分詞語尾 -ing を付け、補助動詞 be がテンス形式により変化することにより、モンゴル語においては Bi unshi**j bai**na のように主動詞に結合連用語尾 -j/-ch を付け補助動詞 bai- はテンスを表す終止語尾で変化することにより表され、両言語とも迂言形、つまり主動詞は補助動詞との組み合わせで成り立ち、構造的にほぼ同じであると言える。

アスペクトは場面の内的な時間構成を捉える様々な仕方である (Comrie1976:3)。理論的な文献に従うとアスペクトにおける対立は語彙的（様々な語彙項目はそれ自身の意味に基づく持ち前のアスペクト的な特質を持っている）および文法的（動詞の屈折および補助動詞を用いた迂言的な構造）な手段によって表される。本稿では、前者に**語彙アスペクト**という術語を用い、後者に**文法的アスペクト**という術語を用いることにする。進行アスペクトは理論的な文献において文法的アスペクト (grammatical aspect) の下位分類である不完結相(imperfective)の下位分類として位置づけられている(Comrie1976:25)。進行アスペクト形式は、限られた範囲としての特定期間の時間内において拡張し、進行している場面を表す。

言語学では**語彙アスペクト**としてしばしば 4 つのタイプ（**State**: know, believe, have, desire, love 等、 **Activity**: run, walk, swim, drive a car 等、 **Accomplishment**: make a chair, draw a circle, push a cart, recover from illness 等、 **Achievement**: recognize, spot, find, lose, reach 等）の存在が議論されている。Vendler (1967) は初めて時間を表す副詞、テンス、論理的な含意により限定される上記の個々の 4 タイプの動詞を認めた。Vendler (1967) が提唱した動詞の 4 タイプは以下の通りである。

表 1.Vendler (1967) の動詞の 4 タイプ

States	Activities	Accomplishments	Achievements
know	run	paint a picture	recognize
believe	walk	make a chair	spot
have	swim	deliver a sermon	find
desire	push a cart	draw a circle	lose
love	drive a car	push a cart	reach
		recover from illness	die

(Dowty 1991:54)

Smith (1991:6) は、上記の 4 タイプに加えて一回的動作（**Semelfactive**: knock, cough, nod, jump 等）という新たな状況タイプを提唱し、基礎的な状況タイプとして全部で 5 つのタイプがあると述べている。Smith はさらに、ある現象・状況が「静的か非静的か「±static」」、「持続的か非持続的か［±duration］」、「必然的な終点があるかないか［±telic］」という 3 つのパラメーターを持つかどうかによって、動詞の 5 つのタイプそれぞれが区別されると述べている。この区別は動詞のみで決まるのではなく、共起する他の文要素と共に決められる。

静的/非静的の区別は、状況タイプを状態と出来事の 2 つに分ける。状態は一番単純な状況タイプである。時間的な図式において状態は、終結点を持たない同質的瞬間の期間から成り立つのに対し、出来事は動的である。非静的状況は出来事の自然類(natural class of events)を形成する。出来事は動的であり、行為者、活動、変化を伴っている。出来事は同質的瞬間からと言うよりむしろ段階から成り立つ。従って、活動と達成の連続的段階は、一回的動作および到達の個々の段階がそうであるように、動的な性質を表す [1]。

出来事は**限界/非限界**に分類される。限界的な出来事はゴールへ向かう。ゴールに到達した時、状態の変化が起こり、出来事は完了する。そのゴールは出来事に固有であり、自然的な最終点を構成する。…非限界的な出来事には任意の最終点がある。非限界的出来事はいつでも止まることができる。4 つの出来事タイプの中では活動、一回的動作は非限界的であり、状態の変化に関係しない。達成と到達は限界的である [2]。

限界 (telic) と非限界 (atelic) の区別は出来事がゴールあるいは成果により成り立っている自然的な終結点があるかどうかによるものである。telic な出来事は自然的な終結点をもっているのに対し、atelic な出来事はその特徴をもっていない。

持続的/非持続的の区別は、理想化された状況を分類する。一方の場面は持続的であるのに

[1] Smith (1991:28-29)、訳は筆者による。詳細は第 2 章を参照。

[2] Garey (1957:106) および Smith (1991:29)、訳は筆者による。詳細は第 2 章を参照。

対し、他方の場面は瞬間的である[3]。状態、活動、達成は持続的であるのに対し、一回的動作、到達は非持続的である。

Smith (1991:28-30) によると 5 つの状況タイプそれぞれの特徴は以下のようである[4]。

状態 (State)は、静的であり、動的な性質と内部構造を持たない。少なくとも一瞬間の継続を持っている。例えば、 [know the answer]、 [be in Athens]。

活動 (Activity)は、継続的で非限界的な出来事である。同質的な連続する段階と任意の最終点を持っている。例えば、 [walk in the park]、[laugh]。

達成 (Accomplishment)は、継続的で限界的な出来事である。複合的であり、連続する段階の過程および自然的な最終点により構成される。結果は状態の変化である。例えば、 [build a house]、[walk to school]。

一回的動作 (Semelfactive)は、瞬間的で非限界的な出来事である。例えば、[knock]、[cough]。

到達 (Achievement)は、新しい状態という結果を伴う、状態の瞬間的変化である。例えば、[reach the top]、[win a race]。

Smith (1991) が提出した状況タイプの特徴は以下のように示される。

表 2.　状況タイプの特徴

Situations	Static	Durative	Telic
State	[+]	[+]	[-]
Activity	[-]	[+]	[-]
Accomplishment	[-]	[+]	[+]
Semelfactive	[-]	[-]	[-]
Achievement	[-]	[-]	[+]

(Smith 1991:30)

上記の表 2 によると状態は「静的で、持続的で、必然的な終点がない」。活動は「非静的で、持続的で、必然的な終点がない」。達成は「非静的で、持続的で、必然的な終点がある」。一

[3] Smith (1991:29)、訳は筆者による。詳細は第 2 章を参照。
[4] Smith (1991:28)、訳は筆者による。詳細は第 2 章を参照。

回的動作は「非静的で、非持続的で、必然的な終点がない」。到達は「非静的で、非持続的で、必然的な終点がある」。

相的な意味は個々の動詞あるいは動詞句というより文単位において維持されている。Verkyul (1972)によると、次の例(1a, b)、(2a, b)、(3a, b)のように異なる場面タイプは動詞の補語や補文、目的語、名詞句の内部構成、間接目的語および主語等により区別されている。

(1) a. Mary walked <u>*in the park*</u>. (atelic)

b. Mary walked <u>*to school*</u>. (telic)

文 1a の補語は位置的であるのに対し、文 1b の補語は方向的である。

(2) a.Edward smoked <u>*cigarettes.*</u> (atelic)

b. Edward smoked <u>*a cigarette.*</u> (telic)

(3) a. <u>*A famous movie star*</u> discovered that little spa. (telic)

b. <u>*Famous movie stars*</u> have been discovering that little spa for years. (atelic)　(Smith 1991:7）

上記によると文におけるアスペクト的意味は合成的であることが分かる。つまり単なる動詞により決められるものではなく共起する他の文要素との相互作用により決められるのである。

Smith (1991:36) によると、状況タイプはさらに他の状況タイプに転換したり、派生されたりする場合がある。つまり転換的状況タイプと派生的状況タイプという 2 つの有標的な状況タイプがある。転換的状況タイプは基本的レベル状況(basic-level situation)の部分に焦点を当てる。例えば、Mary began to read は Mary read という出来事の始点に焦点を当てる起動相である。派生的状況タイプは他の状況タイプの例により成り立つ内部構成を持っており複合的である。このように習慣的状態文　Mary fed the cat every day は Mary feed the cat という出来事に関係している。多回的な出来事動作 Mary knocked at the door for 5 minutes は Mary knock at the door という出来事に関係している [5]。

言語における語彙アスペクト(lexical aspect)と文法的アスペクト(grammatical aspect)は互いに独立し、存在している. 以下の文(4a)と文(4b)は両方とも完結相を表すが、語彙アスペクトにおいて異なっており、(4a)は達成場面を表すのに対し、文(4b)は活動場面を表している。

(4) a.They built a sandcastle. (Accomplishment)

b.Jane swam in the river. (Activity)　　　　　　(Smith 1991:94-95)

以下の文(5a, b)は、語彙アスペクトに関しては同じく達成場面を指し示しているが、文法的アスペクトに関しては異なっており、文(5a)は完結相を、文(5b)は不完結相つまり進行相を表している。

(5) a. Mary walked to school.

---

[5] Smith (1991:26-36)、訳は筆者による。詳細は第 2 章を参照。

b. Mary was walking to school. (Smith 1991:95)

しかし、Smith (1991:56) が文の相的意味は 2 つの独特な構成要素としての状況タイプおよび視点の相互作用により決定されると述べている様に、その独特な構成としての語彙アスペクト (lexical aspect) 及び文法的アスペクト (grammatical aspect) は相互に作用している。

Swart (2012:754) は"Aspectual class and grammatical aspect are independent theoretical notions , but there are clear interactions between them. For instance , The English Progressive does not easily apply to stative verbs…"と述べている。

不完結相の一種である進行アスペクトを表す形式の意味解釈は、動詞の持つ内在的なアスペクトつまり語彙アスペクトとの相互作用で説明できる。その相互作用は言語それぞれ共通であったり、異なったりしている。

言語における語彙アスペクトと文法的アスペクトとしての進行形の相互作用に関しては次の 2 つの点が取り上げられる。一つ目は、進行的な意味を備えている形式がどのような場合において使用可能あるいは不可能かということであり、その可否を決定する規則は言語それぞれにおいて様々である。例えば、イタリア語では spero (hope)、suppongo (suppose)、ricordo (remind)、vivo (live)、 comincio (start) 等の状態述語および udire (hear)、vedere (see)等 [6]のような知覚動詞は進行形が容認されない (Marchand 1955:50)のに対し、英語においては幾つかの制限があり、状態動詞に進行形が容認されたり、されなかったりすることがある。また日本語においては状態動詞（住む、信じる、思う、聞く、等）に進行的な意味を表す形式を付けることが可能であるどころかある状態動詞（優れている、そびえている [7]）はその形式しか持たない。しかし、モンゴル語においては、日本語と同様に状態動詞にも進行形が容認できるが進行形式しか持たない状態動詞は存在しない。二つ目は、進行的な意味を備えている形式を使うことが可能であるが、言語それぞれにおいて表す意味が共通であったり、異なったりする。例えば、以下の文 (6a) のように日本語においては進行的な意味を表す「～ている」形式は到達述語に付けると出来事の進行ではなく、結果、つまり「もう頂上に着いた」という意味を表しているが、文 (6b)、(6c) のように英語およびモンゴル語は「まだ着いていない、着こうとしている」段階つまり出来事の前置きの段階性を表している。このように英語とモンゴル語は表す意味が共通しているが、日本語は英語及びモンゴル語とは異なっている。

(6) a.私達は頂上に *着いている*。

b.We *are reaching* the peak.

c.Bid uulyin orgild *hürch baina*.

---

[6] 英語の訳語は筆者による。

[7] 工藤 (1995:70) を参照。

7.2. 英語及びモンゴル語における語彙アスペクトと進行形の共起性

ここでは、英語およびモンゴル語における語彙アスペクトの 5 つのタイプである状態述語 (stative)、活動述語 (activity)、達成述語 (accomplishment)、一回的な動作述語(semelfactive)、到達述語 (achievement)と進行形の共起性およびその表す意味を考察する。

7.2.1. 状態述語と両言語の進行形

Smith (1991:38-39) は状態場面タイプの基本的なレベル述語(basic-level predicates)として a. 私的な述語、b. 人、物、概念の具体的および抽象的な特性を表す述語、c. 位置、所在の意味を表す動詞述語、の 3 種類を取り上げている。これらに加え、d. 所有述語も考察の対象とする。

7.2.1.1. 私的な述語と両言語の進行形

Quirk et.al (1985:202-203) によると英語における私的状態 (Private states) に以下の四種類がある。

1）知的状態 (Intellectual states): know, believe, think, wonder, suppose, imagine

2）感情或は判断状態 (States of emotion or attitude): intend, wish, want, like, dislike

3）知覚状態 (States of perception): see, hear, feel, smell, taste, seem, appear

4）身体感覚状態 (States of bodily sensation): hurt, ache, itch, feel

Smith (1991:111) は“..the progressive applies only to non-stative situations.”と述べている。これは「何かが進行中である」という動作表現が状態場面に当てはまらないからであると考えられる。以下の文 (7a)～(10a) のように英語においては私的な述語 4 種類それぞれにおいて進行形が存在しない。

1) 知的状態(Intellectual states)

(7) a. Harry *knew* perfectly well they’d just be disappointed that the Whomping Willow hadn’t squashed him flat. (Rowling 1998)

b. Ted uurtai ud mod tüüniig ter chigt ni havtgailaad hayachihaagüid l haramsah bolno gej dendüü sain *medej bailaa*.

2) 感情あるいは判断状態 (States of emotion or attitude)

(8) a. I *wish* I got more letters.

b. Bi ulam olon zahia avahyig *hüsch baina*. (Boldbaatar 2010)

3) 知覚状態 (States of perception)

(9) a.“I *see* you’ve all bought a complete set of my books — (Rowling 1998)

b.Ta nar bügdeeree minii nomyig hudaldan avsnyig bi *harj baina*.

4) 身体感覚状態 (States of bodily sensation)

(10) a.His gums *hurt* after the tooth was pulled out. (Boldbaatar 2010)

b.Shüdee avahuulsnyi daraa tüünii buil *övdöj bailaa*.

しかし、言語によっては進行形が状態場面にも現れることが認められており[8]、上記の文(7b)～(10b) のように、モンゴル語においては英語と異なり、状態を表す私的な述語も進行形を容認する。英語においても私的な述語では、全く進行形が用いられないとは限らない以下の文(11a)～(31a)のように上記の 4 種類において進行形を容認する例も存在する。文 (11b)～(18b)、(24b) ～(31b) のようにモンゴル語においては(7)～(10)と同様に進行形が容認される。文(19b) ～(23b)のようにモンゴル語において進行形に対応しない場合もある。

1) 知的状態 (Intellectual states)

知的状態述語は精神活動の動詞として進行形を用い、(11a)のように限定的継続、(12a)のように確定的でない、(13a)のように動的、(14a)、(15a)のように継続という意味をそれぞれ表している。

(11) a.Yes, yes, I know what you’*re thinking*! (Rowling1998)

b.Tiim tiim, bi chamaig yu *bodoj baigaag* sain medej baina.

(12) a. I *was* just *wondering* if he could come.

b.Bi tüünii ireh esehiig *medmeer baina*

(13) a.He *is wondering* what to do next. (Boldbaatar2010)

b.Ter zalguulaad yu hiihee *bodolhiilj baina*.

(14) a. John *is forgetiing* everything he has learned. (Dowty1991:180)

b.Jonn sursan büh züilee *martaj baina*.

(15) a.He claims that fewer and fewer students *are knowing* how to write English when they come up to university. (Huddleston and Pullum 2002:170)

b.Ih surguul`d elsen orj irehdee mash tsöön oyutan angliar herhen bichdegiig *medejbaina* gej ter yaridag/yarij baina.

---

[8] Comrie (1976:35-36) は「進行性とは進行の意味と非状態の意味とが結合したものである、という一般的な定義を与えることができる。…しかし、残念なことに、現実はそうではない」と述べ、また、英語等においても進行形は状態動詞にも用いられる場合があると述べている。

2) 感情あるいは判断状態 (States of emotion or attitude)

非断定的な態度やそつのなさをさらにはっきり表すために進行形が用いられる場合がある。

(16) a.I *was hoping* you would give me some advice.

b.Tanyig nadad zövlöh baih gej bi *itgej baina*.

(17) a.She *is liking* to entertain the students. (Boldbaatar2010)

b.Tüünd oyutnuudyig dailah *taalagdaj bailaa*.

(18) a.He *was intending* to go to Nara.

b.Ter Nara ruu yavahaar *tölövlöj bailaa*.

(19) a.Some rich builder and his wife were coming to dinner and Uncle Vernon *was hoping* to get a huge order from him (Uncle Vernon's company made drills). (Rowling1998)

b.Önöödör üdiin hoolond barilgyin bayan kompanii zahirlyig ehnertei n` hamt ur`san ba Vernon tüünees öröm hiideg kompanidaa zahialga avchih *sanaatai baigaa* aj.

(20) a. What *were* you *wanting*?

b.Ta yu *hüsee ve*?

(21) a."Yeah, Mum'*s* always *wishing* we had a house-elf to do the ironing," (Rowling1998)

b.Ter ch medeej l dee, eej ürgelj l yum indüüdeed ögdög geriin ongontoi ch *boloosoi* gedeg yum. (Rowling1998)

3) 知覚状態 (States of perception)

知覚の過程を重視する時、see、hear、look は進行形を容認し、進行形が例外的に用いられる場合もある。

(22) a."Greenhouse three today, chaps!" said Professor Sprout, who *was looking* distinctly disgruntled, not at all her usual cheerful self. (Rowling1998)

b.Guravdugaar hülemj rüü hüühdüüdee gehdee Spraut bagsh yerdiinhöö bayasgalantai baidlaasaa tes ondoo ilerhii taalamjgüi dünsger *haragdana*.

(23) a.Harry's mouth fell open as the full impact of what he *was seeing* hit him. (Rowling1998)

b.Harri ömnöö baigaa züiliig *haraad* amaa angain gaihaj orhiv.

(24) a.I need some spectacles. I *am not seeing* things so well these days. (Quirk et.al.1985)

b.Bi nüdnii shil avmaar baina. Oirdoo yum sain *harahgüi baina*.

(25) a.A: Did you hear a bell ring just then? (Quirk et.al.1985)

B: No I can't hear a thing.

A: There it goes again! I *am hearing* it now.

b.A:Chi saya honh duugarahyig sonsov uu?

B:ügüi yu ch sonsogdsongüi.

A: Teer dahiad l duugarlaa. Nadad odoo *sonsogdoj baina*.

以下の文(26a)のように進行過程として扱われる知覚においては進行形の例外が生じる。

(26) a.Your soup *is tasting* better every day.

b. Chinii hiisen shöl ödröös ödört ilüü goyo *amttai bolj baina*.

以下の文(27a)、(28a) のように see、hear の代わりに、それらと同価値の動作動詞として、look at や listen to があるが、smell、taste、feel などには、それらに相当する特別の動作動詞が存在しない。このように、状態の意味と動作の意味両方の用を果たさねばならない 2 つ以上の動的なカテゴリーに属する述語も存在し、例外が生じることになる（Leech1971、および Kunihiro 訳 1976:35)。

(27) a. I *am smelling* the perfume. (Boldbaatar2010)

b.Bi ünertei us *ünerlej baina*.

(28) a.I *am tasting* the porridge.

b.Bi shöl *amsaj baina*.

4) 身体感覚状態 (States of bodily sensation)

一時的な状態に言及する時、進行形及び非進行形は互いに交換できる。

(29) a.My foot *hurts*/My foot *is hurting*. (Quirk et al.1985)

b.Minii höl *övdöj baina*.

(30) a.My back *aches*/My back *is aching*. (Quirk et.al.1985)

b.Minii nuruu *övdöj baina*.

(31) a. I *feel hungry*/I *am feeling hungry*. (Quirk et.al.1985)

b.Bi *ölsöj baina*.

英語における上記の現象について Comrie (1976:36) は「英語では、語彙的には状態動詞として扱われているものであっても、非状態的に使用されて、進行相を取ることができる。」と述べている。Leech (1971) の説明を概説すると以下のとおりである[9]。

1. この例外は一般に、問題の動詞に「多重部類所属性」(multiple class membership) を仮定することにより解釈可能である（例えば動詞 feel）。

2. 知的状態述語、感情あるいは判断状態述語に関しては、この種に属する動詞が進行形になると積極的な心的活動を意味している。進行形の方がためらいを含み (tentative)、それゆえに心的態度の表明としては一層丁寧な方法である。

[9] Kunihiro 訳(1976:39-43)を参照。

3. 知覚状態述語に関しては、表現されている知覚の型は「能動的」というよりは「受動的」であるから、進行は一般に排除される。進行を用いた効果として、伝達の「過程」が強調されている。

このように英語は出来事を動的なものとして表すか状態として表すかという観点に従って私的な述語に進行形が用いられたり、用いられなかったりする。これに対し、モンゴル語においてはいずれの場合でも私的な述語に進行形が容認される。その理由として、例えば、単純現在形に関しては、単純非過去形(-na)を使うと med- (know)、tani- (know, realize) および知覚状態を表す動詞 har-、üz-、sons- などの受動形 haragd-、üzegd-、sonsogd- の疑問形以外の私的な述語は未来時の意味を表すため、現在の状態に言及することは不可能であり、進行形を使わなければならなくなる。

7.2.1.2. 人、物、概念の具体的および抽象的な特性を表す述語と両言語の進行形

両言語における人、物、概念の具体的および抽象的な特性を表す述語に関しては、Carlson (1977:444-450) により提唱されている個性的なレベル述語 (individual-level predicates) および 段階的なレベル述語 (stage-level predicates) の概念に従い 2 種類に分け、考察していく。述語 be tall のような一つ目のグループは一定の特性を意味し、個人に関わる事柄には適用されない。述語 be angry のような二つ目のグループは一時的な特性を意味し、個人に関わる事柄に適用される。

まず個性的なレベル述語に関しては、以下の文 (32a, b)、 (33a,b)のように両言語とも進行形は容認されない。

(32) a.*I'*m being* tall.

b.*Bi öndör *baij baina*.

(33) a.*I'*m being* a student.

b.*Bi oyutan *baij baina*.

また、以下の文 (34a, b) ～(36a, b)のように述語が個性的なレベル述語であっても、英語においては進行形が容認されるが、モンゴル語においては容認されない例も存在する。Leech (1971、および Kunihiro 訳1976:45) によるとここには 次の2つの別々の意味条件が含まれている:

1) 時間の広がりは永続と言うよりは一時的である

2) 動詞は人間の行動力に言及するものと解釈される。

Leech によればこれらの2 つの条件が共に存在する場合にのみ be 動詞に進行相が期待される。

(34) a.She *is being polite*.

b. *Ter emegtei *eyeldeg baij baina*.

(35) a.He <u>*is being a good boy*</u>.

b.*Ter <u>*sain hüü*</u> <u>*baij baina*</u>.

(36) a.I <u>*am being altruistic*</u>.

b.*Bi <u>*tusch hün baij baina*</u>.

次に、段階的なレベル述語に関しては、以下の文 (37a,b) のように両言語とも進行形が容認される。それは段階的なレベル述語が一時的な特性を意味しており、進行形の limited duration という意味に反しないからであると考えられる。

(37) a.He <u>*is being happy*</u>. (Leech 1971、および Kunihiro 訳1976:44-45)

b.Ter <u>*jargaltai baij baina*</u>.

しかし段階的なレベル述語においては以下の文 (38b) のようにモンゴル語において進行形が容認できるが、 (38a) のように英語において容認できない例もある。Leech (1971:35) によると言及されている病気が、恐らく永続的なものでなく一時的なものである場合でも、この用法は不可能である。

(38) a.*A child <u>*is being ill*</u>. (Leech 1971、および Kunihiro 訳1976:35)

b.Hüü <u>*övchtei baij baina*</u>.

以下の文 (39a, b) のように両言語ともに進行形が容認できない例もある。

(39) a. *It <u>*is being available*</u>.

b.* Ene bol <u>*bolomjtoi baij baina*</u>.

人、物、概念の具体的および抽象的な特性を表す述語に関しては、英語において個性的なレベル述語は進行形を容認したり、容認しなかったりしているのに対し、モンゴル語においては進行形が容認されない。両言語とも段階的なレベル述語は進行形を容認したりしなかったりする。

7.2.1.3. 位置、所在の意味を表す動詞述語と両言語の進行形

位置、所在の意味を表す動詞述語に関して、文 (40a, b)、(41a, b) のように英語においては進行形が容認されないのに対し、モンゴル語においては進行形が容認される場合がある。

(40) a.There, his black robes rippling in a cold breeze, <u>*stood*</u> Severus Snape. (Rowling 1998)

b.Har ömsgöl ni hüiten salhind dervesen Severus Sneip düreeree <u>*zogsoj baiv*</u>.

(41) a. *He <u>*is being*</u> at home.

b.Ter gertee <u>*baij baina*</u>.

しかし、以下の文 (42a)、(43a) のように一時的な状態を指し示す場合、英語において進行形を用いることがある。

(42) a.All he could tell was that he <u>*was standing*</u> in the stone fireplace of what looked like a large, dimly

lit wizard’s shop. (Rowling 1998)

b.Yamar ch baisan ter büdeg gereltei uujuu zaitai negen id shidiin delgüüriin il zuuhan dotor *zogsoj bailaa*.

(43) a.I *am living* in London.

b.Bi Londond *am`darch baina*.

Smith (1991:39) は、英語において動詞 lie、sit、hang 等は位置や所在を表す意味で用いられ、進行形になる場合は出来事の結果状態を重視し、このような文は位置や所在を表す動詞のみに制限されると述べ、以下の (44a)、(45a) の例を挙げている。また文 (44b)、 (45b) のようにモンゴル語においても動詞 bai-、 hevt- は同じく進行形が容認され、結果状態を重視する。

(44) a.Your drink *is sitting* on the table. (Smith1991:97)

b.Chinii uuh yum chin` shireen deer *baij baina*.

(45) a.Some money *is lying* on the street.

b.Gudamjind möngö *hevtej baina*.

Dowty (1991:174-175) によるとこの種の述語の進行形には主語による制限があり、多くの場合主語が移動できるものを意味するかできないものを意味するかによりその区別が説明されている。つまり上記の文 (44a)、(45a)のように主語が移動できるものを意味する時には進行形になり、以下の文 (46a)、(47a) のように移動できないものを意味する時には進行形にならない。モンゴル語の場合も(44b)、(45b)、(46b)、(47b)に見られるように同様のことが言える。

(46) a.*New Orleans *is lying* at the mouth of the Missippi River.

b.*N`yu Orleans Misipi golyin amand *orshij baina*. (Dowty 1991:174)

(47) a.*John’s house *is sitting* at the top of a hill. （Dowty 1991:174）

b.*Jonnyi baishin tolgoin oroi deer *baij baina*.

しかしHuddleston and Pullum (2002:171) によると以下の文 (48a) のように、特に物語において移動できない永続する位置を進行形で表す例もあり、限定的な継続という特徴は客観的な状態そのものよりその場面での語り手の経験を反映していると説明されている。

(48) a.We reached the knoll and the peak *was standing* majestically above the glacier.

b.Bid tolgoin oroi deer garahad orgil mösön golyin deer sürleghen argagüi *sünderlej bailaa*.

Dowty (1991:175) によると以下の文 (49a) 、(50a) のように flow、run、enter などの動詞は位置を表す意味で用いられ、比較的永続的な状態を表す時には進行形にできないと述べている。この場合モンゴル語においては進行形が容認される。

(49) a.*The river *is flowing* through the center of town.

b.Gol hotyin tövöör *ursaj baina*.

(50) a.*The highway *is running* past the farm.

b.Hurdnyi zam fermiin hajuugaar <u>*öngörch baina*</u>.

位置、所在の意味を表す動詞述語に関しては、英語及びモンゴル語両方とも進行形を容認したり、しなかったりと様々であるのが分かる。「結果状態」の意味を表すことができる点が共通している。また、主語が移動できないものを意味する時進行形にならない点においてはある程度共通であると言える。

7.2.1.4. 所有述語と両言語の進行形

この種の述語としては belong to、concern、 consist of、 own、resemble、cost、depend on などがある。

以下の文 (51b) のようにモンゴル語においては進行形が容認できるのに対し、文 (51a) のように英語においては容認できない例もある。

(51) a. He told Dumbledore everything except that Mr. Weasley <u>*owned*</u> the bewitched car.

b. Noyon Viizli ter mashinyig <u>*ezemshij baisan*</u> gedgees busdyig Dambldort hüürnev. (Rowling 1998)

Leech (1971、および Kunihiro 訳 1976:45-46) は、英語においてこの種の動詞に more and more のような表現が伴われた場合には進行形を取ることができると述べ、以下の文 (52a) のような例を挙げている。

(52) a.He <u>*is resembling*</u> his father more and more as the years go by.

b.Ter jilees jild aavtaigaa ih <u>*adilhan bolj baigaa*</u>.

状態述語に関しては、状態場面タイプの基本的なレベル述語 3 種類、それに加えて所有述語の計 4 種類の述語それぞれを考察した結果、英語においては状態述語に進行形を用いる際に一方では進行形が許され、他方では許されないという様々な条件や制限があるのに対し、モンゴル語においては人、物、概念の具体的および抽象的な特性を表す述語および位置、所在の意味を表す動詞述語を除きそのような制限がなく、一様に進行形が容認される。両言語とも状態述語においては「状態」及び 「結果状態」の意味を表す。

7.2.2. 活動述語と両言語の進行形

活動述語は動作に一定の持続性があり、動的で進行形の典型的タイプであると言える。活動は身体あるいは精神的な活動に関連する過程であり、過程(process) に含まれている。Smith (1991:46)によると活動には主に 3 つの種類がある。

1.一つ目は原則的に**際限なく進行している過程に関連する活動**である。例えば、the child sleep、

push a cart、laugh、think about。

(53) a.The child *was sleeping*.

b.Hüü *untaj baisan*.

2.二つ目は**数えられない内部段階がある活動**である。例えば、eat cherries。

(54) a.I *am eating* cherries.

b.Bi intoor *idej baina*.

3.三つ目は、**出来事により成り立つ明らかな内部段階がある複合的な活動**である。例えば、the wheel revolve.

(55) a.The wheel *is revolving*.

b.Dugui *ergej baina*.

活動述語に関しては、両言語とも制限がなく、進行形が自由に用いられており、出来事の「進行」の意味を表す。

7.2.3. 達成述語と両言語の進行形

達成述語は活動述語と同じように動作に一定の持続性があり、動的なので、進行形と相性がいい。両言語とも以下の文 (56a, b) のように「～しているところ」という出来事の進行を表す。

(56) a. Mary *was walking* to school. (Smith1991:5)

b. Meri surguul` ruu *yavj baisan*.

しかし、Song (1997:382-388) は動詞の限界性 (telicity) の観点から韓国語、モンゴル語、英語の進行形の共通点および相違点を論じ、英語とモンゴル語では限界性を持っている他動詞、自動詞の両方とも文 (57a, b)、(58a, b) のように「～しているところ」という進行の意味かそれとも「もう～している」という結果状態の意味を表し、その意味が曖昧になることを主張している。

(57) a. John *is bending* his head. (Song 1997:387)

b. Jonn tolgoigoo *tongoilgoj baina*.

(58) a. John *is sitting* in the chair. (Song1997:387)

b. Bat *suuj baina*. (Song 1997:386)

さらに、Song (1997) は上記の進行性を表わす場合と結果性を表わす場合の両方が存在することに関して、その違いを動詞の語彙的意味によるものとし、限界動詞には終了限界後の結果状態を含意するものとしないものがあると主張し、ある言語においてその 2 つの異なる段階を表す個々の動詞が存在すると述べている。例えば、以下の文 (59c) のようにモンゴル語においては動詞 öms-は進行性および終了限界後の結果状態の両方を表すのに対し、英語においては (59a,

b) のように、それに対応する 2 つの動詞 wear、put on があり、wear は終了限界後の結果状態のみを表し、put on は進行性のみを表す。

(59) a.He *<u>is wearing</u>* a sweater.

b.He *<u>is putting on</u>* a sweater.

c. Ter nooson tsamts *<u>ömsöj baina</u>*.

以下の(60a, b) のように英語においては進行形になり終了限界後の結果状態を表すが、モンゴル語においては進行形で表さない場合もある。

(60) a.He *<u>was wearing</u>* long green *<u>robes</u>*, which were dusty and travel-worn. (Rowling 1998)

b.Baingyin yavdald toosond daragdaj, ürchiisen nogoon *<u>nömrögtei baiv</u>*.

達成述語に関しては、両言語とも進行形が容認され、「進行」及び 「結果状態」の意味を表す。

7.2.4. 一回的な動作述語と両言語の進行形

この種の動詞は、あまりにも瞬間的で持続性があるとは考えにくい出来事に用いられる。その結果、ものごとに継続性を与える進行形を用いると、「単一の出来事」ではなく、「一連の出来事」を想起させる。以下の文 (61a, b) のように両言語共に「一連の出来事」が表される。

(61) a.Bill *<u>was knocking</u>* at the door.

b.Bill haalga *<u>togshij baisan</u>*.

しかし以下の文 (62a, b) のように英語においては「一連の出来事」が表わされるが、モンゴル語においては「単一の出来事」か「一連の出来事」か曖昧になる例もある。

(62) a.John *<u>was coughing</u>*.

b.Jonn *<u>haniaj baisan.</u>*

また、以下の文 (63a) のように英語においては「一連の出来事」が表されるのに対し、(63b) のようにモンゴル語においては「単一の出来事」が表わされ、「一連の出来事」が表せない例もある。

(63) a.John *<u>was nodding</u>* his head. (Quirk et.al. 1985:208)

b.Jonn tolgoi *<u>dohij baisan</u>*.

さらに、以下の文 (64b) のようにモンゴル語において目的語が複数形であれば 「一連の出来事」の意味が表される例もある。

(64) a.John was nodding to everybody.

b.Jonn hün bolgon luu tolgoi <u>dohij baisan</u>.

以下の文 (65a, b) のように英語及びモンゴル語において共起する文脈によっては単一の出来事の意味を表す例もある。

(65) a.The man *was jumping* off the bus when the policeman caught him.

b.Ter hüniig avtobusnaas *üserch baihad ni* tsagdaa barij avlaa.

一回的な動作述語に関しては、両言語とも進行形が容認される。ただし、その場合進行の意味ではなく、「一連の出来事」の意味つまり「反復」の意味を表す。また、両言語とも「反復」の意味を表さず、「単一の出来事」の意味を表す場合もある。

7.2.5. 到達述語と両言語の進行形

ある状態への移行を示す到達述語を進行形で用いた場合、英語及びモンゴル語両方とも以下の文 (66a, b)～(68a, b)のように移行そのものよりはむしろ移行への「接近」つまり出来事の内部段階から到達点の瞬間に至るまでの出来事の前置きの段階に重点が置かれ、「まさに～しようとしている」の意味を表す。

(66) a.Algernon *is reaching* the top. (Smith 1991:97)

b.Aljernon orgild *hürch baina*.

(67) a.Mary *is winning* the race.

b.Meri uraldaand *türüülj baina*.

(68) a.We *are solving* the problem.

b.Bid asuudlyig *shiidej baina*.

しかし、以下の文 (69a, b) のように両言語とも瞬間的な意味を表していることにより進行形を容認できない例もあるのに対し、以下の文 (70a, b) のように両言語において共起する他の文要素（目的語、主語など）によっては進行形が使える場合もあり、その場合「反復」の意味を表す。

(69) a.*I'*m finding* my watch.

b.*Bi tsagaa *olj baina*.

(70) a.I'*m finding* *a lot of* *watches*.

b.Bi *olon tsag* *olj baina*.

しかし以下の文 (71a, b) のように英語において進行形を用いないのに対し、モンゴル語において用いる場合もあり、その場合「結果状態」の意味を表す。

(71) a.*I *was recognising* her. (Huddleston and Pullum 2002:121)

b.Bi tüüniig *tanij baisan*.

到達述語に関しては、両言語において進行形を容認できる及びできない場合があり、容認できる場合に関しては、「進行」の意味ではなく、出来事の終点に接近しているという「前置きの段階」の意味、「反復」、「結果状態」の意味がそれぞれ表される。

7.3. まとめ

以上、英語及びモンゴル語の進行形と語彙アスペクトとの共起性および表す意味を比較対照し、類似点および相違点を見てきた。英語及びモンゴル語の進行形と語彙アスペクトとの共起性を考察した結果として以下の点が指摘できる。
1）状態述語に関しては、英語においては進行形を用いる際に様々な条件や制限があるのに対し、モンゴル語においてはそのような制限がなく、進行形が容認される。両言語とも出来事の「状態」、「結果状態」の意味を表す。
2）活動述語に関しては、両言語とも制限がなく、自由に用いられており、出来事の「進行」の意味を表す。
3）達成述語に関しては、両言語とも進行形が容認され、「進行」及び「結果状態」の意味を表す。
4）一回的な動作述語に関しては、両言語とも進行形が容認される。ただし、進行の意味ではなく、「反復」つまり「一連の出来事」の意味を表す。また両言語とも「反復」の意味を表さず、「単一の出来事」の意味を表す場合もある。
5）到達述語に関しては、両言語において進行形を容認できるおよびできない述語があり、容認できる述語に関しては、進行の意味ではなく、出来事の終点に接近しているという「前置きの段階」、「反復」、「結果状態」の意味を表す。
以上を表 3 にまとめると次のようになる。

表 3. 英語およびモンゴル語における語彙アスペクトと進行形の共起性およびその表す意味

述語種類			英語の進行形	モンゴル語の進行形
状態述語	基本的なレベル述語	下位分類		
	私的述語	知的状態	△状態	○状態
		感情或は判断状態	△状態	○状態
		知覚状態	△状態	○状態
		身体感覚状態	△状態	○状態

<table>
<tr><td rowspan="4"></td><td rowspan="2">人、物、概念の具体的および抽象的な特性を表す述語</td><td>個性的なレベル述語</td><td>△状態</td><td>×</td></tr>
<tr><td>段階的なレベル述語</td><td>△状態</td><td>△状態</td></tr>
<tr><td>位置、所在の意味を表す動詞述語</td><td></td><td>△状態、結果状態</td><td>○状態／結果状態</td></tr>
<tr><td>所有述語</td><td></td><td>△状態</td><td>○状態</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動述語</td><td>○進行</td><td>○進行</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="5">達成述語</td><td>ケース(1)</td><td>○進行</td><td>○進行</td></tr>
<tr><td>ケース(2)</td><td>○進行／結果状態</td><td>○進行／結果状態</td></tr>
<tr><td>ケース(3)</td><td>○結果状態</td><td>○進行／結果状態</td></tr>
<tr><td>ケース(4)</td><td>○進行</td><td>○進行／結果状態</td></tr>
<tr><td>ケース(5)</td><td>○結果状態</td><td>×</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="4">一回的な動作述語</td><td>ケース(1)</td><td>○反復</td><td>○反復</td></tr>
<tr><td>ケース(2)</td><td>○反復</td><td>○単一の出来事／反復</td></tr>
<tr><td>ケース(3)</td><td>○反復</td><td>○単一の出来事</td></tr>
<tr><td>ケース(4)</td><td>○単一の出来事</td><td>○単一の出来事</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="4">到達述語</td><td>ケース(1)</td><td>○前置きの段階</td><td>○前置きの段階</td></tr>
<tr><td>ケース(2)</td><td>×</td><td>×</td></tr>
<tr><td>ケース(3)</td><td>○反復</td><td>○反復</td></tr>
<tr><td>ケース(4)</td><td>×</td><td>○結果状態</td></tr>
</table>

（○—進行形を容認する、×—進行形を容認しない、　△—進行形を容認できるおよびできない場合がある）

第八章

結論

本論文では、英語およびモンゴル語における時制およびアスペクトを表す形態論的手段としての屈折的表現、派生的表現および統語論的手段としての自由文法的形態素および統語的表現、文法的範疇としての英語の単純過去形 (-ed/-d) とそれに対応するモンゴル語の形式および表現、英語の単純現在形 (-φ/-s)とそれに対応するモンゴル語の単純非過去形 (-na)、英語の進行アスペクト形式(be V+ing) とそれに対応するモンゴル語の進行アスペクト形式 (V+j/ch bai-) をそれぞれ研究対象として扱い、両言語における上記の諸形式を意味論、語用論、統語論の立場から考察し、両言語の類似点と相違点を明らかにした。

第四章では、Bybee (1985) によりセマンティック要素が結合可能と指摘されている、語彙的表現 (lexical expression)、屈折的表現 (inflectional expression)、派生的表現 (derivational expression)、自由文法的形態素 (free grammatical morphemes)、統語的表現 (syntactic expression)、これら 5 つの手段の区別に基づいて、形態論的手段としての屈折的表現、派生的表現および統語論的手段としての自由文法的形態素および統語的表現に焦点を当て、両言語において時制、アスペクト形式はどの手段により表されているか、またどのようなアスペクト的意味を表すか、どのような形で相互に共通であったり、異なったりするかを明らかにした。

テンス形式に関しては、両言語は、過去／非過去の対立を成し、英語においては過去時制及び現在時制が存在するのに対し、モンゴル語においては過去時制および非過去時制が存在し、両言語とも屈折的表現により表される。

アスペクトに関しては、英語においては屈折的表現、自由文法的形態素および統語的表現により表されるのに対し、モンゴル語においては派生的表現、屈折的表現、自由文法的形態素、統語的表現の全てにより表される。

両言語におけるアスペクトを表す形態論的手段に関しては、英語においてはアスペクト的意味は、屈折的表現つまり時制屈折接尾辞により表され、完結、習慣の意味を表す。これに対し、モンゴル語においては、屈折的表現（屈折接尾辞）つまり時制屈折接尾辞、アスペクト屈折接尾辞、

動名詞語尾、および派生的表現つまりアスペクト派生接尾辞により表される。この屈折的表現（屈折接尾辞）により完了、一時的、暫時、習慣、反復、進行、不完結、完結の意味が表され、派生的表現によっては反復、継続、暫時の意味が表される。

アスペクトを表す統語論的手段に関しては、両言語とも、自由文法的形態素および統語的表現をもっている。英語においては、主動詞と補助動詞の組み合わせ形式、主動詞と不変化詞の組み合わせ形式および接続詞 and による動詞の繰り返しあるいはアスペクトを表す不変化詞の繰り返しの 4 つ、モンゴル語においては主動詞と補助動詞の組み合わせ形式および動詞の語幹あるいは連用語尾により形成された動詞の繰り返しの 2 つがこの機能を担っている。

自由文法的形態素については、英語では、完了、進行、結果状態、状態、反復、前置きの段階性、習慣、継続、進行習慣（過去のみ）の意味が表されるのに対し、モンゴル語では、進行、完了、結果状態、状態、反復、前置きの段階性、習慣、継続、継続習慣、完了習慣、反復習慣、継続進行、完了進行、進行習慣、結果状態習慣の意味が表される。

統語的表現については、英語では、主動詞と補助動詞の組み合わせ形式により習慣（過去のみ）、出来事の始点、継続、終点、習慣の意味が表され、動詞と不変化詞との組み合わせ形式により始点、終点、継続、瞬間的、完成の意味が表される。接続詞 and による動詞の繰り返しによっては反復、継続の意味が、アスペクトを表す不変化詞の繰り返しにより継続の意味がそれぞれ表される。これに対し、モンゴル語では、主動詞と補助動詞の組み合わせ形式により出来事の始点、継続、終点の意味が表され、動詞の繰り返しにより継続、反復が表される。

最後に、類似点として以下の点を指摘した。すなわち、時制が過去対非過去の対立をなす点、時制が屈折的表現により表される点、明確な完結対不完結の対立を持たない点、アスペクト的意味も時制形式も表す点、動詞と補助動詞の組み合わせにより局相アスペクトを表す点、複合的アスペクト形式を持っている点、動詞の繰り返しによりアスペクト的意味を表す点の 7 点である。

第五章では、物語の〈はなしあい〉の文における英語の単純過去形 (-ed/-d) はモンゴル語において単純過去形 (-v、-laa、-jee/-chee) のみではなく単純非過去形 (-na)、アスペクト形式、動名詞語尾、連用語尾、ムード及びモダリティ形式、動詞を持たない文及び節に対応することを明らかにした。また、英語の単純過去形 (-ed/-d) は過去の状態・動作・出来事を表すという用法の場合のみモンゴル語の過去形 (-v、-laa、-jee/-chee) に対応し、他の用法においては対応しないことを明らかにした。

最後に、英語の単純過去形とそれに対応するモンゴル語の形式および表現における対応のずれに関わる主な要因として、1.モンゴル語の歴史的現在用法、2.話者の視点に関わる相違、3.両言語における語彙的アスペクトと進行形の相互作用、4.従属関係 (hypotaxis) と並列関係 (parataxis) に関わる相違、5.英語の単純過去形の用法、6.モンゴル語の現在習慣形の用法、7.モンゴル語の過去進行形の用法の 7 つを挙げた。

また、本章では、物語の〈はなしあい〉の文におけるモンゴル語の単純過去形 (-v、-laa、-jee/-chee) の英語に対応する形式および表現にも触れた。モンゴル語の単純過去形 (-v、-laa、-jee/-chee) は英語のテンス形式、未来時を表す形式、アスペクト形式、ムードおよびモダリティ形式、付加疑問語句、不定詞、動詞を持たない文及び節に対応することが明らかとなった。さらに、物語の〈はなしあい〉の文におけるモンゴル語の単純過去形 (-v、-laa、-jee/-chee) に対応する英語の形式及び表現の中では英語の単純現在形、現在完了形が対応率が高いことが判明した。最後に、モンゴル語の単純過去形 (-v、-laa、-jee/-chee)とそれに対応する英語の形式および表現における対応のずれに関わる主な要因として、1.モンゴル語の過去時制形式の語用論的推論によるもの、2.英語の現在時制の瞬間的用法によるもの、3.英語の現在時制の歴史的現在用法によるもの、4.モンゴル語の単純過去形(-v、-laa、 -jee/-chee) のムードおよびモーダル的意味を表す用法によるもの、5. モンゴル語の単純過去形 (-v、-laa 、-jee/-chee) の未来の出来事を表す用法によるもの、6.モンゴル語の単純過去形(-laa) が用いられる仮定法の用法によるものの 6 つを挙げた。

最後に全体として、物語の〈はなしあい〉の文における両言語の単純過去形の対応関係におけるずれは、1.話者の視点、2.語用論的推論、3.文法的アスペクトと語彙アスペクトとの共起性、4.従属関係 (hypotaxis) 及び並列関係 (parataxis) の概念、5.周辺的用法の 5 つによるものであると主張した。

第六章では、英語の単純現在形 (φ/-s) 及びモンゴル語の単純非過去形 (-na) の意味・用法を、1.現在状態的用法、2.現在瞬間的用法、3.現在習慣および反復的用法、4.指図を与える用法、5.未来時に言及する用法、6.過去時に言及する用法、7.モンゴル語の単純非過去形 (-na) の進行的用法の7つに分けて考察し、そのずれに着目した。

両言語の現在状態的用法においては英語の単純現在形に対応するモンゴル語の2つの形式（単純非過去形 (-na) および現在習慣の意味を表す動名詞語尾(-dag) ）があり、この2つの形式が一定の特殊な表現（諺、早口言葉）の場合、狭い文脈において、すなわち単純非過去形 (-na) を付加すると

現在の状態に言及せず未来時に言及する動詞の場合を除いては自由に交替し、用いることが可能である。英語の単純現在形 (φ/-s) 及びモンゴル語の単純非過去形 (-na) は両方とも発話時を含めて過去および未来に向かってゆく状態に言及する用法を持っているが、英語の単純現在形 (φ/-s)に比べてモンゴル語の単純非過去形 (-na) の方が制限が強いことを主張した。

英語と異なりモンゴル語では、この現時点および発話時と同時に起こる出来事を表す瞬間的用法においては単純非過去形 (-na) はあまり用いられない。実演解説および自己実況解説用法においてのみ単純非過去形 (-na) が用いられ、他の 4 種類の場面においてはモンゴル語の単純過去形 (-laa)、現在進行形、願望語尾 (-ya) などが現れる。この瞬間的出来事がモンゴル語においては殆どの場合発話直前にすでに完了している、発話時において進行している、発話直後に伸びてゆく出来事として表されていることが判明した。

英語においては、現在習慣を表すのが単純現在形 (φ/-s) のみであるのに対し、モンゴル語には現在習慣を表す動名詞語尾 (-dag) と単純非過去形 (-na) の2つがあり、前者の方が反復を表す副詞がなくてもまた文脈を考慮しなくても習慣の意味を表しているのかという点について曖昧になるということがないため制限なく頻繁に用いられることを明らかにした。

指図を与える用法においては、モンゴル語の単純非過去形 (-na) は取扱説明書においては交替する形式がなく単独で用いられ、話し言葉においては勧告語尾 (-aarai)、命令形、連用語尾なども用いられているために制限がある。またモンゴル語の単純非過去形 (-na) は法令の条文、様々な規程においてもしばしば用いられることを主張した。

英語の単純現在形 (φ/-s) は未来時に言及する場合変更不可能と見なされる計画・取り決めに用いられるという制限があるのに対し、モンゴル語の単純非過去形 (-na) の用法においてはそのような制限はないが、差し迫った出来事においては英語の単純現在形 (φ/-s) は用いられないのに対し、モンゴル語の単純非過去形 (-na) は用いられたり用いられなかったりする。さらに英語の単純現在形 (φ/-s) は条件節及び未来時を表す時間的副詞節および条件節、関係節、that 節、wh 節に用いられるのに対し、原則としてモンゴル語の単純非過去形 (-na) は引用文および hope、think、knowなどの動詞の補部としての従属節以外の従属節（条件節、時間的副詞節、関係節など）においては現れないことを明らかにした。

モンゴル語においては歴史的現在としての単純非過去形 (-na) は日常の話し言葉における歴史的現在用法の過去時制で始まる語り体において背景（状態、習慣）を表し、情報伝達動詞としての不完全動詞 ge- および過去形 -leeと共起する場合のみにしか用いられず、書き言葉における歴史現在的用法および虚構的用法の内の書き言葉における虚構的用法においては物語の地の文における背景（状態、進行、習慣）を表す場合のみにおいて、また劇等のト書きにおいて用いられるのに対し、英語の単純現在形 (φ/-s) は日常の話し言葉における歴史的現在用法の過去時制で始まる語り体において前景、背景（状態、習慣）の両方を表し、書き言葉における虚構的用法としての物語の地の文においても前景、背景（状態、習慣）の両方を表すのに用いられる。書き言葉における歴史的現在用法においてはモンゴル語の単純非過去形 (-na) は用いられない。英語及びモンゴル語においては発話時に起こる進行的な出来事を現在進行形により表すが、モンゴル語において単純非過去形 (-na) により表す場合もあり、この用法には、1.肯定文において、2.特別疑問文においての2つの場合があることを指摘した。

最後に、英語の単純現在形 (φ/-s) およびモンゴル語の単純非過去形 (-na) は完結、非完結の意味に区分できる 1.現在状態的用法、2.現在瞬間的用法、3.現在習慣および反復的用法、4. 進行的用法（モンゴル語のみ）、5. 指図を与える用法、6.未来時に言及する用法、7.過去時に言及する用法を持っており互いにかなり似通っていること、さらに、過去時、現在時、未来時 3つに言及する点において共通であることを明らかにした。一方、用法ごとに詳細に考察すると異なる点も多くあることを主張した。

第七章では、英語とモンゴル語の進行アスペクト形式を扱い、語彙アスペクトとの共起性およびその表す意味を考察し、類似点および相違点を明らかにした。

状態述語に関しては、状態場面タイプの基本的なレベル述語 3 種類、それに加えて所有述語の計 4 種類の述語それぞれを考察した結果、英語においては状態述語に進行形を用いる際に、一方では進行形が許され他方では許されないという様々な条件や制限があるのに対し、モンゴル語においては人、物、概念の具体的および抽象的な特性を表す述語および位置、所在の意味を表す動詞述語を除きそのような制限がなく、進行形が容認される。そして両言語とも状態述語において「状態」 及び 「結果状態」の意味を表すことを指摘した。

活動述語に関しては、両言語とも制限がなく、進行形が自由に用いられており、出来事の「進行」の意味を表すことを主張した。

達成述語に関しては、両言語とも進行形が容認され、「進行」及び「結果状態」の意味を表すことを指摘した。

一回的な動作述語に関しては、両言語とも進行形が容認される。ただし、その場合「進行」の意味ではなく、「一連の出来事」の意味つまり「反復」の意味を表す。一方、両言語とも「反復」の意味を表さず、「単一の出来事」の意味を表す場合もあることを指摘した。

到達述語に関しては、両言語において進行形を容認できる場合とできない場合があり、容認できる場合に関しては、「進行」の意味ではなく、出来事の終点に接近しているという「前置きの段階」の意味、「反復」、「結果状態」の意味のそれぞれを表すことを指摘した。

最後に総括すると、本論文で扱ったテンス、アスペクトを表す形式および表現を詳細に考察した場合、英語とモンゴル語にはもちろん相違点が数多く存在することが明らかである一方、異なる語族に属し互いに文法構造が異なるといえども、類似点もあることが明らかになった。本論文では、両言語におけるテンス、アスペクト形式のごく僅かの部分が比較対照されているに過ぎない。従って、これからも両言語の更なる比較対照研究を継続して行う必要があると考えられる。

参考文献

Абэмацу, Г. (1961) “Одоогийн халх монгол хэлний үйл үгийн өнгөрсөн цагийг заах дагаварыг судалсан нь” , Олон улсын монгол бичгийн эрдэмтний анхдугаар их хурал 1-р дэвтэр.,УБ.

安藤貞雄. (1996)『英語学の視点』開拓社.

安藤貞雄. (2005)『現代英語文法講義』開拓社.

Bache, C. (1997) *The Study of Aspect, Tense and Action. Towards a Theory of the Semantics of Grammatical Categories*. 2nd revised edition. Frankfurt/Main: Lang.

Бадан, Г. (1989) “Категория времени в современном монгольском литературном языке”, Wydawnictwa Uniwersytetu Warszawskiego Warszawa.

Baek, Eung-Jin. (1986) Tense and aspect in Korean and Mongolian. University of Toronto. DOI: 10.1075/kl.4.06ejb. In: *Korean Linguistics* 4, pp. 61–74.

Балдан, Л. (1988) “Орчин цагийн монгол хэлний цаг заах үйл үгийн найруулгын үүрэг” Хэл зохиол судлал., БНМАУ-ын ШУА , Хэл зохиолын хүрээлэн XII боть., УБ.

Батбаяр, Д. (1984) “Цахилж яваа гөрөөс”. *The flying deer*. trans:by Ganga Vanchindorj 2006.

Батчулуун, Д. (1997) “Выражение наличного результата прошедшего действия в монгольском, русском и английском языках”. Природные условия, история и культура западной монголия и сопредельных регионов. Тезисы докладов III международной научный конференсий (24-26 Сентября 1997г, г-Ховд Монголия). Томск.

Bauer, G. (1970) The English perfect reconsidered. *Journal of Linguistics 6*, pp.189-198.

Бертагаев, Т.А. (1964) “Синтаксис современного монгольского языка в сравнительном освещений простое предложение”, Издательство Наука, Москва.

Biber, Douglas., et. al. (1999) *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Pearson Education Ltd.

Bickel, B. and Nichols, J. (2005) Inflectional synthesis of the verb. In Martin Haspelmath et.al (eds) (2005) *The World Atlas of Language Structures* Oxford University Press.

Binnick, R. I. (1978) On the Underlying Tense of Deverbatives. *Language* 54, number 2, pp 289-299

Binnick, R. I. (1979) Past and Perfect in Modern Mongolian. In Henry G. Schwartz (ed.), *Studies on Mongolia : Proceedings of the First North American Conference on Mongolian Studies*. pp. 1-13, Bellingham: Western Washington University.

Binnick, R.I. (1979) *Modern Mongolian A Transformational Syntax*. University of Toronto Press.

Binnick, R.I. (1990) On the Pragmatic Differentiation of the Mongolian Past tenses. *Mongolian studies* 13, pp. 47-56

Binnick, R.I. (1991) *Time and the verb: A Guide to Tense and Aspect*. Oxford University press, New York.

Binnick, R. I. (2012) *The Past Tenses of the Mongolian Verb Meaning and use*. Koninklijke Brill NV,

Leiden, The Netherlands.

Бобровников, А. (1849) “Грамматика монгольско- кальмыцкого языка” , Казань.

Boldbaatar, D. (2010) “English Mongolian Dictionary” , UB.

Bolinger, D. (1971) *The phrasal verb in English*. Harvard University press. Cambridge, MA.

Bosson, James. E. (1964) Modern Mongolian A primer and reader Indiana university publications, *Uralic and Altaic series volume38.* Indiana University, Bloomington.Netherlands.

Brinton, L.J. (1988) *The Development of English Aspectual Systems: Aspectualizers and post verbal particles*. Cambridge: Cambridge University Press. New York.

Brosig, Benjamin. (2009)The Function of the Suffix *–na* in Khalkha Mongolian. *Altai Hakpo* 19, pp.87-112. The Altaic Society of Korea.

Брозиг, Беньямин (Benjamin Brosig). (2012) “Билээ” сул үгийн утга, хэрэглээ (The meaning and usage of the particle “bilee”). Хэл зохиол судлал V (37), pp.10-18.

Bruce, Nigel. (1981) *My beloved swallows and other childrens stories from Mongolia*., UB.

Bybee, Joan L. (1985) *Morphology: a study of the relation between meaning and form*. Amsterdam; Benjamins.

Bybee, J., Perkins, R. and Pagliuca,W. (1994) *The evolution of grammar, tense aspect and modality in the languages of the world*.Chicago: University of Chicago Press.

Bybee, Joan L. and Östen Dahl. (1989) The creation of tense and aspect systems in the languages of the world. *Studies in language* ,13-1, pp. 51-103.

Calver, Edward. (1946) The uses of the present tense forms in English. *Language* 22, pp. 317-325.

Carlson, Greg. (1977) A Unified Analysis of the English Bare Plural. *Linguistics and Philosophy* 1.3, pp. 413-456.

Carlson, Lauri. (1981) Aspect and quantification. In Tedeschi, P., and Zaenen, A. (ed) *Syntax and Semantics 14: Tense and Aspect*., pp.31-64. , New York: Academic press.

Chafe, Wallace L. (1970)*Meaning and the structure of language*. Chicago and London: The University of Chicago Press, pp.95-104.

Chase, J. H. (1959) *What’s better than money.* “Мөнгө шиг сайхан юм юу байна?” Орчуулга : П. Чойжил, УБ., 1995 он.

Chaolu, Wu. (1995) Mongolian Past Tense Markers and their Usage., *Mongolian Studies* 18, pp.85-112.

Chaolu, Wu. (1996) A survey of tense suffixes in Mongolian languages *Central asiatic journal : International periodical for the languages , literature , History and Archaelogy of central Asia* 40, Harrassowitz Verlag ・Wiesbaden.

Chinggaltai. (1949) *A Grammar of the Mongol Language* Printed at the department for printing and distributing the Inner Mongolian Daily News; Kalgan, Chahar, Translated from the origonal Mongol for The Evangelical Allience Mission at Hong Kong 1951. Revised in 1952.

清格尔泰 /Chinggeltei/. (2010):〈现代蒙古语语法〉《清格尔泰文集（第 4 卷）》内蒙 古科学技术出版社.

Chuluu, Ujiediin. (1998) *Studies on Mongolian verb morphology*. Ph.D dissertation, Graduate Department of East Asian Studies University of Toronto.

Chung, S. and Timberlake, A. (1985) Tense, aspect, and mood. In T. Shopen (ed) *Language Typology and syntactic description III: grammatical categories and the lexicon*. Cambridge: Cambridge University Press, 202-258.

Comrie, Bernard. (1976) *Aspect:An introduction to the study of verbal aspect and related problems*. Cambridge:Cambridge University Press. （山田小枝訳 (1988) 『アスペクト』むぎ書房）.

Comrie, Bernard. (1985) *Tense*. Cambridge:Cambridge University Press.

Cowper, E. (1998) The simple present tense in English: A unified treatment. *Studia linguistica 52* (1), pp.1-18.

Curme, G.O. (1931) *Syntax*. , Boston (Heath).

Dahl, Östen. (1985)*Tense and aspect systems*.Oxford and New York :Basil Blackwell.

Dahl, Ö. and Velupillai, V. (2005) Tense and aspect. In Martin Haspelmath et.al (ed), (2005) *The World Atlas of Language Structures* ., Oxford University Press.

Declerck, R. (1991) *Tense in English Its structure and use in discourse*. London and New York Routledge.

デクラーク・レナート (1991)『現代英文法総論』安井稔訳(2011) 開拓社.

Declerck, R.et.al. (2006) *The grammar of the English Verb phrase Vol1:The Grammar of the English Tense System A comprehensive analysis*. Berlin and New York Mouton de Gruyter.

Dryer, M.S. (2005) Position of tense aspect affixes . In Martin Haspelmath et.al (ed), (2005) *The World Atlas of Language Structures* Oxford University Press.

Downing, A. and Locke, P. (2006) English Grammar a University course.Routledge, Taylor & Francis Group. London & New York.

Dowty, David Roach. (1972) *Studies in the Logic of Verb Aspect and Time reference in English* ., Ph.D dissertation,The University of Texas at Austin.

Dowty, David Roach. (1991) *Word meaning and Montague grammar:the semantics of verbs and times in generative semantics and in Montague`s PTQ*. Kluwer Academic publishers.Dordrecht The Netherlands.

Дугарова, Г. С (1985) “О семантике форм на –аад бай, и –ж орхи в современном монгольском языке”, Вестник ЛГУ. № 16, с. 115-118.

Дугарова, Г.С. (1991) “Глагольный вид в современном монгольском языке”. Новосибирск Наука Сибирское отделение.

Дэлгэрмаа, Х. (2009)『モンゴル語実践会話入門』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

Filip, H. (2012) Lexical aspect. In Binnick,R.I.(ed), (2012) *The Oxford Handbook of Tense and aspect* ., Oxford University Press, Oxford, New York, pp. 721-751.

Галсан, С. (1961) “Сопоставательная грамматика русского и монгольского языков”, УБ.

Garey, H.B. (1957) Verbal aspects in French. *Language*, 33, pp. 91-110.

Givon, T. (1991) Markedness in Grammar: distributional, communicative, and cognitive correlates of syntactic structure. *Studies in Language* 15-2, pp.335-370.

Givon, T. (2001) *Syntax: An Introduction. Vol. 1. Grammar, Comparative and General*. Amsterdam: Benjamins.

Gronbech, Kaare and Krueger, John R. (1955) *An introduction to classical (Literary) Mongolian.* Otto Harrassowitz ・Wiesbaden.

Gvozdanovič, Jadranka. (2012) Perfective and Imperfective.In Binnick, R.I.(ed.), (2012)*The Oxford Handbook of Tense and aspect* Oxford University Press, Oxford, New York, pp. 781-802.

Hans-Peter, Vietze. (1969) *Lehrbuch der mongolischen Sprache* . , VEB Verlag Enzyclopädie Leipzig.

橋瑞超. (1914)『蒙古語研究』光村印刷株式会社.

橋本邦彦. (1993a)「〈-san⁴ の意味論：1 つの形式と複数の意味の対応について〉」『室蘭工業大学研究報告文科編』VOL.43、49-94.

橋本邦彦. (1993b)「過去時の領域モンゴル語の過去形接尾辞の意味について」『言語研究』104、1-20.

橋本邦彦. (1995)「習慣相」『室蘭工業大学研究報告文科編第』45 号、35-67.

橋本勝. （監修）、谷博（編）(1993)『モンゴル語文法・講読』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

橋本勝. (2010)『ニューエクスプレスモンゴル語（CD 付）』白水社.

Hangin, John G. (1968) Basic course in Mongolian. John R. Krueger (ed) (1992) , *Uralic Altaic series vol 73*, Indiana University. Bloomington.

Hangin, John G. (1973) Intermediate Mongolian A textbook for Modern Mongolian., Indiana university *Uralic and Altaic series Volume 125.* The research institute for inner asian studies Indiana university, Bloomington.

Haan, Ferdinand de. (2005) Semantic distinctions of Evidentiality. In Martin Haspelmath et.al (ed), (2005) *The World Atlas of Language Structures* Oxford University Press.

Haan, Ferdinand de. (2012) Evidentiality and Mirativity.In Binnick, R. (ed), (2012) *The Oxford Handbook of Tense and aspect*. Oxford university press, New York.

Haspelmath, M. (1995) The converb as a cross-linguistically valid category. In Haspelmath and König *Converbs in Cross-linguistic Perspective:Structure and meaning of adverbial verb forms – Adverbial participles,gerunds-*. Berlin and New York: Mouton de Gruyter (1995) pp.1-55.

Hatcher, Anna Granville. (1951) The use of the progressive form in English: a new approach. *Language 27* pp.254-280.

Heger, K. (1967) Temporale deixis und Vorgangsquantität (“Aspect” und “Aktionsart”) in *Zeitschrift für romanische Philologie*, Bd. 83, pp.518-582. Tübingen.

Hewson, J. (2012) Tense. In Binnick, R.I.(ed) *The Oxford Handbook of Tense and aspect.*, Oxford University Press, Oxford, New York, pp. 507-535.

Hirtle, W.H. (1995) The simple form again: An analysis of direction-giving and related uses. *Journal of Pragmatics 24*, pp. 265-281.

Hopper, Paul J. (1982) *Tense–aspect*: *between semantics and pragmatics*. Typological studies in language1. Amsterdam and Philadelphia : John Benjamins.

Hornstein, N. (1977) Towards a theory of tense. *Linguistic Inquiry* 8, pp.521-557.

Hornstein, N. (1990) *As time goes by*. Cambridge, MA: MIT Press.

Huddleston, R.D. and Pullum, G.K. (2002) *Cambridge Grammar of the English Language.* Cambridge: Cambridge University press.

Huddleston R.D. and Pullum, G.K. (2005) *A student`s introduction to English grammar*. Cambridge university.

Huang, Lillian Meei-jin (1987) *Aspect: A general system and its manifestation in Mandarin Chinese*. PhD dissertation. Rice University, Houston, Texas.

フフバートル、B. (1993)『モンゴル語基礎文法』たおフォーラム.

池田哲郎. (2001)『アルタイ語の話』大学書林.

Jacobson, R. (1971) Shifters , Verbal Categories, and the Russian verb. In R. Jacobson, *Selected Writings 2: Word and language*. The Hague: Mouton, 130-147.

Jargal, Molomjamts. and Andrea, Csillaghy. (1998) *Introduzione Alla lingua Mongolia /Монгол хэлний оршил* /Università degu Studi Di Udine Dipartimento di Lingue e civiltà dell'Europa centro-orientale.

Jespersen, O. (1924) *The Philisophy of Grammar*. George Allen &Unwin LTD. London.

Jespersen, O. (1931) *A Modern English Grammar on historical Principles. Part IY*. George Allen &Unwin LTD. London.

Jespersen, O. (1933) *Essentials of English Grammar*. George Allen &Unwin LTD. London.

Jingang. (2008)「モンゴル語の動詞語尾-laa と-jee についてコーパスに基づく分析」日本言語学会大会第 137.

Joos, Martin. (1964) *The English verb: form and meanings*. Madison and Milwaukee: University of Wisconsin Press.

亀井孝・河野六郎・千野栄一. (1998)『言語学大辞典第 4 巻』　世界言語編（下-2）三省党.

Касьяненко, З.К. (1968) “Современный монгольский язык Учебное пособие”　Издательство

Ленинградского университета.

金岡秀郎.(2009)『リアルモンゴル語』「分かりやすい文法ナビ」明石書店.

柏野健次. (1999)『テンスとアスペクトの語法』開拓社.

Kenny, Anthony. (1963) *Action , Emotion, and Will*. London: Routledge and Kegan Paul.

金弘. (2011)「日英アスペクトの対照研究」、『日本言語文化 』第 18 輯 、韓国 日本言語文化 学会.

Klein, W. (1994) *Time in Language*. London: Routledge.

Kroeger, P.R. (2005) *Analyzing Grammar: An Introduction*. Cambridge University press.

Kruisinga, E. (1931) *A Handbook of Present -day English. 4 vols*. Groningen (Nordhoff).

Kruisinga, E. (1932) *A Handbook of Present -day English. 4 vols*. Groningen (Nordhoff).

工藤真由美. (1995)『アスペクト・テンス体系とテクスト現代日本語の時間の表現』ひつじ書房.

Kuryłovicz, Jerzy. (1964) *The inflectional categories of Indo-European*. Heidelberg: C . Winter.

Lapsangwangtan, Sh. (1963) *Grammar of the Mongol language*. Compiled by Chinggaltai., Frederick Ungar Publishing co. New York.

Leech, G.N. ([3]2004) *Meaning and the English verb.* Pearson Education Limited, Great Britain. （Kunihiro, T. 訳(1976)『意味と英語動詞』大修館書店）

Leech, G. and Svartik, J. (1994) *A communicative Grammar of English*. Longman Group Ltd. New York.

Лувсанвандан, Ш. (1951) “Монгол хэлний зүй дэд дэвтэр”. УБ.

Лувсанвандан, Ш., Болд, Л. (1985) “Монгол хэлнүүдийн харьцуулсан хэл зүй” . УБ хот.

Лувсанвандан, Ш. (1987) “Орчин цагийн монгол хэлний үг зүйн байгуулалт: Монгол хэлний үйл үгийн тогтолцоо”. БНМАУ-ын ШУА-ийн хэл зохиолын хүрээлэн УБДС-ийн Монгол хэлний тэнхим БНМАУ-ын Ардын боловсролын яамны сурах бичиг, сэтгүүлийн нэгдсэн редакцийн газар.

Lubsangdorji, Jugderiin. and Jaroslav, Vacek. (2004) *Colloquial Mongolian An introductory intensive course.* Charles university in Prague, Philosophical Faculty Institute of South and Central Asian Studies, Seminar on Mongolian studies.

Лхагваа, Б., Хашимото, М. (1989) “Монгол хэлний унших, ярих дадлагын хичээл”. Осака.

Lyons, J . (1968) *Introduction to theoretical linguistics* . Cambridge University press.

Mair, Christian. (2012) Progressive and Continuous Aspect. In Binnick, R.I.(ed.), (2012) *The Oxford Handbook of Tense and aspect.* pp. 803-827. Oxford Universit*y Press* Oxford New York.

Majewicz, Alfred F. (1985)*The grammatical category of aspect in Japanese and Polish in a comparative perspective: a typological approach*. Poznań:UAM.

Marchand, Hans. (1955) On a question of Aspect: A comparison between The Progressive form in English and that in Italian and Spanish,in *Studia Linguistica: revue de linguitique générale et compare/Swedish Council for Research in the Humanities and Social Sciences (HSFR)*. 9(1-2), pp 45-52.

松岡雄太. (2008)『モンゴル語のアスペクトに関する研究—満州語・朝鮮語との対照研究』九州大学言語学研九室.

松岡雄太. (2007) 「現代モンゴル語のアスペクトと動詞の限界性」『九州大学言語学論集 28』39-68、九州大学大学院人文科学研究院言語学研究室.

McCawley, James D. (1971) Tense and time reference in English. In Charles J. Fillmore and D. Terence Langendoen (eds.), *Studies in linguistic semantics*. pp 97-113. New York: Holt, Rinehart and Winston.

Millington-Ward, John. (1954) *The use of tenses in English* : *A new approach for intermediate students*. Longmans green and co ltd.

Mindt, Dieter. (2000) *An Empirical Grammar of the English Verb System*. Cornelsen Verlag, Berlin.

水野正規. (1996)「現代モンゴル語の過去の事実を指しえる動詞語尾について」日本言語学会 113 回大会予稿集.

Mourelatos, Alexander P.D. (1978) Events, processes and states. *Linguistics and Philisophy* 2, 415-434.

Nedjalkov, V.P. (1995) Some typological parameters of converbs. In Haspelmath and König *Converbs in Cross- linguistic Perspective:Structure and meaning of adverbial verb forms -Adverbial participles, gerunds-*. Berlin and New York:Mouton de Gruyter (1995), pp. 97-136.

Nelson, D., Davidson, T.T.L., Narantuya, Narmandakh, Nordby, J. (1998) Four past tense morphemes in Khalkha Mongol. *Leeds working papers in linguistics and phonetics No 6*, pp115-133, Department of linguistics and phonetics University of Leeds, Leeds LS2 9JT.

Neville, A. J. Whymant. (1926) *A Mongolian grammar: Outlining the Khalkha Mongolian with notes on the Buriat, Kalmuck, and Ordoss Mongolian* London Kegan Paul, Trench, Trubner & CO., LTD. Broadway House: 68-74 Carter Lane, e.c.

西山淳子. (2009) 「英語と日本語の過去形の語用論」立命館言語文化研究21巻2号、169-180.

小沢重男. (1963)『モンゴル語四週間』大学書林.

小沢重男. (1968)『モンゴル語の話』大学書林.

小沢重男. (1978)『モンゴル語と日本語』弘文堂.

小沢重男. (1987)『モンゴル語のテンスとアスペクト』学習院大学言語共同研究所紀要 10、16-21.

小沢重男. (1997)『蒙古語文語文法講義』大学書林.

Onions, C.T. (1932) *An advanced English syntax*. London. Kegan Paul, Trench, Trubner& Co.

Өнөрбаян, Ц. (1998) “Орчин цагийн монгол хэлний үгзүй” . УБ.

Palmer, F.R. (1974) *The English verb*. London. Longman.

Poutsma, N. (1904, 1926) *A grammar of late modern English. 5 vols*. Groningen,P. Noordhoff.

Poutsma, N. (1922) *Mood and Tense of the English verb*. Groningen (Noordhoff).

Поппе, Н.Н. (1931) “Практический учебник монгольского разговорного языках халхаское наречие”.

Издание Ленинградского Восточного Института имени А.С Енукидзе.
Поппе, Н.Н. (1940) “О частях речи в Монгольском языке Опыт классификаций”. Советского востоковедение Мировигоздув АМ ССР.
Poppe, Nikolaus. N. (1951) *Khalkha – Mongolische Grammatik mit bibliographie, sprachproben und glossar*. Franz Steiner Verlag GMBH. Wiesbaden.
Poppe, Nicholas.N . (1954) *Grammar of written Mongolian.* Otto Harrassowitz Wiesbaden
Poppe, Nicholas. N. (1970) *Mongolian language Handbook*. Center for applied linguistics.
Poppe, Nicholas,N. (1974) *Grammar of written Mongolian.* Porta linguarum orientalium herausgegeben von bertold spuler und hans wehr Neue serie I Otto harrassowitz・wiesbaden
Poppe, N. N. (1987) *Introduction to Mongolian Comparative Studies.* Helsinki Suomalais-Ugrilainen Seura.
Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartik. (1972a) *A Grammar of Contemporary English*. Longman Ltd Group. London.
Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartik. (1972b) *A Comperehensive Grammar of The English Language.* London: Longman.
Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartik. (1985) *A Grammar of Contemporary English.* London: Longman.
Ramstedt, G.J. (1902) *Uber die Konjugation des khalkha –Mongolischen* Relisingfors, Druckerei der finnischen litteraturegesellschaft.
Reichenbach, Hans. (1947) *Elements of symbolic logic New York*, The Free Press & London: Collier -Macmillan,287-298.
Ринчинэ, А.Р. (1952) “Учебник монгольского языка” . Издательство литературы на иностранных языках Москва.
Rowling, J.K. (1998) *Harry Potter and the Chamber of Secrets*. London: Bloomsbury. “Харри Поттер ба нууцат өрөө”. trans: Myandas, N., Batsoyombo, Ts., UB: NEPKO Publishing.
Руднев, А.Д. (1911) “Материале по говорамъ восточной монголий”. С-Петербургъ.
ルードネフ、ア・デ. (1919)『蒙古文典』 山口茂一訳 東京築地活版製造所.
Ryle, Gilbert. (1949) *The concept of Mind*. Barnes and Noble.
Sanders, Alan J.K.. and Bat-Ireedüi, Jantsangiin. (1999) *Colloquial Mongolian: The complete course for beginners* Routedge ,London and New York.
Санжеев, Г.Д. (1934) “Синтаксис монгольских языков Практическое пособие для переводчиков, востоковедных школ и самостоятельного изучения монгольских языков”. *Выпуск XIY* Издание НИАНКП
Санжеев, Г.Д. (1964) “Сравнительная грамматика монгольских языков”. Утверждено к печати Институтом народов Азий Академий наук СССР.
Sanzheev, G.D. (1973) *The Modern Mongolian language* Nauka publishing house Central department of

Oriental Literature Moscow trans by D.M. Segal.

Schibsbye, Knud. (1965) *A Modern English Grammar*. Oxford University Press. London.

Schmidt, I.J . (1831)Grammatik der mongolischen Sprache; verfasst. St.-Petersburg.

Schmidt, I.J . (1870) *Grammaire Mongole Traduite de I' Allemand et suivie d'Essais traduction Mongole* Par A.M.H. Rennes MDCCCLXX.

Шевернина, З. В. (1964) “О Синтетических временных формах изъявительного наклонения в современном монгольском литературном языке”. Кратные сообщения института народов Азий. Монголо-ведение тюркология.

Шевернина З.В. (1982) “Факультативны ли видовые формы глагола в монгольском языке” - Восточное языкознание: факультативность. М., с. 124-129.

Шевернина, З. В. (1985) “Аналитические глаголные формы в совершенных монгольских языках” Москва.

Шевернина З.В. (1986) “Грамматическая квалификация аспектуальных морфологических показателей монгольского глагола”. -Историко-культурные контакты народов алтайской языковой общности. Тезисы докладов 29 сессии Постоянной международной алтаистической конференции. Ташкент , сент. 2. Лингвистика. М., 1986, с. 128-130.

塩谷茂樹、E. プレブジャブ. (2002)『初級モンゴル語』大学書林 ISBN4-475-01851-X

塩谷茂樹、ヤマーフ バダムハンド. (2009)『モンゴル語文法問題集　初級・中級編』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. インフォテック.

塩谷茂樹・中嶋善輝. (2011) 『世界の言語シリーズ 3.　モンゴル語.　』大阪大学出版会.

Smith, Carlota S. (1981) Semantic and Syntactic Constraints on Temporal Interpretation., *Syntax and Semantics14*: *Tense and Aspect* , ed. by Philip Tedeschi and Annie Zaenen, 213-237, Academic Press, New York.

Smith, Carlota S. (1983) A theory of aspectual choice. *Language* 59-3,479-501

Smith, Carlota S. (1991)*The Parameter of Aspect*. Studies in linguistics and Philosophy 43. Dordrecht, Boston, and London: Kluwer Academic Publishers.

Song, Jae-Mog. (1995) Progressives in Korean and Khalkha Mongolian. In *SOAS working papers linguistics and phonetics* –Dept. of Phonetics and Linguistics, School of Oriental and African Studies, London University.

Song, Jae-mog. (1997) *Tense, Aspect and Modality in Khalkha Mongolian.* University of London. PhD dissertation.

Stowell, Tim. (2012) Syntax. In Binnick, R.I. (ed), (2012) *The Oxford Handbook of Tense and aspect.* pp.184-211, Oxford University Press, Oxford, New York.

Street, John C. (1963) *Khalkha structure.* Indiana University, Bloomington Mouton & CO., The Hague,The Netherlands.

Swantesson, Jan-Olof. (1991) Tense, Mood and Aspect Lund University, Dept, of linguistics, *Working papers* 38, pp.189-204.

Swart, Henriette De. (2012) Verbal aspect. In Binnick, R.I. (ed.), (2012) *The Oxford Handbook of Tense and aspect* . pp. 752-780, Oxford University Press, Oxford, New York.

Sweet, H. (1891) *A New English Grammar, Logical and Historical. 2 vols*. Oxford, Clarendon Press.

Sweet, H. (1898) *New English Grammar, part II Syntax*. Oxford: Clarendon Press.

Teschner, Richard V. and Evans, Eston E. (2007) *Analyzing the Grammar of English*. Gerorgetown University Press. Washington, D.C.

Timberlake, Alan. (1982) *Invariance and the syntax of Russian aspect*. In Paul, J. Hopper (ed.), 305-331.

Tobin, Yishai. (1993) *Aspect in the English Verb: Process and Result in Language*.Longman, London and New York.

Тодаева, Б.Х. (1951) “Грамматика современного монгольского языка Фонетика и морфология” . Академия Наук СССР Институт Востоковедения Москва.

Томтогтох, Г. (2009) “Хэл шинжлэлийн удиртгал” . УБ.

Төмөртогоо, Д. (2002) “Монгол хэл шинжлэлийн онол түүхийн асуудлууд”. УБ.

Цэгмид, С., Оюунцэцэг, Ж. (2011) “Монгол хэлний хураангуй лавлах”. Орчин цагийн монгол хэлний Үгзүй дэд дэвтэр., Боловсролын хүрээлэн, УВ хот, Соёмбо принтинг ХХК.

Tserenpil, D. and Kullmann, R. (2008) *Mongolian grammar* ., Admon Co., Ltd.

Twaddell, William Freeman. (1963) *The English verb auxiliaries* . Brown University press.

Vendler, Z. (1967) Verbs and times. In Z. Vendler, *Linguistics in philosophy*. Ithaca, New York:Cornell University Press. Pp97:121.

Verkuyl, Henk. (1972) *On the Compositional Nature of the Aspects.Foundations of Language Supplementary Series, Volume 15*.Dordrecht:Reidel.

Wada, Naomi. (2001) *Interpreting English Tenses: A compositional approach*. Kaitakusha Co., Ltd. Tokyo.

Williams, C. (2001) The progressive form and non-progressive form in English: the theory of susceptibility to change.*CAUCE A Journal of Philology and Pedagogy: Special Issue on Teaching and Learning Foreign Languages and Literatures* (edited by John McRae).Sevilla: Departamento de Didactica de la Lengua y la Literatura y Filologias Integradas, Universidad de Sevilla(in press).

Williams, C. (2002) Non -progressive aspect in English in commentaries and demonstrations using the present tense. *Journal of Pragmatics 34*, pp.1235-1256.

Яхонтова, Н.С. (1984) “Перфект в монгольском языке”. -Всесоюзная научная конференция, посвященная 100-летию со дня рождения ак. Б. Я. Владимирцова. Тезисы докладов. М., с. 91-93.

Яхонтова Н.С., Дугарова Г.С. (1983) “Результатив в монгольском языке”.-Типология Результативных конструкций. Л., с. 90-95.

山越康裕. (2012)『詳しくわかるモンゴル語文法』白水社.

山中元. (2006)『蒙古語入門ーシリア系文字と文法』国際語学社.

吉川千鶴子. (1995) 『動詞の文法/発想の違いから見た日本語と英語の構造/』くろしお出版.

Yule, G. (2004) *Explaining English Grammar*. Oxford University Press. New York.

Zandvoort , R., W. (1960) *A Handbook of English Grammar*. London. Lomgmans.

Žegarac, V. (1990) Pragmatics and verbal aspect. *UCL Working Papers in Linguistics* 2, pp.113-143, Department of Phonetics and Linguistics, University College London.

謝辞

本論文の作成にあたり、多くの方々によりお力添えをいただきました。まず、本論文の執筆およびその完成は指導教官である齋藤治之先生からいただいた貴重なご助言のおかげです。心より感謝申し上げます。

また、私を言語学の世界へと導いてくださったホブド大学の D. バトチュルーン先生や、本論文の調査、ネイティブチェックにご協力いただいた方々に心からお礼を申し上げます。そして在学中にはモンゴル国の国家基金から奨学金をいただき、京都大学からは学費の負担を和らげていただきました。それらすべてが研究する上での支えとなりました。また、京都大学、特に人間環境学研究科の大学院係および図書館の皆さんにも大変お世話になりました。厚くお礼を申し上げます。最後に、大学院での生活を有意義なものにしてくれた齋藤研究室の院生諸氏およびゼミナールの参加者の皆さんにも感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

2014 年 11 月

Mandakh Oyunchimeg